

真宗

〈教団の動き〉

木越渉氏が宗務総長に再任

―第78回宗議会・第75回参議会(臨時会)招集―

第2次木越内局発足

「連統50カ年経常費御依頼額完納寺院表彰状及び記念衣体贈呈式」執行

「第8回「教勢調査」全体報告学習会」開催

〈お知らせ〉

寺院・教会定期直送便の発送について

子どもお斎冥加金の改定について【2026年1月改定】

大谷専修学院の2026年度学生募集中止について

真宗本廟における法臈加算の対象となる法要

(2026年1月～12月)

〈特集〉

新宗議会議員の顔ぶれ

2025年総目次

12月号

2025(令和7)年



阿弥陀堂から御影堂に渡る造合廊下

真宗

12月号

第1461号

樹心佛地「変えてはならぬもの」・「変わらねばならぬもの」…… 2
教団の動き …………… 3

木越渉氏が宗務総長に再任
—第78回宗議会・第75回参議会(臨時会)招集—
第2次木越内局発足
「連続50ヵ年経常費御依頼額完納寺院表彰状及び記念衣体贈呈式」執行
「第8回「教勢調査」全体報告学習会」開催

お知らせ

寺院・教会定期直送便の発送について…………… 7
子どもお斎冥加金の改定について【2026年1月改定】…………… 8
教師養成のための教科書
「改訂 教団のあゆみ—真宗大谷派教団史—」の誤記について… 12
大谷専修学院の2026年度学生募集中止について…………… 16
教行信証(坂東本) カラー影印本 申込受付中…………… 17
真宗本廟における法臘加算の対象となる法要(2026年1月~12月)… 18

特集

新宗議会議員の顔ぶれ…………… 20
宗派公式ウェブサイト『真宗』誌の内容を閲覧できます………… 37

各種連載

ハンセン病はいま(334)…………… 38
青少年センターニュース…………… 40
児童教化のページ(595)…………… 42
今月のお寺(230)〈富山教区淨蓮寺〉「夏の本堂に響く子どもの声
—笑顔あふれる淨蓮寺子ども会—」…………… 44

ご案内・要項

総合相談室…………… 45
真宗本廟奉仕・縁・諸研修報告【上山報告】…………… 51
2025年度「元気なお寺づくりオンラインセミナー」参加者募集… 52
2025年度人権週間ギャラリー展 御同朋からの問いかけ…………… 53
学階請求論文提出要項…………… 54
2026年「教師資格取得準備学習会」募集要項…………… 55
2026年 春期教師試験検定要項…………… 56
2025年度下半期 教師修練【前期】【後期】(教師補任)実施要項… 58
2025年度一般声明講習会「儀式・声明の心得」開催要項…………… 60
2025年度 登高座作法講習会開催要項／御伝鈔作法講習会開催要項… 61
(広告)月刊『同朋』12月号—特集「異なりを生きあう翻訳」…… 62
真宗本廟奉仕のご案内…………… 63
現在受付中の募集・開催要項等…………… 63
真宗教化センター しんらん交流館のご案内…………… 64
大谷祖廟(親鸞聖人御廟所)のご案内…………… 64
真宗本廟 参拝接待所のご案内…………… 66
真宗本廟収骨・読経・帰敬式受付時間表(1月~2月)…………… 68
2025年総目次…………… 70

公示・告示・任免等

…………… 75

新刊のご案内

近日
発売予定

語り継がれる「わけ」がある お伽話の深解釈

お坊さんと読む

お伽話

—浦島太郎と桃太郎—

林 暁宇 著 百々海 真 解説

浦島太郎はなぜお爺さんにされたのか。

桃太郎の「鬼」とは一体誰だったのか…?

老人たちのいだいてきた後悔・教訓・知恵、そして「お念仏」の大切さ——。実は「お伽話」は、寝物語に子や孫に伝えられてきた、大切なメッセージで溢れていた。本書は大人も子どもも、誰もが知る「お伽話」に親しみながら教えにふれられる一冊。

「開けて悔しき玉手箱」「桃太郎の念仏」の2編を収録。

文庫判／124頁(予定) 定価：770円(税込)



東本願寺出版

TEL:075-371-9189まで

詳しい書籍情報・試し読みは
東本願寺出版

検索

当派の寺院・教会からのご注文は2割引となります。

『歎異抄』成立の謎

塩谷菊美『歎異抄』はいくつとて、誰が、何のために作成したのか、多くの見解があるなかで、特異な地位を占める『歎異抄』その成立の真相に迫る。三三〇頁

三木清「親鸞」

法蔵館文庫

なぜ鬼は虎皮のパンツをはくのか

仏教の三逆ウラ話

石井公成『仏教にまつわる様々なエピソードを通して、その意外にもユルユルと奥深い面白さを専門家が紹介。思わず誰かに話したくなる逸話が満載!』一六五〇円

独語集「校訂版」

蜂屋賢嘉代著 著者が日常で思い感じたことを書きとめた独白集。自らを深く省みる「内観」という営みに基づいて、具体的かつ丁寧に掘り下げた著書。一、一〇〇円

重版

改訂版 蓮如上人帖外御文ひととき

リニューアル

ひとりでふたり…お正月を迎える

松本智量『暮らしたなかで気軽に仏教にふれるをコンセプトに身近にあるさまざまなことから真宗の教えにふれる開法誌。今号より装いも新たに新連載3本。』一三六円

2026年 年のぼのカレンダー

東井義雄『谷内正遠文書』スジユルの書き込み、便利な大判サイズ。一五〇円

年のぼのカレンダー解説書
「年のぼ」の味を大いに
東井義雄著 一〇〇円



〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458



法蔵館

https://pub.hozokan.co.jp 新刊メール配信中!
表示価格税込 お買上16,500円(税込)以上送料無料

教団の動き



木越渉宗務総長挨拶

九月に行われた宗議会議員総選挙に伴い、宗議会(臨時会)が十月十五日、参議会(臨時会)が十六日に招集され、宗憲に基づき内局が総辞職し、宗務総長指名が行われました。十五日に始まった宗議会では、開会に先立



投票の様子

ち、改選に伴う正副議長選挙が実施されました(本誌六頁)。十五日・十六日にそれぞれ両会において

成立の会議、開会式が行われ、大谷暢裕門首から挨拶がありました。その後開かれた両会の本会議では、まず参议会(宗議会)・常務会(参議会)の報告がなされ、委員会委員の選出が行われました。

宗議会では出席議員六十一名中、木越渉氏四十六票、金子光洋氏十四票、白票一票。参議会では出席議員六十一名中、木越氏五十三票、金子氏八票。ともに過半数を占めた木越渉氏が宗務総長に指名されました。

木越氏は、二〇〇六年に宗議会議員に当選し現在六期目。二〇二一年十月より宗務総長に就任し、今回再任となりました。

十六日の両会日程終了後には、宗務所議場にて木越宗務総長の記者会見が行われ、宗務総長としての今後の抱負等が語られました。



記者会見に臨む木越宗務総長

続いて、木越渉宗務総長から挨拶があり、今日までの内局の取り組みと、支援への御礼が述べられました。

十六日の両会本会議において、「宗務総長指名の件」が上程され、宗務総長指名の投票に入り、

第78回宗議会・第75回参議会(臨時会)招集

【10/15・16】

木越渉氏が宗務総長に再任

教団の動き

ある数百年続く老舗の当主は「変えてはならないことはただ一つ、良いものを提供すること」であり、「そのほかに変えてはいけないことは何一つない」と述べられたという。私たちに与った一つの「変えてはならぬもの」とは宗祖が開顕せられ私たちにまで届けられた本願念仏のみ教えを、世代を超えて相続してゆく営みであり、そのほかには「変えてはならぬもの」はないのであろう。

現在、行財政改革の一環として新たにいくつもの委員会・宗務審議会が設置され、それぞれの課題に取り組んでいる。宗門の在り方が時代社会の変化に対応して変わろうとしている。宗門の在り方も変わらねばならないが、宗門に属する私たち一人一人の意識こそが「変わらねばならぬもの」ではないだろうか。

今般、宗議会議員選挙が実施され新たな議会在が構成された。新たな議会在において「変えてはならぬもの」を相続するために「変わらねばならぬもの」があることを念頭に活発な議論が行われることが願われる。

真宗本廟では最も大切な御仏事、「御正忌報恩講」がお勤まりになり、各地の寺院でも報恩講が勤まる季節である。既にお勤めされた皆さんはどのような感想をお持ちだろうか？

二〇二四年一月一日に実施された「第八回教勢調査」の報告書が全寺院に送付された。また、九月十七日には第八回教勢調査の「全体報告学習会」が行われ、インターネットでも配信された。

「全体報告学習会」の中で講師の一人から「大谷派の教勢は停滞ではなく衰退の局面にある」との厳しい指摘がなされ衝撃を受けたが、各寺院の報恩講についても規模の縮小が数字に表れている。このままでは宗門の使命である「次世代に本願念仏のみ教えを手渡す」ことが危ぶまれる状況ではないかとの危機感を覚えた。

「変えてはならぬもの」・「変わらねばならぬもの」

樹心佛地

教団の動き



前列左より、木越渉宗務総長、大谷暢裕門首、古賀堅志参務
後列左より、佐々木高参務、長峯顕教参務、
豊田普善参務、山田孝彦参務

木越渉氏 宗務総長指名挨拶(要旨)

私は先に宗務総長の指名を受けた時に、「simple but effective」と申し上げました。改革する時は、できるだけ構造としてはシンプルな方がより効果が出る。あまり複雑だと欠点が見えない、シンプルの方がいろんな声を頂戴して直していける。そういう可能性があるんだということを申し上げました。それからいよいよ改革の議論が始まる時に「on the same page」、同じページに立つという言葉を申しました。同じ土俵に立つとともに議論してまいりましょうと。

そして今は、「触光柔軟」、第三十三願が大事だというふうに思っております。「我が光明を蒙りて其の身に触れん者、身心柔軟にして、人天に超過せん」——これは金子大榮先生が、念仏者の内生活として挙げられている願文です。念仏にふれると心が柔らかくなる。つまり、握り込んでいるものを振り払われる。握り込んでおるものがそれでいいのかということ、如来に尋ねられる。そこで身が正される。

我々には念仏があります。その念仏に絶対の信頼を置いて、決して剛直にならず、握り

込まず、これでいいのかということを問ひながら、ベストではなくて、毎日よりベターな方向を皆様とともに見定めてまいることができればということをおっしゃっています。

心柔軟にして、改革を進めていく。ぶれないところはぶれない。しかし変えていくべきところは変えていく。軽やかに越えていく。こういう改革ができればと思っております。皆様のご支援がなければ不可能なことです。また議会とともに、内局一同懸命に働きますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

内局就任式



十月十六日には門首による認証が行われ、木越渉氏が正式に宗務総長に就任しました。また、二十日には組局に伴い新内局の就任式が行われ、木越宗務総長から挨拶がありました。

宗議会 大谷暢裕門首挨拶



大谷暢裕門首挨拶
(15日 宗議会開会式)

本日ここに、第七十八回宗議会臨時会が招集され、議員各位には挙って参集されましたこと、まことにご苦勞様です。

さて、今宗会は総選挙後、初めての宗議会招集となります。

新たに議員となりました方々をはじめ、各位、宗門存立の本義である同朋社会の実現に向け、その本分を果たされますよう日々のご活躍を切望します。

今宗会におきましては、宗務総長の指名という重要案件が予定されておりますことから、十分に公議公論を尽くされることをお願いいたします。

第二次木越内局発足

木越渉宗務総長は十月二十日付で組局を行い、新内局が発足しました。

宗務総長 木越 渉(きこしわたる)

〔真宗大谷学園理事長〕

金沢教区第十一組光専寺住職(石川県かほく市)。一九五七(昭和三十二)年生六十八歳、宗議会議員六期目。

古賀 堅志(かねし) 参務

□担当部門…教育部、研修部(推進員室、帰敬式実践運動推進事務局)、親鸞仏教センター

九州教区大牟田三池組浄泉寺住職(福岡県みやま市)。一九六一(昭和三十六)年生六十四歳、宗議会議員三期目。第一次より留任。

長峯 顕教(ながみねあきのり) 参務

〔財務長〕

□担当部門…大谷祖廟事務所(大谷祖廟及び東大谷墓地に関する総合整備事業事務局)、出版部(聖教編集室)、財務部(財産管理室)

九州教区大分東組西福寺住職(大分県大分市)。一九六七(昭和四十二)年生五十八歳、宗議会議員四期目。第一次より留任。

佐々木 高(ささき たかし) 参務

〔行財政改革推進本部長〕

□担当部門…総務部、内事部、行財政改革推進本部

能登教区第十三組長福寺住職(石川県七尾市)。一九五六(昭和三十一年)年生六十九歳、宗議会議員三期目。第一次より留任。

豊田 普善(とつた ひろよし) 参務

〔儀式指導研究所長〕〔首都圏教化推進本部長〕

□担当部門…本廟部(儀式指導研究所、組織部(国際室)、東京宗務出張所・首都圏教化推進本部)

富山教区第十二組照善寺住職(富山県魚津市)。一九五六(昭和三十一年)年生六十九歳、宗議会議員四期目。第一次より留任。

山田 孝彦(やまだ たかひこ) 参務

〔解放運動推進本部長〕〔青少年センター長〕

□担当部門…企画調整局、解放運動推進本部(女性室)、青少年センター、教学研究部

福井教区第十組唯稱寺住職(福井県坂井市)。一九六六(昭和四十一年)年生五十九歳、宗議会議員三期目。第一次より留任。

※年齢は十月二十日現在

教団の動き

第7期「教区及び組の改編に関する中央委員会」が報告書を提出

〔10/7〕

十月七日、教区及び組の改編に関する中央委員会（以下、「中央改編委員会」）の任期満了にあたり、坂本敏朗委員長から木越渉宗務総長に「第7期「教区及び組の改編に関する中央委員会」報告書」が提出されました。

二〇二二年十月に発足した第七期中央改編委員会では、「十七教区改編試案」の具現化に向けて各新教区準備委員会への助言・指導等の取り組みに邁進しました。その結果、今期において第二期改編教区として新たな五教区が発足し、「能登教区・金沢教区」を残すところとなりました。

今回提出された報告書は、「次世代に手渡す宗門の将来像」の構築に向け、改編関係教区にとどまらず、全ての教区において教区・組の在り方やその将来像を積極的に語り合う場が開かれていくことを願いつつ、今期における宗務改革たる教区及び組の改編のあゆみと課題を取りまとめ作成されました。



木越宗務総長に報告書が手渡された

報告書には改編関係教区の協議の進捗状況や第七期中央改編委員会における取り組み等がまとめられている。他、新教区発足後の課題の分析として二〇二〇年七月に発足した岐阜高山教区、九州教区へ委員が出向し教区役職者との懇談を通じて意見交換を行った内容や、教区改編によって見えてきた課題、さらには行財政改革の進捗状況を見定めつつ第三期改編試案の作成を進めていく必要性等が提言されました。

◆「第7期「教区及び組の改編に関する中央委員会」報告書」は本誌一月号掲載予定。

お知らせ 寺院・教会定期直送便の発送について

真宗大谷派寺院・教会の皆様へお届けしております『真宗』・『同朋新聞』につきまして、**毎月28日までに**お手元に届くよう発送作業を行っております。

土曜・日曜・祝日の関係や物流の状況により、月によって到着日が前後しますが、ご了承くださいますようお願いいたします。

東本願寺出版

宗議会 正副議長が選出される

十月十五日、宗議会では改選に伴う正副議長選挙が行われ、議長に花園兼有議員、副議長に坂本敏朗議員が選出されました。



花園兼有宗議会議長

名古屋教区第二十六組光園寺住職。宗議会議員三期目。

坂本敏朗宗議会議副議長

金沢教区第四上組間成寺前住職。宗議会議員三期目。

委員会名簿

■参与会員並びに補充員
(カッコ内は補充員)

2025年10月16日選出

花園兼有
坂本敏朗
大橋秀暢（北畠顯章）
東野文恵（酒井一明）
那須信純（能郷勇樹）
西受秀文（篠塚榮祐）
菊池 浩（内藤門亮）
井上 裕（伊吹恵鐘）
金子光洋（浜口和也）

岩寄 徹（渡邊 学）

■宗議会同朋社会推進委員会 ◎は委員長

2025年10月16日選出

◎尾畑英和 内藤門亮 西受秀文
永崎 暁 平等良香 水谷正人
一郷 真 石田悠晃 木村 慎
藤井昭裕

■常務会議員補充員 2025年10月16日選出

中山恵津子（山田富士雄常務会員の補充員）
寺本修一（中嶋ひろみ常務会員の補充員）

組織部

「連続50カ年経常費御依頼額完納寺院表彰状及び記念衣体贈呈式」執行

〔10/3〕

十月三日、御影堂において「連続五十カ年経常費御依頼額完納寺院表彰状及び記念衣体贈呈式」が執り行われました。

この式典は、法義相続・本廟護持を願いとして経常費の御依頼を行う中で、五十カ年の永きにわたり連続して完納された寺院・教会及びそのご門徒に謝意を表するために行われています。本年は、二〇二四年度までに経常費を五十カ年連続して完納いただいた



御影堂で式典が行われた



表彰状及び記念品の贈呈

たるご懇念に謝意が表され、引き続き内局より表彰状及び記念衣体並びに記念品をそれぞれ贈呈しました。

贈呈後、木越渉宗務総長の挨拶では、五十カ年の永きにわたり宗門を支えてくださったことに「自身も住職の一人として大変なことだ」と痛感している。ご門徒の協力なくしてはできないことである」と深い敬意が表されました。また、先日開催されたロサンゼルス別院輪番就任式に出席した所感として「念仏の教えを次世代に伝えるために尽力

教団の動き

「是旃陀羅問題学習テキスト」 講習会」開催

九月十七日から十九日にかけて、真宗本願奉仕施設において、昨年度に引き続き「是旃陀羅」問題に関する取り組みの一つとして「是旃陀羅問題学習テキスト講習会」が開催されました。

この講習会は、学習テキスト「御同朋を生きて」を学ぶ中で、この問題の所在を明確に受けとめ、仏教の説く四姓平等と身分差別に



宮下氏による講義



全体究で学びを深める

対する批判に立ち返り、仏説に背き差別を助長してきた宗門と僧侶の罪責をかえりみて、あらためて「仏説観無量寿経」序分をたずねていくことをねらいとしています。

講習は、テキスト編集に携わった宮下晴輝氏（前教学研究所長）をはじめ、解放運動推進本部本部委員と教学研究所研究職員が講義等を担当し、日程の中で「御同朋を生きて」を読み通すことを基調として

解放運動推進本部

〔9/17/19〕

企画調整局（寺院活性化支援室） 「2025年度グッドデザイン賞」 を《対話型寺院運営ボードゲーム》 「別院会議」が受賞

真宗教化センター寺院活性化支援室が、別院活性化プロジェクトの一環として企画・制作した《対話型寺院運営ボードゲーム》「別院会議」が、「二〇二五年度グッドデザイン賞」（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）を受賞しました。

「別院会議」は、別院・寺院の持続可能な運営について議論するシリアスボードゲーム。三名から六名の参加者が架空の別院の運営メンバーとなり、二十四枚の行動カード



ド（例…SNSを開設する）を道しるべにチームで方針を議論・決定することで、地域における別院の在り方や方向性を探る内容となっています。

グッドデザイン賞の審査員からは、「従来の関係者内の議論だけでは抜にくかった多様な関係者の視点を取り込み、意思決定による影響を実感できる体験デザインへと落とし込んでいる点も大きな意義を持つ」とのコメントが寄せられました。

◆審査委員のコメント全文を含むグッドデザイン賞ウェブサイトでの紹介ページはこちら→

なお、「別院会議」は、全国の教務所・別院に配布されています。本ゲームで使われる「別院」という言葉を「寺院」と置き換えることで、一カ寺における運営の考え方や進め方のヒントも得られるように作られており、受賞を機縁として、教化委員会や諸研修のメンバーでの実施、職員研修等の他、一カ寺を対象とした寺院活性化の取り組みにおいて、さらなる活用が期待されます。

◆「対話型寺院運営ボードゲーム」
「別院会議」について詳しくはこちら→



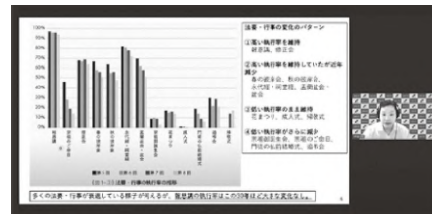
企画調整局

〔9/17〕

「第8回「教勢調査」全体報告 学習会」開催

九月十七日、真宗大谷派の僧侶・門徒及び職員を対象に、第八回「教勢調査」全体報告学習会をオンラインにて開催しました。

報告学習会では、「第八回「教勢調査」報告書」の内容について、宗派全体で理解を深めることを目的に、執筆者より各章の分析結果と、そこから得られる示唆について報告されました。



オンラインで説明する伊達平和氏

開会にあたり木越渉宗務総長から、「急激に変化する時代社会において、現在宗門の課題となっ

る、転居門徒との関係性構築の課題、後継者不足や寺院の解散・合併の可能性に関する課題」といった大きな課題を、宗門に責任を持つ一人一人の

として受け止め、一人の念仏者の誕生に資する教化推進のた



会場で説明する堀兼大明氏

回の調査結果が示すのは、教勢の停滞ではなく衰退である」と指摘された厳しい宗門状況を概観する一方、報恩講の参詣人数増加が期待できる教化活動や、転居門徒との関係性維持に有意にはたらく取り組みが具体的に示されるなど、寺院の今後の可能性にも言及があり、教化施策の今後の方向性を考える機縁となりました。

今後は、各教区において教区報告学習会を開催するとともに、宗務役員を対象としたデータ活用講習会を実施するなど、「教勢調査」結果の活用を促し、一カ寺の活性化に資する教化推進の取り組みが進められます。

◆学習会の様子は、真宗大谷派僧侶・門徒を対象にアーカイブ動画を公開しています。下記より視聴ください（※関係者への限定公開につき、URLの扱いにはご注意ください）。



お知らせ 子どもお斎冥加金の改定について【2026年1月改定】

昨今の原材料価格等の高騰を受け、お斎冥加金を2026年1月より、子ども（対象：8歳くらいまで）お一人1,000円から1,500円に改定します。

なお、大人については冥加金4,000円から変更はございません。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

【お問い合わせ】本願部 参拝接待所 TEL：075-371-9210（受付時間：9時～17時）

教団の動き

大谷祖廟事務所

〔9/27〕28

大谷祖廟報恩講厳修

— 宗祖の教えを確かめ合う機縁に —

九月二十七日から二十八日にかけて、宗祖親鸞聖人の御廟所(墓所)である大谷祖廟において、報恩講が厳修されました。

二十七日には、連夜法要が勤まり、引き続き御俗姓、御伝鈔が拝読されました。また、二十八日は門首出仕のもと、満堂のなか日中



四衛氏より法話が行われた

法要が勤まり、続いて四衛亮氏(岐阜高山教区不遠寺)より、「必ず衆生を悞らざるなり」という講題のもと法話がありました。四衛氏は

「必ず衆生を悞らざるなり」は、親鸞聖人が大切にされた言葉で、阿弥陀如来がすべての生きとし生けるものを、ただの一人も見捨てることなく、必ず救い導くという「本願念仏」を表している。現代社会に生きる私たちは、漠然とした不安や日々の苦悩に直面しており、そのような私たちを必ず救い導くのが、阿弥陀如来の本願である」と話されました。また、報恩講期間中、参拝者へ昨年と同様に期間限定のお茶席も行われ、百名を超える方にお越しいただき、「心が落ち着く時間を

本廟部

〔10/11〕

「名勝 涉成園で愉しむ夕暮れの虫の音会」開催

— 渉成園 自然共生サイト 認定記念イベント —

二〇二四年に渉成園が全国の寺社及び名勝庭園として初めて環境省「自然共生サイト」に認定されました(本誌二〇二四年十二月号)。これを記念し、十月十一日に、秋の夕暮れに渉成園の豊かな自然と文化を五感で体感できるイベント「名勝 渉成園で愉しむ夕暮れの虫の音会」が開催されました。

イベント冒頭では、岩井大輔氏(日本生態



お話に耳を傾ける参加者

系協会統括主任研究員)をお招きし、太田陽介氏(植彌加藤造園庭師)、中村悠財務部主事を交えた三名によるトークイベントを実施。岩井氏には、秋に鳴く虫の種類や生態、その鳴き声を持つ意味、そして京都で平安時代から続く虫の音を楽しむ文化について分かりやすく解説いただき、渉成園

の生物多様性の魅力と、自然と共生する庭園の奥深さを参加者に深く感じていただく機会となりました。トークイベント終了後は参加者全員で園内を散策。岩井氏や太田氏の解説を交えながら、夕暮れから夜へと移り変わる園内で、秋の澄んだ虫の音色をじっくりと堪能しました。

※「自然共生サイト」とは、「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を国が認定する制度。渉成園は主に

①在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場としての価値

②希少な動植物種が生育生息している可能性が高い場としての価値

の2点が評価され認定に至りました。

共通テーマ「真宗の教誨」のもと、サブテーマを「真教寺・沖繩教誨の歴史と課題」「沖

繩差別の現状と課題」として、二〇二六年四月の沖繩での研修会開催に向けて、真宗大谷

2025年度「真宗大谷派教誨師・篤志面接委員会委員会」開催

〔9/18〕

九月十八日、宗務所を会場に二〇二五年度「真宗大谷派教誨師・篤志面接委員会委員会」が開催されました。

委員会では、二〇二四年度事業報告・決算書、二〇二五年度事業計画案・予算案、会則の一部改正等が提案され、慎重審議の結果、全ての議案が全会一致で可決されました。



北畠順副会長による挨拶

教誨師・篤志面接委員会では毎年真宗本廟と地方で交互に「真宗大谷派教誨師・篤志面接委員会研修会」を開催しています。今年度は例年の

教育部

2025年度「真宗大谷派保護司会委員会」開催

〔9/10〕

九月十日、宗務所を会場に二〇二五年度「真宗大谷派保護司会委員会」が開催されました。

委員会では、任期満了に伴う役員の互選が行われ、新たに第五期役員が選出されました。引き続き、二〇二四年度事業報告・決算書、二〇二五年度事業計画案・予算案等が提案さ

進められました。受講者は、教区における取り組みを推進するスタッフをはじめ、教区・組における取り組みの中軸となる者が教区から選定されて参加しました。今回は教区駐在教導四名を含む

十七名が参加。章ごとに輪読・講義・全体研究を行い、テキストが作成された経緯を踏まえた全体概要と、各章の要点を押さえ直し、本問題に関する学びを深めました。この講習会での学びを受講者が各教区で共有すること

で、教区及び組における取り組みを推進し、さらなる全宗門的な課題共有を目指しています。なお、今年度は同内容での講習会を二月及び四月にも一回ずつ開催する予定です。

常任委員

北 秀継 委員(北海道区第四組大願寺)
蒲 信一 委員(東京都区三浦組浄栄寺)
森本栄史 委員(小松大聖寺教区第二組願成寺)
水野 尚 委員(名古屋教区第二十一組光西寺)
直林法廣 委員(大阪教区第八組妙福寺)
松尾英城 委員(九州教区福岡組徳永寺)
直林法廣 委員(大阪教区第八組妙福寺)

会計

直林法廣 委員(大阪教区第八組妙福寺)

会長

日下部求 委員(福井教区第四組浄明寺)

副会長

園村義誠 委員(東北教区青森県第一組來生寺)
日野雅範 委員(山陽四国教区第四組善覺寺)

教誨師・篤志面接委員会

志面接委員会は毎年真宗本廟と地方で交互に「真宗大谷派教誨師・篤志面接委員会研修会」を開催しています。今年度は例年の

〈お詫びと訂正〉

本誌十一月号において、左記の通り誤りがありました。訂正いたしますとともに、謹んでお詫び申し上げます。

〔訂正箇所〕真宗本廟報恩講日程表
十一月二十一日(金) 門徒感話(十六頁)
〔誤〕坂井至道氏(正) 坂井至通氏
十一月二十五日(火) 門徒感話(十七頁)
〔誤〕野崎豊昭氏(正) 野崎豊昭氏

教団の動き



佐々木氏による講義

八月二十七日から二十九日まで、「建学の精神に学ぶ―真宗と心―」のテーマのもと、加盟校の教職員が研究授業や講義を通して互いに研鑽を重ね、宗教教育の学びを深めることを目的に、第四回「真宗教育研修会」を開催しました。本年は、両館大谷高等学校を会場とし、加盟校十五校から二十六名が参加しました。初日は、同校にて開会式・オリエンテーションの後、学校紹介が行われました。引き続き全体座談にて参加者の自己紹介を行い、その後、加盟校の生徒が作成した動画の放映が行

なりました。二日目は、斎藤武治氏(両館大谷高校宗教科教諭)による研究授業、引き続き合評会が行われました。午後には、佐々木馨氏(北海道教育大学名誉教授)より「命の教育―日本人の死生観―」を講義に講義がありました。氏は、日本人の死生観を歴史から読み取っていき、死と向き合っていることの重要性を力強く訴えました。講義後には現地学習として、両館別院で現在修復中の本堂を見学。その後千歳支院で小町保雅輪番より別院の歴史を紹介いただき、夕事参行、感謝を行いました。日程の最後には交流会を開催し、参加者の親睦を深めました。

最終日は、佐藤智行氏(学校連合会運営委員/大谷中学校・高等学校「大阪」宗教科

真宗大谷派学校連合会 第4回「真宗教育研修会」開催

参加した教区門徒会員からは、「門徒一人ひとりの思いが本山に届けられるよう、本学習会のような参議会議員との意識疎通をはかる機会が全国にも広がってほしい」との声が多く寄せられました。

なお、本学習会については、今後も継続的に行われることが決まっております。第三回学習会を年度内に開催する予定です。

九州教区

第2回「九州教区教区門徒会 学習会」開催



21名の教区門徒会員が参加

九月三十日、九州教務所を会場に「第二回九州教区教区門徒会学習会」が開催されました。本学習会は、九州教区参議会議員一同により発案され、「九州教区の教区門徒会員として、宗門に関する様々な問題や事柄についての学びを深めるとともに、特に門徒を取り巻く教区の現状と課題について、意見交換・情報共有を行い、九州教区の未来を創造すること」を趣旨として、昨年度、第一回目を開催しました。昨年度参加した会員からは、継続的な学習会の開催を希望する声が多く上がり、このたび、二

過ごせました」との声もありました。一年に一度、お迎えする大谷祖廟の報恩講。お念仏の教えに生きた先達が伝えられた親鸞聖人の教えが今日まで伝承され、あらためて

共にお念仏の教えを確かめ合う機縁となりました。

教師養成のための教科書『改訂 教団のあゆみ―真宗大谷派教団史―』の誤記について

2025年6月28日に発刊しました、『改訂 教団のあゆみ―真宗大谷派教団史―』内の表記に誤りがありました。

すでに本書をご購入いただいた方には、ご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。ここに、以下のとおり訂正いたしますので、ご確認いただきますようお願いいたします。なお、本内容については宗派ウェブサイトでも掲載いたしますとともに、今後新たに誤記が見つかった際は、宗派ウェブサイトにてお知らせいたします。

また、内容に関してご意見(誤記など)がございましたら、**教育部**(TEL:075-371-9193)までご連絡いただきますようお願いいたします。

※2025年10月31日現在(正誤表は宗派ウェブサイトからダウンロードいただけます)

頁	行	誤	正
109	3	呼応するもであった	呼応する <u>もの</u> であった
134	10	寺院師弟を主な対象	寺院子弟を主な対象
149	8	「教学刷新の教書」(昭和二年八月)	「教学刷新の教書」(昭和 <u>一</u> 年八月)
150	11	さらに <u>同年</u> に	さらに昭和 <u>一</u> 六年(一九四一)に

お知らせ 第60回「京の冬の旅」大寝殿・宮御殿・鐘楼 特別公開

毎年冬に開催される京都市・京都市観光協会主催のキャンペーン「京の冬の旅」において、「大寝殿」「宮御殿」を伯侶が案内します。また、修復後初めて鐘楼の見学も実施します。この機会にぜひご参拝ください。

◆「大寝殿」「宮御殿」「鐘楼」特別公開

期間 2026年1月9日(金)～3月18日(水) 毎週水曜～土曜

※1月15日・24日、2月5日・12日・21日・27日、
3月4日・6日・12日は休止

時間 各日9時～(1日1回・所要時間約80～90分)

料金 2,700円

※事前予約制(予約は「京の冬の旅」特設サイトにて)

詳細・予約は「京の冬の旅」特設サイトをご覧ください→



宮御殿 冬の間



鐘楼

教団の動き

災害救援本部より

■「令和6年能登半島地震」ボランティア支援センターのご案内

能登教務所に設置している「ボランティア支援センター」では、宗派関係者のボランティア活動に対して、宿泊場所の提供・活動経費の助成等の支援を行っています。

被災地域では息の長い支援を必要としています。能登教区でのボランティア活動を希望される方は、ボランティア支援センターにお問い合わせください。

※宿泊・活動助成等の詳細はボランティア支援センターホームページをご覧ください。

〒926-0816 石川県七尾市藤橋町テ9-1 [能登教務所内]

TEL: 070-1860-6010 (専用電話) FAX: 0767-53-0057 [能登教務所]

E-mail: nvsc@higashihonganji.or.jp



ボランティア
支援センター
ホームページ

■救援金のお願い

宗派では、このたびの「令和6年能登半島地震」に対する救援金の勧募を行っております。皆様からの温かいご支援をお願い申し上げます。

【救援金口座】 郵便振替口座番号 00920-3-203053

【加入者名】 真宗大谷派 ※通信欄に「令和6年能登半島地震」とご記載ください。



【令和6年能登半島地震指定救援金総額】

248,023,691円 (11月3日現在)

※宗派救援金口座及び境内救援金箱に寄せられた救援金の総額

＜最新情報はこちら＞

宗派公式
ウェブサイト→



宗派災害情報
公式X→



公益財団法人全日本仏教会では、法律や税金に関する寺院向けの相談窓口を設置しております。ご寺院の運営に、是非ご活用ください。

■寺院のための無料法律相談■

日時：原則毎月第2・4木曜日

13時～(要予約)

場所：明照会館(東京都港区芝公園4-7-4)

TEL: 03-3437-9275

(全日本仏教会 社会・人権部)

■税金なんでも相談室■

お電話にてご相談をお受けしております(要予約)

TEL: 03-3437-9275

(全日本仏教会 財務部)

詳しくは、全日本仏教会ホームページ(https://www.jbf.ne.jp/)をご確認ください。

全日本仏教会

検索



公益財団法人
全日本仏教会
WFB(世界仏教連盟)日本センター

関係学校が真宗本廟研修を行う

九月に宗派学校連合会加盟校による真宗本廟研修が行われました。
実施校は左記のとおりです。

〔研修〕

◇飯田女子高等学校 通信制課程

二十三名／九月二日～三日

◇飯田女子高等学校 全日制課程 一年生

一二八名／九月九日～十一日



伊那西高等学校(9月30日～10月1日)

◇伊那西高等学校 一年生

一五名／九月三十日～十月一日

「大谷中学校・高等学校創立150周年記念式典」開催

十月四日、京都国際会館にて大谷中学校・高等学校(京都)の創立一五〇周年記念式典が開催されました。

一五〇周年にあたり、初代校長である清沢満之氏が同校の建学の精神として親鸞聖人の主著『教行信証』より選り取った「樹心」をテーマとし、生徒・教職員から募集した

〔10/4〕



乾文雄校長による挨拶

「問い、気づく。問い、築く。」がキーワード。動画コンテストをはじめ、卒業生

また、参加者との交流や研究授業を通して、大谷派の学校が同様の願いを持っていることの再認識ができ、毎年参加をしたいと思える研修会だった」との声がありました。

教諭)より、テキスト「生まれる 生きる 生かされる」(東本願寺出版・二〇二五年)を使用し、実践例、発刊の願いを参加者と共に有しました。引き続き、研修会全体に関する班別座談、各班報告の後、乾文雄氏(学校連合会副会長)より総括が行われ、研修会は終了しました。

また、参加者との交流や研究授業を通して、大谷派の学校が同様の願いを持っていることの再認識ができ、毎年参加をしたいと思える研修会だった」との声がありました。

書籍への文字入れ印刷 受付中!

法要や行事の記念品に、ぜひご活用ください! 東本願寺出版発行書籍の表や裏のご指定のところに、文字を印字することができます。

詳しくは東本願寺HP「各種記念品の取り扱い」からご覧ください⇒

〈お問い合わせ〉東本願寺出版
[books@higashihonganji.or.jp]



教行信証(坂東本) カラー影印本 申込受付中

このたび、『坂東本 教行信証』カラー影印縮刷本(東本願寺出版)の発行に際して、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌の記念事業として2005年に製作された、高精細カラー印刷を用いた『教行信証(坂東本)』カラー影印本(原寸大)を、あらためてお求めになる声が寄せられました。

そこで、その声にお応えして本山で大切に保管しておりました最後の30部を頒布いたします。

これが最後の機会となりますので、ぜひともお申込みください。

残18部
(11月6日現在)



受付期間：2025年10月1日から2026年6月30日まで【申込先着順】

懇 志 金：580,000円以上

申込方法：①お名前、ご住所、お電話番号をFAXまたはメールにて送信ください。なお、件名として「教行信証(坂東本) カラー影印本申込」と記載ください。

②財務部から振込先等ご案内をお送りいたします。

③振込確認後、送付いたします。

注意事項：領収書は発行いたしませんのでご了承ください。

金融機関発行の振込明細をもって領収にかえさせていただきます。

お届けまでに2ヵ月ほどお日にちをいただく場合がございますことご容赦ください。

【お問い合わせ】

〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上ル常葉町754 真宗大谷派宗務所 財務部
TEL: 075-371-9186 FAX: 075-371-9195 mail: zaimu@higashihonganji.or.jp

【教育部】

大谷専修学院の2026年度学生募集中止について

大谷専修学院では、職員間の不和に端を発する問題により、学院の運営体制を整えるため、2025年度の学生募集を中止いたしました。現在、宗派と一部職員との間で裁判が係属中であり、学院設置者である宗派当局としては、現段階において、職員間の十分な協力体制のもと、入学される学生に安心して就学いただける環境を提供することが困難であると判断し、引き続き、2026年度(2026年4月入学分)も学生募集を中止いたします。

大谷専修学院への入学および学院での教師資格取得をご検討いただいている皆様方には、大変ご迷惑をおかけいたしますこと、深くお詫び申し上げます。

なお、大谷専修学院の他に、教師の無試験検定資格を付与する学事施設は、以下のとおりです。ご検討くださいますようお願い申し上げます。

＜2026年度入学者募集予定のある無試験検定資格を付与する学事施設一覧＞

- ・大谷大学(文学部・社会学部・教育学部・国際学部) [京都府京都市・修業年限4年]
- ・大谷大学大学院 [京都府京都市・修業年限2年(修士課程)、修業年限3年(博士課程)]
- ・大谷大学 科目等履修生 真宗大谷派教師資格取得コース [京都府京都市・修業年限2年]

※本コースの出願には、4年制大学(第2学年まで修了している場合は在学中でも出願可)、短期大学等を卒業、もしくは卒業見込みであること等の条件があります。詳細は宗派ウェブサイト記事に添付のPDFから大谷大学ホームページへのリンクがありますのでご確認ください。

- ・同朋大学(文学部・社会福祉学部) [愛知県名古屋市・修業年限4年]
- ・同朋大学大学院 [愛知県名古屋市・修業年限2年(修士課程)、修業年限3年(博士課程)]
- ・同朋大学 別科専修 [愛知県名古屋市・修業年限1年]
- ・九州大谷短期大学(仏教学科) [福岡県筑後市・修業年限2年]
- ・金沢真宗学院 [石川県金沢市・修業年限3年]
- ・大垣真宗学院(夏期集中) [岐阜県大垣市・修業年限4年]
- ・大垣真宗学院(土曜コース) [岐阜県大垣市・修業年限3年]
- ・岡崎真宗学院 [愛知県岡崎市・修業年限3年]
- ・名古屋真宗学院 [愛知県名古屋市・修業年限3年]

※各学事施設の就業年限及び学費等の目安は、宗派ウェブサイト掲載の記事(下記QRコード)からご覧ください。

※真宗学院は、一定の入学定員を満たさない場合開院しない学院もございますので、必ず当該学院へお問い合わせください。

※上記学事施設の他、毎年3月上旬、8月下旬には宗務所において教師試験検定が行われます。詳細は宗派ウェブサイト、『真宗』誌に掲載する要項をご確認ください。

宗派ウェブサイト記事はこちら



【お問い合わせ】教育部 TEL: 075-371-9193

期日	時刻	法要名	內衣
五月二十七日	十四時	宗祖聖人御命日	白服
五月二十八日	七時	〃	色直綴・五条
六月上旬	十四時	先門首御命日	白服
六月十三日	七時	〃	白服
六月十七日	七時	存如上人御祥月命日	白服
六月十八日	七時	〃	直綴・五条
六月二十四日	十四時	蓮如上人御命日	白服
六月二十五日	七時	宗祖聖人御命日	白服
六月二十八日	七時	〃	直綴・五条
七月十日	十六時	從如上人御祥月命日	白服
七月十一日	七時	〃	白服
七月十三日	七時	先門首御命日	白服
七月十四日	七時	〃	直綴・青袈裟
七月十五日	七時	孟蘭盆会	白服
七月十七日	十五時	〃	直綴・五条
七月二十四日	十四時	宣如上人御祥月命日兼蓮如上人御命日	白服
七月二十五日	七時	〃	直綴・五条
七月二十七日	十四時	宗祖聖人御命日	白服
七月二十八日	七時	〃	色直綴・五条
八月二日	十四時	證如上人御祥月命日兼先門首御命日	白服
八月十三日	七時	〃	白服
八月二十四日	十四時	蓮如上人御命日	白服
八月二十五日	七時	〃	直綴・五条
八月二十七日	十四時	宗祖聖人御命日	白服
八月二十八日	七時	〃	色直綴・五条
九月十二日	十四時	先門首御命日	白服
九月十三日	七時	〃	直綴・五条
九月十四日	七時	秋分彼岸会	白服
九月十五日	十四時	蓮如上人御命日	白服
九月十七日	七時	〃	直綴・五条
九月二十七日	十四時	宗祖聖人御命日	白服
九月二十八日	七時	〃	直綴・五条

期日	時刻	法要名	內衣
十月一日	十六時	眞如上人御祥月命日	白服
十月二日	七時	〃	直綴・青袈裟
十月四日	十六時	教如上人御祥月命日	白服
十月五日	七時	〃	直綴・五条
十月十二日	十四時	先門首御命日	白服
十月十三日	七時	〃	直綴・五条
十月十四日	十六時	巧如上人御祥月命日	白服
十月二十三日	七時	顯如上人御祥月命日(引上)	白服
十月二十四日	七時	〃	直綴・青袈裟
十月二十五日	十四時	蓮如上人御命日	白服
十月二十六日	七時	宗祖聖人御命日	白服
十月二十八日	七時	〃	色直綴・五条
十一月三日	十六時	達如上人御祥月命日	白服
十一月四日	七時	〃	直綴・五条
十一月十一日	七時	先門首御命日	白服
十一月十三日	七時	〃	直綴・青袈裟
十一月十四日	十六時	歌徳院殿御祥月命日	白服
十一月十五日	七時	〃	直綴・青袈裟
十一月二十一日・二十八日	十四時	御正忌報恩講	白服
十二月二日	七時	先門首御命日	白服
十二月十三日	七時	〃	直綴・五条
十二月二十四日	十四時	蓮如上人御命日	白服
十二月二十五日	七時	〃	直綴・五条
十二月二十七日	十四時	宗祖聖人御命日	白服
十二月二十八日	七時	〃	色直綴・五条
右記以外の毎日	七時	〃	白服
右記以外に別修法要を勤修する場合、変更されることがあります。			
注1	右記以外に別修法要を勤修する場合、変更されることがあります。		
注2	装束は各自準備ください。		
注3	右記以外の法要は、法鵬加算の対象ではありませんが、出仕される場合は、出仕願をあらかじめ所屬教区の教務所へ提出してください。		
注4	真宗本廟取寄・出仕される場合についても、注3同様に出仕願を提出してください(装束・直綴・五条袈裟)。		
お問い合わせ先	本廟部式務所 TEL07573719188		

期日	時刻	法要名	內衣
一月一日	献金後	修正会	白服
一月二日	七時	〃	色直綴・五条
一月三日	七時	〃	白服
一月四日	七時	如信上人御祥月命日	白服
一月六日	七時	修正会兼如信上人御祥月命日	白服
一月七日	七時	〃	直綴・五条
一月十二日	十四時	先門首御命日	白服
一月十三日	七時	〃	直綴・五条
一月十四日	七時	嚴如上人御祥月命日	白服
一月十五日	七時	〃	直綴・青袈裟
一月十八日	七時	覺如上人御祥月命日	白服
一月十九日	七時	〃	直綴・青袈裟
一月二十四日	十六時	法然上人御祥月命日	白服
一月二十五日	七時	〃	直綴・五条
一月二十七日	八時	蓮如上人御命日	白服
一月二十八日	十四時	法然上人御祥月命日	白服
二月一日	七時	〃	直綴・五条
二月二日	七時	實如上人御祥月命日	白服
二月六日	十六時	彰如上人御祥月命日	白服
二月七日	七時	〃	直綴・青袈裟
二月八日	十六時	現如上人御祥月命日	白服
二月十二日	七時	〃	直綴・青袈裟
二月十三日	七時	先門首御命日	白服
二月十一日	三十分	乗如上人御祥月命日	白服
二月二十一日	十六時	聖徳太子御祥月命日	白服

期日	時刻	法要名	內衣
二月二十二日	七時	聖徳太子御祥月命日	白服
二月二十四日	八時	乗如上人御祥月命日	白服
二月二十八日	十四時	聖徳太子御祥月命日	白服
二月初旬	七時	引上兼蓮如上人御命日	白服
二月二十五日	七時	宗祖聖人御命日	白服
二月二十七日	十四時	〃	直綴・五条
二月二十八日	七時	〃	色直綴・五条
三月十二日	十四時	先門首御命日	白服
三月十三日	七時	〃	直綴・五条
三月二十四日	十四時	春分彼岸会	白服
三月二十五日	七時	〃	直綴・五条
三月二十七日	十四時	蓮如上人御祥月命日	白服
三月二十八日	七時	〃	色直綴・五条
四月初旬	七時	宗祖聖人御命日	白服
四月十一日	十六時	一如上人御祥月命日	白服
四月十二日	七時	〃	直綴・青袈裟
四月十三日	十四時	先門首御祥月命日	白服
四月十四日	七時	先門首御祥月命日	白服
四月十五日	七時	先門首御祥月命日	白服
四月十六日	十六時	瑤如上人御祥月命日	白服
四月十七日	七時	〃	直綴・青袈裟
四月十八日	十四時	立教開宗記念法要	白服
四月十九日	十六時	綽如上人御祥月命日	白服
四月二十日	七時	〃	直綴・五条
四月二十一日	十四時	宗祖聖人御命日	白服
四月二十二日	七時	〃	直綴・五条
四月二十三日	七時	先門首御命日	白服
四月二十四日	七時	〃	直綴・五条
四月二十五日	七時	蓮如上人御命日	白服
四月二十六日	七時	〃	直綴・青袈裟
四月二十七日	七時	先門首御命日	白服
四月二十八日	七時	〃	直綴・五条
五月一日	十四時	常如上人御祥月命日	白服
五月二日	七時	〃	直綴・青袈裟
五月三日	七時	蓮如上人御命日	白服
五月四日	七時	〃	直綴・五条
五月五日	七時	蓮如上人御命日	白服
五月初旬	七時	宗祖聖人御命日	白服

真宗本廟における法鵬加算の対象となる法要

(二〇二六年一月～十二月)

組 織 部
本廟部式務所

2025年(令和7年)9月17日宗議会議員任期起算日

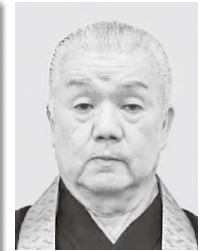
新宗議会議員の顔ぶれ

任期満了に伴う宗議会議員総選挙が9月15日に行われ、全18教区65名の議員が誕生しました。就任に伴い、議員各位の顔ぶれと抱負を紹介します。

なお、議員の任期は2025年9月17日から2029年9月16日(4年間)まで。

*掲載は期数順で、同期数の場合は五十音順。年齢は9月17日現在

北海道教区 (定員四)



いそ かわ なお ふみ
磯 川 直 文

第十九組 良誓寺
北海道常呂郡置戸町字境野一三八番地
一九五八(昭和三十三年)生(67歳)

〈宗議会議員 一期〉

現在の地方の状況は、我々の予想をはるかに上回る速度で人口が減少しています。それによって所属門徒が減少し、地域の開法道場たる寺院の運営に支障をきたしています。今後も寺院やご門徒が減少し続ければ、一カ寺当たりの御依頼額が増加することになります。そのため、さらなる行財政改革、具体的には宗派の適正な予算規模の再構築が急がれます。任期中は「念仏相続と開法道場の継承」を念頭に置きながら、議論をしてゆく所存です。



おお さわ ひで あき
大 澤 秀 明

第十三組 勝誓寺
北海道上川郡剣淵町仲町一九番一
一九八六(昭和六十一年)生(39歳)

〈宗議会議員 一期〉

これまで私を僧侶として育てていただいた組、地区、教区の皆様と共に継続的な対話をさせていただきながら、宗政に対する声を届ける代表者として全力を尽くしていく所存です。

真宗寺院を取り巻く社会状況が激変する時代にあつて、親鸞聖人の本願念仏のみ教えが、その社会全体に広く深く教化伝道されるべく、また同朋社会が具現化されるべく、宗政という役割を精一杯担ってまいります。



み うら ゆう しん
三 浦 祐 真

第一組 西念寺
北海道山越郡長万部町字長万部一五三番地
一九七二(昭和四十七年)生(53歳)

〈宗議会議員 一期〉

宗議会議員総選挙を通し、教区の皆様への願いをひしと感じさせていただきました。身を引き締まる思いです。六字の号の精神が宗政に現れるように活動してまいりたいと思います。行財政改革をはじめとする喫緊の課題、未来の方々にお念仏のみ教えを手渡すべく、過疎過密等の中長期的な課題に取り組みたいと考えています。微力ではありますが、宗祖の「仏法ひろまれ」との宗門人すべてに共通する願いを根本に熟議していきたいと考えています。



みや もと まさ あき
宮 本 正 顕

第四組 龍音寺
北海道千歳市あずさ三丁目一六番二号
一九八四(昭和五十九年)生(41歳)

〈宗議会議員 一期〉

親鸞の実践された対機説法を現代において実現させるには、施策のさらなる転換が必要と感じております。なぜなら、現代の価値観や生活環境は凄まじい勢いで変化しており、施策(法)も対象者(機)に合わせて変えていかなければ、うまく届かないからです。人間に我執がある限り「どこまでも南無阿弥陀仏が真実」。そのことは不変であつても、どのような言葉、場所、媒体で今を生きる私たちに伝えるか。僧俗共に力を結集して考えていきたいと思います。

東北教区 (定員三)



さ さ き みちのり
佐 々 木 道 範

中組 眞行寺
福島県二本松市竹田一丁目一九番地
一九七二(昭和四十七年)生(52歳)

〈宗議会議員 二期〉

親鸞聖人はいなかった。圧倒的多数の与党が決めたことが降りてくる場でした。不思議な言葉を使う人たちの意味不明なやり取りの場でした。議会がネット配信される現代において、取り残されたように宗議会は閉じられたままのブラックボックスです。親鸞聖人に、未来のこともたちに恥ずかしいと感じ、新会派「僧伽」を立ち上げました。勇気と情熱に溢れる若者たちの受け皿になりたい。地獄に立たれた親鸞聖人のように、今に生きる人たちの声を聞き続けたい。



いし だ ゆう こう
石 田 悠 晃

花巻組 圓徳寺
岩手県花巻市轟木一〇地割二二九番地
一九七七(昭和五十二年)生(48歳)

〈宗議会議員 一期〉

「人口減や少子化だから仕方ない」「宗教離れだから難しい」——そんな言葉に縛られず、教化活動への自信をもって社会と関わり続ける教団でありたいと願います。あわせて、これからを担う若い世代が生き生きと活動できる環境を整え、門徒や末寺が決して一人置き去りにされない宗門を築いていくことを目指します。新人議員として未熟ではありますが、情熱をもって努めてまいります。



もと さわ もり まさ
本 澤 盛 正

山形第二組 明圓寺
山形県山形市二位田八番地
一九七九(昭和五十四年)生(46歳)

〈宗議会議員 一期〉

現在の人々の寺離れや無宗教が叫ばれて久しいですが、若者たち自身の生き方についての哲学や先達への畏敬の念などは、時代背景もあり、むしろ増しているように思います。今一層の若者教化に力を入れることが、同時に寺院の門扉を開き、活性化していく道筋ではないでしょうか。世代間を超えて、ともに開法の座につけるような在り方を、広く皆様方と考える必要があると思っています。

東京教区 (定員三)

たん ぼ りつ こ
旦 保 立 子

埼玉組 宗泉寺
埼玉県さいたま市大宮区浅間町二丁目
一五九番地一
一九四七(昭和二十二)年生(78歳)

〈宗議会議員六期〉

新宗憲交付から四十四年。今あらためて条例・規程がその前文にかなっているのか詳細点検せねばならない。

特に、三十年近く「男女両性で形づくる教団」を標榜し続けてきたこの宗門が、未だに男女平等参画について具体的な姿が表現されていません。坊守にいたっては住職の傍らに生きる「住職の配偶者」から一歩も出ていません。坊守の位置付けを宗憲において条例変更を含め精査されねばなりません。自他ともに当事者の欠如を問うていきたい。

な す しん じゅん
那 須 信 純

栃木組 慈願寺
栃木県那須烏山市中央二丁目三番一五号
一九六三(昭和三十八)年生(62歳)

〈宗議会議員四期〉

現代の人間の問題は多岐にわたります。問題の根は人が我が思いを絶対化し、恭敬心を持ち得ていないことです。その姿は、装い繕うとも傲慢の域を出ないと仏教は教えています。

権利と義務を巡る主張の対立が我が宗門で顕著となっています。「同朋教団、人と人が親しく温かく交わり合うことのできる同朋社会の顕現に努めていくてください。歩みを同じくしていきます」。

勇退された先輩議員のこの言葉を胸に、与えられた職責を全ういたします。

い わ さき とおる
岩 崎 徹

川崎組 徳泉寺
神奈川県川崎市川崎区旭町一丁目一四番一三三号
一九四八(昭和二十三)年生(77歳)

〈宗議会議員二期〉

宗務総長は、「是所陀羅」問題は教団的課題であると、ことあることに述べられています。しかし教区や組での現場ではどうでしょうか。組に派遣する講師やスタッフの不足、そして同時にその不足を補うためのスタッフ養成の仕事や、解放委員会や同和協議会、あるいは教化委員会が担っています。既にこの課題に向けて取り組みを進めている現場に対して、十分に宗務所、教務所が連携できているとは言えない現状を憂うものであります。

た ざわ かず あき
田 澤 一 明

第十九組 明誓寺
新潟県新潟市南区庄瀬六六〇五番地
一九五七(昭和三十二)年生(68歳)

〈宗議会議員五期〉

長年言われ続けてきた教団・寺院の危機は、近年のコロナ下と度重なる災害によって加速し可視化した。この危機の中にあって、誰もが現状の教団・寺院の維持存続は困難であるという認識や不安を持ちながら、未だ新しい教団像は見出し得ていない。

重大な転換点とすべきであった二〇一一年の御遠忌・二〇一三年の慶讃法要も、教団の現状と同朋会運動の総括の契機とはならず、新たな教団像・新たな運動論の提起には至らなかった。今、教団、寺院、そして我々一人ひとりに対して、その立脚地と方向が厳しく問われている。「原点に帰る未来を開く」——そのための広範な議論の一助になりたい。

新潟教区 (定員五)

わ た な べ まなぶ
渡 邊 学

第二十三組 明正寺
新潟県新潟市北区葛塚三二一番地
一九六二(昭和三十七)年生(63歳)

〈宗議会議員四期〉

「宗門白書」(一九五六年)において、当時の憂うべき宗門の混迷の原因について「宗門は仏道を求める真剣さを失い、如来の教法を自他に明らかにする本務にあまりにも怠慢であるからではないか」と述べている。現状はどうであらう。

様々な問題、課題を抱える今の時代、教団にあって、真宗・大谷派はいかなる教団として表現するのか。思う、求道者、道を求めて生きる人こそが教団のすがたであらう。「自信教人信」の教言のもと、魂にふれる御同朋の教団をこの現代社会に表現していく歩みを進めたいと思う。

い の ひろし
井 上 博

高田十一組 福樂寺
新潟県上越市牧区岩神五四七番地
一九五〇(昭和二十五)年生(75歳)

〈宗議会議員四期〉

現在の寺院を取り巻く状況は、多死社会と言われる中、宗教意識の希薄化、門徒の寺院所属意識の低下、地域の過疎過密化など厳しい状態に置かれており、各寺院は教えの継承と自己存立の四で悪戦苦闘しています。

宗教に身を置く一人として何をなすべきなのか。親鸞聖人が開顕された念仏のみ教に今一度頷くと同時に、一人ひとりと、一カ寺一カ寺の悩み、寄り添い、聞き続けていくことが現在の状況に真向かう使命の一端かと思ひ、尽力いたします。

か ね こ みつ ひろ
金 子 光 洋

第六組 最賢寺
新潟県上越市南本町三丁目四番一八号
一九七五(昭和五十)年生(50歳)

〈宗議会議員三期〉

二〇一一年宗祖御遠忌、二〇一三年慶讃法要が勤まりました。この間、度重なる災害が発生し、人間のあり様が否応なく露呈されました。同時に寺や僧侶の存在意義が宗門内外から問われました。「人の誕生・場の創造」と繰り返し語られてきましたが、一体どのような人が誕生し、場が創造されたのでしょうか。

知らずか敗れてか、見過ごしてきた人と場との出会いを通して互いの念仏の声を聞き合えるように今期務めてまいります。

ひろ かわ かず 宏
廣 川 和 宏

第十八組 高念寺
新潟県新潟市南区吉江六一七番地
一九五五(昭和三十)年生(70歳)

〈宗議会議員一期〉

浅学非才の身ではございますが、私はこれまで、三条教区会議員、三条教区会議長として、公議公論を大切にしていって歩んできました。

この経験を踏まえ、宗議会においても多様な意見を尊重し、開かれた議論を心がけてまいります。

今後は、新潟教区内の意見を丁寧に伺い、その声を宗議会に届け、宗門の発展に少しでも寄与できるよう微力ながら、誠心誠意努めてまいります。

富山教区 (定員五)

くつわ だ ひろ よし
轡 田 普 善

第十一組 照善寺
富山県魚津市中央通り一丁目一番一七号
一九五六(昭和三十一年)生(69歳)

《宗議会議員四期》

引き続き宗政に参画するにあたり、最初に立候補した際に教区の皆様にお伝えした事柄を思い返しています。その中の一つが「社会状況の急速な変化の中で宗門は否応なしに変革を迫られている」というものでした。

先の常会を経て多くの委員会・宗務審議会が設置されたことは、宗門が多岐にわたる課題に直面していることを示しています。

取り組むべき課題をしっかりと確かめつつ「行財政改革」を推進し、次世代に確かな宗門を手渡すことを目指します。

さか い いち めい
酒 井 一 明

第三組 皆達寺
富山県南砺市皆達六七八番地
一九五〇(昭和二十五年)生(75歳)

《宗議会議員三期》

真宗大谷派では、「是旃陀羅問題」は一丁目一番地として捉え問題の解決へと努めてきました。是旃陀羅の語に誤った受けとめのまま長い間教化をしてきました。私たちは、差別を受けてきた人々の苦しみにも配慮が無く、出げられていてもそのことに気付かなかった。このような差別を受けた人々に対しての無感覚な意識は、まさに教の誤解から悲しい歴史が繰り返されてきたと思います。

是旃陀羅問題は、私たち一人ひとりの課題であり、今こそ眼を覚まさないといけないと思います。

きく ち ゆたか
菊 池 浩

第七組 圓照寺
富山県氷見市中央町二番四二号
一九五七(昭和三十一年)生(68歳)

《宗議会議員二期》

新型コロナウイルスの蔓延や能登半島地震などの度重なる災害は、人々の生活や意識の変容にも多大な影響を与えたと思われます。宗門もその対応が今問われるところです。しかしそれが単なる社会への表面的な迎合とならないよう留意することが大切です。

今日まで多くの先人から伝わってきた教えと儀式の伝持とその流布という確固たる目的のその方法論において、大所からの視点を忘れずに施策に取り組みたいと存じます。

すが はら たかし
菅 原 貴

第六組 聖安寺
富山県高岡市瑞穂町二番六号
一九六四(昭和三十九年)生(60歳)

《宗議会議員二期》

近年各地で寺院減少の傾向が進み、地域社会におけるお念仏の灯が薄れつつある現状に、深い憂慮を覚えております。同時に能登半島地震からの復興には、私たち宗門ができる支援を続け、共に歩むことが何より大切と存じます。寺院の存続と地域の再生、その両輪を担うべく精進してまいります。

えい さき あきら
永 崎 暁

第十組 永壽寺
富山県富山市柳町三丁目六番二号
一九七三(昭和四十八年)生(52歳)

《宗議会議員一期》

これまで語られてきたように、人口減少や過疎過密が進み、従来の帰属意識が希薄になる中、教団や寺院を取り巻く状況は一層厳しさを増し、閉塞感は深まっています。

あらためて地域の寺院・ご門徒の声を受けとめ「現状でもなんとかやっている」から脱却し、「どこに立つのか(出発点)、どこに向かうのか(方向性)」をしっかりと考えながら、教団に関わる多くの人々と課題を共有し、同朋の公議公論が尽くされていくよう活動していきたいと思います。

能登教区 (定員三)

もろ おか ことし
諸 岡 敏

第六組 明敬寺
石川県輪島市門前町鬼屋五の二〇番地
一九五五(昭和三十一年)生(69歳)

《宗議会議員四期》

真宗本廟前の行灯法語の中に見つけた言葉「仲間をつくと 仲間外れもつくりだす」に深く考えさせられます。四期目を迎えた今、あらためて自分の在り方が問われます。これまでの歩みを振り返り、これからの方向を見誤らないようにしたいと毎回心を新たにしてい来たつもりでしたが、今回ほう言い訳はできません。

これから始まる任期の中で、どのように「共に」動けるのか、精一杯自分を追い込んでみたい、今はそう考えています。

さ さ き たかし
佐 々 木 高

第十三組 長福寺
石川県七尾市今町四五番地
一九五六(昭和三十一年)生(69歳)

《宗議会議員三期》

「令和六年能登半島地震」を経て、寺院が単なる宗教施設に留まらず、地域の拠り所として不可欠な存在であることを痛感いたしました。その一方で、被災寺院だけでなく、多くの寺院が財政的・人的な課題に直面し、念仏の教えを絶やさず継承していくことが困難な状況にあることも深く認識しております。

私はこの震災の教訓を胸に、引き続き議員として、ご門徒の声に真摯に耳を傾け、次世代に「法の灯」を繋ぐための宗務改革に尽力してまいります。

しの つか えい ゆう
篠 塚 榮 祐

第十組 法融寺
石川県鳳珠郡能登町字小木一〇字一〇〇番地
一九六二(昭和三十七年)生(62歳)

《宗議会議員二期》

四年間の任期中、自教区では能登半島地震また豪雨と自然の脅威による被害を受けました。法義篤信のこの地においていかにして念仏の生活を取り戻していくのか、暗中模索の日々ですが止まってはいただけません。まずは開法の道場である本堂及び生活の拠点の再建を共に考え、復興を目指します。

また全宗門的に仏事が簡素化し、人間関係が希薄となっていく現代社会の中で、新たに繋がりを見出し、開法の場を回復すべく努力します。

金沢教区 (定員三)

木越 渉
き ぎし わたる

第十一組 光専寺
石川県かほく市高松フ五六番地
一九五七(昭和三十)年生(68歳)

《宗議会議員六期》

現在、喫緊の課題となっている宗門の改革を進めます。

次世代の門徒に、宗門を主体的に選んでいただけるよう、教団の魅力を発信します。「財政の健全化と自主財源の確保」「大規模災害被災教区の教化・運営を支えるための体制づくり」、大谷派の宗教法人としての公益性を広く告知、国内外開教の充実など、改革には「柔軟性」と「宗門人の理解」が必須であり、念仏相統を可能ならしめるための宗門体制づくりを行います。

坂本 敏 朗
さか もと とし ろう

第四上組 開成寺
石川県白山市宮永町三八〇番地
一九四七(昭和二十)年生(78歳)

《宗議会議員三期》

「念仏を称える者になってほしい」という声が何らかの拍子に届いてくる時がある。この声を抛りどころにして、ともどもに後押ししてもらいながら、どこまでも「一人の念仏者の誕生」を願いと願き、更なる教化活動の伸展に注力してまいりたい。

開法道場の場と集う一人ひとりが生命線と考え、「同朋の公議公論」に基づく宗政への参画に微力ながら努めてまいりたいと思っています。

井上 裕
いの うえ ひろし

第七組 光徳寺
石川県金沢市玉川町六番九号
一九六五(昭和四十)年生(60歳)

《宗議会議員二期》

第八回教勢調査の結果は教団の厳しい現実を映し出しています。その現況をしっかりと受けとめ、次世代の意識を十分に考慮し、社会変化に応じた取り組みができるように教化支援を行っていくことが大切だと考えています。

お念仏の教えを伝え続ける宗門として存在するためにも、「一カ寺一カ寺と宗門の繋がりを確かなものにし、関心を取り巻く様々な状況を共有し、愛心を持って注視していただけるように微力ながら情報発信に努めてまいります。

能邨 勇 樹
の むら ゆう き

第二組 勝光寺
石川県小松市東町八七番地
一九六三(昭和三十八)年生(62歳)

《宗議会議員二期》

いま寺院を取り巻く環境は大変厳しく、コロナや能登地震以降その問題に拍車をかけました。さらなる行財政改革の推進は必須であり、同時に自主財源の確保と「潜在門徒(門徒の親族であって手次寺が無い人等)」「関係人口(寺院との縁はないが親鸞聖人に興味のある人等)」「へのアプローチも重要であるといえます。

宗憲前文に「同朋社会の顕現」とありますが、宗門の存在意義は「人の誕生」にあります。そこに立脚して、議員活動をしてまいります。

小松大聖寺教区 (定員二)

福井教区 (定員二)

山本 龍 昇
やま もと りゅう しょう

第一組 上宮寺
石川県加賀市直下町夕三六番地甲
一九五五(昭和三十)年生(70歳)

《宗議会議員二期》

一九八一年、宗憲改正の年に安田理深師は「僧伽とは、独立している者と独立している者の共同体」だと講じておられます。

翻って、現在の教団の中で、安田先生の箴言を真正面から受けとめて、その願に向けて道を求めている人が、私も含めて、どれほどおられるかと思わずにはいられません。

二期目を迎えるにあたって、安田先生の金言の下、所属する会派・僧伽(サンガ)の「小さき声を大切に」の姿勢を貫いてまいります。

山田 孝 彦
やま たか ひこ

第十組 唯稱寺
福井県坂井市三国町山王丁目三番三号
一九六六(昭和四十)年生(59歳)

《宗議会議員三期》

激変する厳しい時代、社会の状況下において、宗門は大きな転換期を迎えようとしています。宗務改革を着実に丁寧に行うべく、次世代に確実に繋いでいくためにも、お念仏に生きる人々と本願念仏の御教えとともに聞き、伝え、いくこと。そして、宗門の未来をともに開いていくこと。今まさに、私たちの意識改革が必要であるうかと、思っています。

麗しい真宗宗風の改革を願い、門徒一人として、微力ながら宗政に参画してまいりたいと存じます。

平 等 良 香
たい なら な が こ

第四組 徳永寺
福井県丹生郡越前町上野一〇号六番地
一九五六(昭和三十)年生(69歳)

《宗議会議員一期》

私が常に心に据えていることは「地域の中の一人だ」です。高齢世帯と過疎で地区の活動が滞り縮少し、皆一人一人が関わることで成り立っている所に生活をしています。市町村合併で大きくまとめられたことで地域の課題を見つけることは無関心になります。まず一人一人の生活を確かめる大事さを感じます。

大きく広くまとめられる教区の課題、問題、成果を考えると、まず「一カ寺一カ寺が自分のこととして、自分を問うこと」と思います。

岐阜高山教区 (定員三)

尾畑 英 和
お ばた ひで かず

第五組 正壽寺
岐阜県羽島市足近町小荒井四三五番地
一九六二(昭和三十七)年生(63歳)

《宗議会議員三期》

次世代を担う若い僧侶の育成、宗門内の活性化、教えを喜ぶ「人」の誕生とその人を育む「場」の創造こそが教団の大切な課題であると考えています。宗門内、様々な困難な問題が山積する中で、進むべき道を定め、結果を出していく歩みを進めなければなりません。

また、自然災害、人口減少、門徒の寺離れ等、寺院を取り巻く環境も厳しさを増している中で、次世代に念仏の教えを手渡していくために、全力で課題に取り組んでまいります。



高山組 浄蓮寺
岐阜県高山市一之宮町三三九番地
一九五二(昭和二十七年)生 73歳

きよし 内記 ない

〈宗議会議員三期〉
本山、別院、寺院、宗門の抱える問題は山積しています。かつて、同朋会運動は「世界人類の安心を求めるための運動である」と表明され、宗憲には「同朋社会の顕現」とうたわれました。

課題を通して、「真宗大谷派なる宗教的精神」として私自身の存在意義を明らかにしてまいりたいと存じます。

ナムアミダブツ



第十三組 敬願寺
岐阜県郡上市高鷲町鷲見三三七番地の
一九四七(昭和二十二年)生 77歳

くわ 桑 ひと 田 正

〈宗議会議員一期〉
今日仏事の見直しと言われる中、寺離れや暮じまいが多くなっています。

一九六二(昭和三十一年)に発足した同朋会運動によって、教区に組に寺に、多くの人が親鸞さんのもとに集まり、我が身の在り方に気づかされ、そこから仏教青年会ができたり、職場で同朋の会ができたりしました。教団問題を通して新宗憲が施行されましたが、その中にも同朋の会教導と謳われる意味を鑑みて、教区・組・寺の教化の在り方を今一度頭を突き合わせて考えていきたい。



第十一組 宗徳寺
岐阜県不破郡関ヶ原町関ヶ原〇八番地の
一九四五(昭和二十年)生 80歳

しも 下 や 谷 やす 史

〈宗議会議員九期〉
宗門の昨年度の歳入・歳出を確認しますと全教区完納であり歳出面も健全な状況であります。募財の中心は明治の両堂再建を期して設定された相続講制度であります。

この精神は法義相続・本廟護持であります。このうち法義相続の精神が重要視できずにいることが問題です。即ち運用の面での法と財との直結と拡大が課題であります。この法と財との問題を中心に今期は取り組みたいと思います。



第十六組 中島寺
岐阜県海津市南濃町吉田九八一番地の
一九六八(昭和四十三年)生 57歳

すい 水 たに 谷 まさ 人

〈宗議会議員一期〉
お寺や宗教に無縁な生活からお寺にご縁を賜り、先達によって培われてきた真宗の土徳や伝統をこの身実感してまいりました。しかし近年、地縁血縁などで世代を超え伝えられてきた法義相続が、いよいよ危機に瀕していることをひしひしと肌で感じています。

多様な環境にある寺院や別院への支援や助成を課題に、我々宗門に身を置く一人一人が真宗門徒であることに肯定感をいだくことのできるよう取り組んでまいりたいと思います。



第一組 善念寺
岐阜県大垣市竹島町一〇一番地
一九五九(昭和三十四年)生 66歳

たつ 龍 しげ 茂 き 樹

〈宗議会議員一期〉
宗門は同朋会運動を推進するべく行財政改革を行っています。しかし、その改革は運動を推進する準備活動となり、同朋会運動が何を願いとされるものであるのかということを見失った状況にあるのではないのでしょうか。

同朋会運動は自分自身が念仏の教えに出遇えない悲歎から始まった運動でありました。教学教化の振興をもとに念仏者を生み出す場を作り出し、念仏の僧伽が形成される宗門を願い、具体的施策を示したいと思います。

岡崎教区 (定員二)



第二十五組 明勝寺
愛知県豊田市上野町一丁目五〇〇番地
一九五〇(昭和二十五年)生 74歳

すぎ 杉 うら 浦 あき 明 みち 道

〈宗議会議員四期〉
一九八一年、私たち教団は新宗憲を制定し、宗門の運営手法として「同朋公議」を採用することを表明しました。しかし、それから四十四年を迎えた現在の宗門には、依然として教団内外の壁・僧俗の壁・男女の壁は存在し、住職中心・僧侶中心・男性中心主義はい

たるところに見られます。それゆえ、「同朋の公議公論」の実現に向けて、より多くの宗門構成員の意見を柔軟に反映できる形に変えることで、宗門活動を活性化させ、宗門人の宗教参加を促すための基本的な土壌整備をめざしていきたいと思います。



第四組 淨園寺
愛知県豊橋市大村町字皇下一九番地
一九六二(昭和三十一年)生 62歳

ふじ 藤 い 井 のぶ 宣 ゆき 行

〈宗議会議員四期〉
近年は能登半島地震をはじめ、災害の頻発などもあり、災害対応も宗門の課題となっています。長期的には人口動態の予測などに基づき、「宗門財政の縮充化」など行財政を含む宗教改革・構造改革が喫緊の課題となっています。

大谷派宗門が将来にわたってお念仏の教えを伝え続ける宗門として存在するため、持続可能な宗門の基盤整備を今行わなければならない。

宗門が大きな転機を迎えているこの時期に、宗門の現実を直視し、引き続き宗門に対する責任を担ってまいります。



第三十四組 真勝寺
静岡県静岡市葵区長沼一丁目一八番三三号
一九七三(昭和四十八年)生 52歳

いち 郷 真 まこと

〈宗議会議員一期〉
初当選議員ではありますが、宗門運営に一層責任のある立場をいただいた以上、私の課題を次に表明いたします。

1、宗祖の教えを自他共に顕らかにすべく、現代社会に伝える同朋会や聞法会、福祉・医療・教育・差別問題・経済を含む社会活動、文化芸術活動の創出と実践。

2、より深刻化している寺院・別院・宗門の運営に関する持続可能な方途の研究と実践。

3、同朋精神に基づく形での大谷専修学院の一刻も早い再開。

私は、これらの課題をただ嘆くのではなく、対話し、お念仏と共に歩みます。どうかご支援を賜りますようお願い申し上げます。

名古屋教区 (定員五)

しげのぶ
てらだ 忍 使 勅

第十八組 法善寺
愛知県長久手市石場九〇六番
一九五二(昭和二十七年)生 73歳

〈宗議会議員六期〉

都市部では「宗教離れ・寺離れ」が進行し、「終活」の名の下に「仏壇じまい・墓じまい・通夜も省略・日葬」が広がりをみせています。寺が、私自身が開かれていきます。

社会はAI時代に突入し、機械が仕事を人間から奪っていきます。生産性は飛躍的に上がりますが、反面、人間はこれまでの価値観を失い、生きる意味を見失いがちになっていくことでしよう。ここに、真宗は必須のものとなるはずだ。

宗派は、学事の振興と教化の実践を急がねばなりません。共に、教を次世代へ繋ぐために歩みたいと思います。

しげのぶ
てらだ 忍 使 勅

第二十八組 妙用寺
愛知県稲沢市祖父江町祖父江中屋敷八六番地
一九五二(昭和二十七年)生 73歳

〈宗議会議員六期〉

第八回教勢調査の報告によると教勢は停滞ではなく衰退しているとあります。この危機的状況を見据え、今こそ時代の要請に応え、立教開宗の本義を確かめる大事な機会だと考えます。

真の同朋公議を尽くし信頼を得る宗門運営を目指し、現代社会に応える教の振興と教化の実践、喫緊の課題である財政の見直しと健全化、行政組織の見直し等、行財政改革を推進し宗門の本来化に尽くしたいと思います。

しげのぶ
てらだ 忍 使 勅

第四組 法林坊
愛知県一宮市千秋町浮野字屋敷一九一六番地
一九六九(昭和四十四年)生 55歳

〈宗議会議員五期〉

「宗祖親鸞聖人」発刊について」に「わたしたちは、いわゆる教団の内外を超えて、人間の魂の回復を訴え、因習のなかに埋没してしまっていた宗門を、開法者の共同体として形成していくことを願いとして、今日まで歩んでまいりました」とある。

宗門は「因習からの脱却」と「開法者の共同体」たり得ているのか。「人類に捧げる教団」であり、世界中の人間の幸福を開かんとする「同朋会運動」の精神に立脚し、宗門が荷負する大いなる使命を果たすために尽力したい。

しげのぶ
てらだ 忍 使 勅

第二十六組 光園寺
愛知県名古屋市中川区万場一丁目一〇三番地
一九五七(昭和三十三年)生 68歳

〈宗議会議員三期〉

あらためて宗教に取り組まれた先人から私たちに託された事として、「宗門各位に告ぐ」(宗門白書)を確認すると、「混沌に沈む宗門現下の実情を打破し、生々澆漓たる真宗教団の形成を可能にするものは、この懺悔と求道の実践よりほかにない」という宗門存立の原点に立ち帰り、行財政改革による教団形成の姿・形を何のために変革していくのか、それは次世代に受け継がれていく宗門の相を常に創造し、宗門の将来に責任をもって宗教参加する者として活発な議論に取り組みます。

しげのぶ
てらだ 忍 使 勅

第十三組 西源寺
愛知県愛西市西川端町大込屋敷八〇番地
一九五九(昭和三十四年)生 66歳

〈宗議会議員三期〉

この度、宗議会改選にあたり二つの教区が投票選挙になりましたが、四年前は全教区無投票でありました。宗教に対する無関心と諦めが露呈したのかと思われまふ。我々、議員も有権者に本当に信任を得ているのかいささかの不安があります。教団の将来像が不明瞭なところに原因があると思料いたします。この点を皆さんと共に議論していきたいと考えます。

しげのぶ
てらだ 忍 使 勅

三重組 常願寺
三重県四日市市水沢町二五〇番地
一九七二(昭和四十七年)生 53歳

〈宗議会議員二期〉

「僧伽」は、教えによって結ばれた念仏者(独立者一人)が集い合い、かつて宗祖が試みられたように、異なる者同士が「朋」として声を聴き合う対話を通して、この現代社会へとはたらきかけていくことを使命として活動しています。私たちの宗門政治への参画によって、同朋会運動が活性化し、次世代へと繋がりつついていくものと信じて、皆様と共に考え取り組んでまいります。寺院存続に係る支援・選挙資格の拡充・男女平等参画と多様性の実現・ハラスメント防止

しげのぶ
てらだ 忍 使 勅

山城第二組 妙喜寺
京都府京都市左京区下鴨泉川町三六番地の二
一九六四(昭和三十九年)生 61歳

〈宗議会議員七期〉

「忍耐と時間をかければ物事が動く」と云うのが私の信念です。緒方貞子さんの言葉ですが、私の座右の銘でもあります。

六期二十四年の経験に基づき、宗門の未来を見据え次のことを考えます。第一に立教開宗の原点に立脚し、本願の教えの真実性を広く現代の市民社会に伝えること。

第二にグローバルな視野を持ち斬新な思考で勇気ある宗門運営を為す。

第三に仏徳讃嘆としての儀式の充実、浄土真宗の儀式論の確立に努める。

しげのぶ
てらだ 忍 使 勅

長浜第十四組 徳明寺
滋賀県長浜市石田町六六六番地
一九五五(昭和三十一年)生 70歳

〈宗議会議員六期〉

同朋会運動の必然性について、訓福信雄総長は「西洋文明は早晩行き詰るそれを打開するのは、仏教、とりわけ親鸞聖人による本願の教えだ」(主意)と述べています。

近年「西洋文明の敗北」と、西欧の知識人たちが声が上がっています。

約七十年前に、現代の状況を看破した我が宗門の先達の慧眼には脱帽するばかりです。従って、濁世に人類を救うのは「阿彌陀の本願」であることを、私は証明していく使命があると考えています。

議員諸氏と共に、歩みを着実に前に進めてまいりたいと思います。

大阪教区 (定員四)



清史彦

第四組 瑞興寺
大阪府大阪市平野区平野市町三丁目四番
一七号
一九五一(昭和二十七年)生(73歳)

〈宗議会議員七期〉

コロナ以降、寺離れが加速し、寺院運営が厳しくなっています。がその現状に我々が意欲を無くしてはなりません。従来のご縁は縮小の一途ですが、看護婦さんのように日頃から人の生死に関わっておられる方々には、佛教に期待される人が多くおられます。寺離れですが、佛教離れではないということです。むしろ「今こそ本物の親鸞佛教が求められている」と感じます。

従来のご縁を大切にしつつ、新しいご縁を開く大谷派でありたいと願います。



文秀受

第八組 受西寺
兵庫県西宮市山口町中野丁目三番三〇号
一九六四(昭和三十九年)生(61歳)

〈宗議会議員三期〉

現代社会は急速に変化しており、信仰や宗教の在り方も多様化しています。第八回教勢調査の結果からも明らかのように、一般寺院において、寺離れ宗教離れは加速し、後継者不足も深刻化しています。こうした中で、宗門が果たすべき役割をあらためて問い直し、時代に即した活動を展開していくことが重要だとです。

兼職住職である自身の立場から、次世代を担う方々が、御同朋御同行として「念仏相統」に自信と意欲を持てるよう取り組んでまいります。



諒顯

第二十一組 本通寺
大阪府堺市北区白舌島梅北町五丁三二四番地
一九五〇(昭和二十五年)生(75歳)

〈宗議会議員二期〉

儀式に関わる者も、宗教に関わる者もすべて威儀を整え、如来の教化にあずかる者として仏恩報謝と聞法の姿勢を旨としなければならない。このこと以外にはありません。

朝ドラ「あんぱん」は終わりましたが、視界ゼロの未来の中で、命の終わりへと近づいていく明日が輝いて見え、愛しき魔法の鍵を歌っていました。私たち、宗祖の一筋に生きた生きざまを唯一の鍵として、共学聞法の場を創り続けていきたいと思います。



信法

第五組 光徳寺
大阪府大阪市生野区小路東一丁目七番
二六号
一九五二(昭和二十七年)生(72歳)

〈宗議会議員二期〉

宗門は誰か特定の人のものではなく、私たち一人ひとりの宗門です。宗憲前文には「この宗門の運営は、何人の専横専断をも許さず、あまねく同朋の公議公論に基づいて行う」と謳われています。これは、宗門が抱える多くの課題を乗り越えるために、決して忘れなければならない指針だと感じています。「同朋」の精神を見失いつつある宗門運営に対し、諦めることなく問い続けてまいりたいと存じます。



知隆

山城第一組 光徳寺
京都府京都市南区唐橋高田町五番地
一九六四(昭和三十九年)生(61歳)

〈宗議会議員五期〉

今、宗門に必要なことは、時代社会に寄り添ってきた歴史に学び、それを活かしてイノベーションを宗教の施策に反映させることでもあります。先ずは伝統ある儀式・作法を尊重した、教義・教学に基づく法要・行事をはじめ、あらゆる宗派事業を精査し、単に新しいだけではなく、遺せるものは遺し、変えるものは変えるという姿勢のもと、予実管理を徹底し事業執行することで、厳しい財政状況を克服することでもあります。宗門におくっていただいで以来提案しております「宗派財産の有効活用」が、社会に開かれた形で確実に進んでおり、普通寺院・教会の負担軽減に寄与しています。今後とも宗務当局に対し、点検・監視・評価・提案を行い、政令指定都市議会と福祉・教育の現場経験を宗教に活かして参ります。



彰内

近江第二十五組 正通寺
滋賀県高島市マキノ町白谷三〇八番地
一九六一(昭和三十六年)生(64歳)

〈宗議会議員四期〉

教区内皆様のご指導のもと四期目を迎えさせていただくことになり、心新たに活動させていただくと思います。三十一年前の阪神淡路大震災、十五年前の東日本大震災、十年前の熊本地震、昨年の能登半島地震、今もなお治らないコロナ感染等に対する宗門の対応や特に共済、行財政改革推進が始まっている中、議員定数問題、不動産の活用等。この期は、この三点、共済の見直し、議員定数減、不動産利活用を特に考えてまいります。



親正

近江第四組 蓮生寺
滋賀県守山市三宅町一〇二九番地
一九五六(昭和三十一年)生(69歳)

〈宗議会議員三期〉

大谷派の教師資格取得者の数が年々減る方向に進んでおります。昨年度は二十年前の約半分になっています。宗教学者の解散も増えてきております。このままいくと大谷派は、いよいよ縮んでいくこととなります。本山の行財政改革はとて大切なことですが、並行して「人の育成」をどうするか早急に考えないといけないと思います。ネットを利用した通信教育、eラーニングに取り組み。僧侶の育成はもとより一般にも開かれるよう進めてまいりたいと思っております。



鐘恵

長浜第二十一組 本覺寺
滋賀県長浜市小谷丁野町八四八番地
一九四八(昭和二十三三年)生(77歳)

〈宗議会議員二期〉

宗門、寺院を取り巻く環境が厳しさを増していることが、先の教勢調査でも明らかとなりました。しかし、その厳しさは宗門・寺院に係る古い体質から生じる思考の上に感じられる面もあると思います。意識や発想を転換することで、全く異なった見方ができるかもしれません。凝り固まった頭を少し採みほぐし、柔軟な思考と自己変革を心がけ、二期目の議員活動を務めてまいりたいと考えております。そうした自戒の思いでもって宗教に関わっていきたくと考えています。



古賀 堅志

大牟田三池組 浄泉寺
福岡県みやま市高田町今福六九番地
一九六一(昭和三十六)年生(64歳)

〈宗議会議員二期〉

第八回「教勢調査」報告書で示されるように、宗門及び各寺院の現況は、教化・財政両面において、これまでとは別次元の危機感をもって取り組まねばならない局面に入っています。内局が先の宗会で提示した多くの具体的施策は、この危機感のもと、改革を「一歩前に進める」覚悟の表明でもありません。

これらの施策を確実に前進させるため、与えられた場において誠心誠意己の分を尽くしていく所存です。



内藤 亮

長崎組 光西寺
長崎県雲仙市愛野町甲七一番地
一九六八(昭和四十三)年生(56歳)

〈宗議会議員二期〉

一期四年を振り返りつつ、これからの四年をどのように活動していくのか。厳しい眼差しが向けられる。

まずは喫緊の課題に対していかに向き合っていくのか。そして、その学理的視座を関係各位と共有していきたいと念じている。それがお育ていただいた師恩に報じていく道であると信じて。ただいまの自身にとつての同朋会運動は、苦悩する者に本当に寄り添い続けることができるのか、そして、ここに苦悩を除く法があると、本当に言い切ることができるのか、と問うていくことから始めたい。



鳥取 真悟

三蒲組 正念寺
福岡県三蒲郡大木町大字三八松八五番地の二
一九七五(昭和五十)年生(49歳)

〈宗議会議員一期〉

今まで以上に教師資格の有無、宗派内外を問わず様々な方たちと真宗大谷派について交流・親睦を深めていきたいと思っています。

これから四年間のすべてが初めての経験となっていくことでありますが、あらためてひとつひとつの課題に向き合う時間をいただけたと受けとめ、皆さんと意見を交わしながらしっかりと取り組んでいくことで、次々と変化していく世界の中でも未来を明確に見据えていく手がかりを掴めると思っています。



福本 徳

熊本東組 玄徳寺
熊本県阿蘇郡南小国町大字中原一〇三番地
一九六四(昭和三十九)年生(61歳)

〈宗議会議員一期〉

宗門、寺院を取り巻く状況は、少子高齢化、過疎、過密と、社会の形態、生活様式の変化に、寺院を支えてきた土台が揺らいでいます。いそぎ宗教改革が求められます。

一方、寺院で開かれる法要、開法の会座には、求めてやまぬ念仏者のおすがたがあることも確かです。この宗門を、そして地域を支えてきた人々の声を聞き、同朋社会の顕現に努めてまいります。

山陽四国教区 (定員三)



もち 月 慶 子

第六組 浄泉寺
兵庫県洲本市栄町四丁目二番四二号
一九四二(昭和十七)年生(83歳)

〈宗議会議員六期〉

「男女両性で形づくる教団」の実現を願い議員活動を続けています。

女性も主体的に宗門運営や寺院運営に関わっていくには、宗議会の女性議員は六十五人中三十四人の参画では女性の意見が十分に反映された条例や政策を作ることが難しく、結果の平等にはなっていない。女性が宗政に積極的に参画できる制度の導入を考え活動しています。



はま 濱 和 也

土佐組 誓願寺
高知県土佐清水市竜串八番七号
一九八一(昭和五十六)年生(44歳)

〈宗議会議員二期〉

・ハラスメント根絶の教団をめざす

「第三者による秘密保持を徹底した相談窓口の開設」

「カスタマーハラスメント防止の啓発と宗議会議員におけるハラスメント防止規程の制定」

・理想を語り、具体的に取り組む

「どんな人でも本願念仏の教えを開ける環境づくり」

「オンラインでの教師課程習得プログラムの構築」

「法話研鑽プログラムの構築」

宗議会議員としての職務である「行政のチェック」と「立法」に一層の責任と使命を持ちつつ、新たに発足した山陽四国教区の代表として現場を意識して取り組みたい。



むら 村 慎

第四組 興宗寺
兵庫県姫路市吉福二九六番地
一九八二(昭和五十七)年生(43歳)

〈宗議会議員一期〉

この厳しい現代社会の中、私たちは、教区・組・寺院という教化の現場で必死に足掻いています。今、何よりも求められているのは、現場に寄り添い、現場の活動を支援する宗門の体制ではないでしょうか？

宗門に身を置く一人ひとりが、将来への希望を見出し、安心に立って「真実、自分自身のしたいこと、しなければならぬこと、できること」に尽力してやるように、対話の精神をもって、一人ひとりの声を聞き、応えることができる宗門の運営を目指したいと思っています。



なが 肇 頭 教

大分東組 西福寺
大分県大分市尼が瀬二丁目一番一〇号
一九六七(昭和四十二)年生(57歳)

〈宗議会議員四期〉

「教団に対して各自が全責任を自覚する」のである。教団の存在も又破壊も、各自が全責任者であるという自覚を持つ。それが大衆を統理して一切無碍ならんということである。この曾我先生の言葉を受けとめ、宗務改革は、宗門批判にとどまらず、むしろ自己批判の中から見出さなければならないと考えます。

真宗大谷派が世に存立する意義を確かめつつ、宗憲に謳われた「同朋社会の顕現」という基本姿勢に立ち、あらゆる人々の苦悩に向き合いながら、同朋会運動推進の一点に帰結するような改革を志向いたします。

九州教区 (定員七)

お知らせ

宗派公式ウェブサイトで『真宗』誌の内容を閲覧できます

2025年7月より、これまで『真宗』誌で掲載してきた内容が、宗派公式ウェブサイトでも閲覧可能となります。それに伴い、『真宗』誌面も順次掲載内容の精査を行っていきます。

今後、ウェブ上での情報発信をさらに充実させていきますので、これまで以上に宗派公式ウェブサイト及び公式SNSをご活用いただきますよう、ご案内します。

【宗派公式ウェブサイトトップ】

※スマートフォン版 2025年7月以降



新設 【宗派情報コーナー】



★主なポイント★

- ✓ 巻頭言「樹心佛地」や「教団の動き」、宗会情報などもウェブサイトに掲載。
- ✓ 「教区から」欄は、浄土真宗ドットインフォ（しんらん交流館HP）内「参加する」ページへ移行（<https://jodo-shinshu.info/sanka/>）。
- ✓ ウェブサイトに「法要・行事カレンダー」を掲載し、どなたでも参拝・参加可能な行事を一覧で表示。

※ウェブサイトで閲覧可能な情報は、『真宗』誌面の掲載を割愛する場合があります。

真宗大谷派公式ウェブサイト ⇒
<https://www.higashihonganji.or.jp/>



（宗議会議員 一期）
時代社会が世界規模で大きく変化している中、教団・寺院が取り残されていく薄暗い不安と自信喪失が私たちの宗門を覆っています。「人間を大切に」する「教団として宗門を再生しなければならぬ」時が来ています。
これからの四年間、「現代社会の課題に応答する教学の振興」「女性の声と力を重視する宗門運営」「同朋公議を貫徹する構造改革」という三つの柱を軸に、教団の未来を憂慮する有志とともに「教団再起動」に取り組みます。



京都組 覺法寺
福岡県京都府田町大字与原一〇四五番地
一九七三（昭和四十八）年生（52歳）
ふじ 井 昭 裕

（宗議会議員 一期）
私たちを取り巻く社会は、人口減少や地域格差、環境問題など多くの課題に直面しています。教勢調査では「衰退」との評価が示されました。厳しい現実ではありますが、だからこそ、これからの一歩となる機縁と受けとめています。そこには、言葉に尽くせない様々なことがあると思います。
当事者として課題に向き合い、宗門の皆様と率直に語り合い、それぞれの背景や思いを大切にし、自らにできることを確かめながら歩んでまいります。



鹿児島組 同朋寺
鹿児島県鹿児島市坂元町四三番三号
一九八一（昭和五十六）年生（44歳）
もり 森 孝 作

ハンセン病はいま

334

解放運動推進本部

最終回

連載終了にあたって

― 声を聞き取り、語り継ぎ、伝えていく ―

ハンセン病問題に関する懇談会 広報部会

一九九七年一月号からスタートした「ハンセン病はいま」は、今号（二〇二五年十二月号）をもって二十八年間にわたった連載を終えることとなりました。これまで宗門内外のハンセン病問題に取り組むたくさんの方々に執筆いただき、計三四回の掲載となりました。

振り返りますと、連載第一回のタイトルに「人間回復・解放の力となる教え」とば、関わりを求めて」とあることから、その内容は、各療養所の状況や各教区での取り組みについての報告のほか、療養所に入所されている方あるいは療養所から退所されている方との出会いを通して、それぞれが心に留めたことなどが書かれてきました。第一回はハンセン病に関する懇談会（現・ハンセン病問題に関する懇談会〈ハンセン懇〉）として、ハンセン病問題と宗門の関わりやこれからの活動

方針が掲載されており、「ハンセン病「患者」たちは実に一世紀にも及ぶ偏見と迫害を受け続け、その実態は覆い隠され、歴史の闇に埋もれ、忘れ去られようとしてきた」「今後、大谷派教団が、宗門レベルでのより具体的な取り組みをし、私たち自身がこの問題に対する「学習」を継続していけるようにしたい」と述べられています。

そこには、その前年（一九九六年）に出された「ハンセン病に関わる真宗大谷派の謝罪声明」にある文言が大きく反映されていることが伺えます。声明には、「真宗大谷派は、これらの歴史的事実（教団の行為と在り方）を深く心に刻み、隔離されてきたすべての「患者」と、そのことで苦しみを抱え続けてこられた家族・親族に対して、ここに謝罪いたします。また同時に、隔離政策を支える社

取り組みの現状はどうなっているのか、そして自分が今どのような姿勢でこの問題と向き合い歩んでいるのかが問われていると感じます。

連載では、取り組みの中で出会った多くの言葉を紹介してきました。療養所に入所されている方から「関わりを持ったんだから最後までやろう」と声をかけられたことや、宗門において長くハンセン病問題に取り組んでこられた玉光順正さんから「終わらないことが始まった証拠」といった、ためまぬ歩みを続けていくという姿勢があつて初めて本当の歩みが始まっていくということを言われたことなどは、宗門とハンセン病問題の取り組みが、問題が解消して終わりではなく、謝罪声明でも謳われているように、継続的な学習が続けていくことともに、常に人間回復・解放の力と成り得るものとなることが願われているのだと思います。

今年の八月二十九日にしんらん交流館で開催された「ハンセン病問題 自主交流会」において、パネリストのお一人として登壇された徳田靖之弁護士は、「このハンセン病問題に関して、国は静かに幕引きをしようとしていますが」と述べられていました。取り組みが縮小していつて継続的な学習が続けていく者がいなくなり、そして入所者がいなくなつて療養所自体がなくなる時が、果たして問題の解決となるのでしょうか。連載第一回で

記されていた「一世紀にも及ぶ偏見と差別と迫害を受け続け、その実態は覆い隠され、歴史の闇に埋もれ、忘れ去られようとしてきた」ことが、今、まさしく起こっているのではないかと懸念します。そのことは、国が推し進めた終生絶対隔離の完成を意味するのではないかと思います。そして、その隔離政策に積極的に加担してきた宗門においても、同じようなことが言える状況になってはいないでしょうか。

今号をもって「ハンセン病はいま」は終わりますが、ハンセン病問題そのものが解決したわけではありません。いまだに本名を名のれずに生きている入所者や退所者がおられます。家族にハンセン病患者がいたことを隠して暮らさなければならぬ人がいます。「形を変えて現れてくる差別に、どうか目を光らせていただきたい」と長島愛生園の鈴木幹雄さんは語られていました。

ハンセン病問題だけでなく、まだこの社会には差別や偏見が厳然と横たわっています。これからも出会った声を語り継ぎ、そして声なき声を聞き取り、伝えていくことが、私たちにおける大切な学びの継続と取り組みであると言えるのではないかと思います。どうか今後も、ハンセン病問題に新たに関心を持てる方、自分にもできることはなにかと動いてみようとする方、そういう方が一人でも多く現れてくださることを願っております。



「ハンセン病はいま」連載第1回～第3回の誌面

会を生み出す大きな要素となる

「教化」を行ってきたことについて、すべての人々に謝罪いたします」とあり、「同時に、私たち自身が継続的な「学習」を続けていくこと、そして「教え」

の力と成り得るような、生きた教えの構築と教化を宗門の課題として取り組んでいくことをここに誓うものです」とあります。この声明の公表と同様に「ハンセン懇」が発足し、それまでは個々の活動であつたものが、以後、宗門を挙げた取り組みとなつていきました。あらためて、この第一回の文、そして、来年に公表から三十年を迎える謝罪声明を読み返す時、私たちは謝罪声明をしっかり受け止めているのか、宗門のハンセン病問題への

ハンセン病問題を考える手がかりに

改訂 ハンセン病問題に学ぶ
学習資料集
定価・1,320円(税込)

いま、共なる歩みを
―ハンセン病回復者との
出会いの中で―
定価・1,980円(税込)

増補 小笠原登
―ハンセン病強制隔離に
抗した生涯―
定価・1,100円(税込)

東本願寺出版
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る
TEL.075-371-9189 FAX.075-371-9211

詳しい書籍情報・
試し読みは

当派の寺院・教会からの
ご注文は2割引となります。

小さな人々のためにではない
 小さな人々と共にでもない
 小さな人々に許されて
 彼らの姿から真理を読み取り
 ひたすらに
 純粋なれ
 未熟なれ
 持続せよ

した。そんな折、当時の大橋宏雄委員長は「児童教化の実とは、今の私自身です」と表現してくださいました。なんて素敵な表現なのだという感動とともに、言い訳のしようがないことであるという事実を自分自身に突き付けられたように感じました。先月号の当ページに、山形で開催をした児童教化指導者研修会における近藤章氏の講義(要約)を掲載しました。その中に「児童に教化されるのが児童教化です。児童に教化される者として、私たちは小さい人の前に立つ。ただ、小さい人たちに許されて私たちは立つわけです。けれど児童を教化しなければと、間違うのです」という表現があります。どこか私の外にばかり教化対象を見ていましたが、あらためて教化対象は、何処までも私自身なのだと気づかされました。

児童教化連盟に脈々と受け継がれてきた言葉です。ここに「共に」ということが成り立つのは、唯一「浄土」であるという厳しさを感じます。こちらから「共に」ということは、上からになってしまふ。私という存在が相手に許されることで向こうからの世界が開け、初めて共に在れるのではないか。また同時に、共にということは、相手だけではなく私自身に出会わなければならないのではないか。「あなたが、共に」というのではなく、小さな人たちに許されて、あなたがここに在るのだ」と教えてくれたのも児童教化の現場でした。

かつて武内了温氏らが中心となり、宗門から発行された機関紙「児童と宗教」の巻頭言に、「穢れなき生を受けたる衆生もあらん、彼等法を聞かずば終には滅亡せん」とあります。「穢れなき生を受けたる衆生」を「小さな人」と解釈する時、彼等法を聞かずば、いったい何が滅亡するのでしょうか。彼等自身・人間・世界・未来…様々な解釈ができますが、そのすべては私自身が滅亡するという事に係っているように思います。彼等法を聞かずば終には私自身が滅亡するというところま

で、彼等の痛みを痛いと感じられるだろうか。悲しみを悲しいと感じられるだろうか。相手を理解するということではない。相手の存在に気づいたならば、そこには私にまで響く「いのち」の叫びと見えるものがあるのではないだろうか。何も感じなければ、そこに熱や動きが生まれることはない。武内氏と同時代を生きた宮沢賢治氏の「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」(農民芸術概論綱要)という言葉からも、ひしひしとこの時代を生きた人の「いのち」の叫びが聞こえてくるように感じます。

教化活動とは何か。今、「教化は如来のお仕事です」と言い訳をするわけにはいきません。青少年自死者数が二〇二〇(令和二)年以降増え、三年連続で五百人を超えています。待つた無し。動かなければいけません。教化が如来のお仕事ならば、具体的な活動こそが私の仕事です。児童を動かすのではない、私が動く。私が突き動かされる。それが児童教化の実を挙げることではないでしょうか。

『いのち』

私たちの「いのち」はどこから出発し、どこへ向かって生きているのでしょうか。仏さまは「いのち」について、単に生まれてから死ぬまでを教えているのではありません。私たちが生まれるには、それ以前の長い長い「いのち」の歴史があるのです。(本文より)

真宗大谷派青少年センター
 〒600-8164 京都市下京区諏訪町通六条下上柳町199番地 真宗教化センター しんらん交流館
 TEL:075-354-3440 FAX:075-371-6171 E-mail:oyc@higashihongan.jp.jp

編集／大谷派児童教化連盟

◆A5判／99頁 定価：600円



児童教化のページ

シリーズ 真宗大谷派における児童教化
 —子どもたちとともに、今までもそしてこれからも—

ち か い

- 一、私たちは、仏の子どもになります。
- 一、私たちは、正しいおしえをききます。
- 一、私たちは、みんな仲よくいたします。

大谷派児童教化連盟

595

児童教化の実

大谷派児童教化連盟委員長 松屏 寛
 金沢教区第八組本泉寺

児童教化

教化活動において青少年教化という言葉から、幼年を意識した青少年教化や、青年を意識した青年教化という言葉が多く使われるようになりました。ここで教化の頭につく言葉は、それぞれ教化対象を意味しています。具体的に動くために対象を意識することは、とても大切だと思います。

では、児童教化という言葉はどうでしょうか。大谷派児童教化連盟は、以前「小さな求道者と共に歩もう」というスローガンで活動していました。先輩たちは教化者として子どもたちの上に立っていないかという反省と、教化する者とされる者という関係ではなく、共に仏の教化を受ける者として出会いたいという願いから、子どもたちを「小さな求道者」と表現されたのです。児童教化とは、決して教化対象が児童であるという意味ではありません。むしろ教化者

意識を最も問われるのが児童教化であると教えられました。

日曜学校で「畜生道」を「自らを恥ずかしいと思うことのない生き方」として話をしようと思ひ、「みんなは自分を恥ずかしいと思うことがある? そんな時は「ごめんなさい」や「ありがとう」を言えるかい」と聞くと、「言ってる」と元気よく返事が返ってきました。続けて「学校の先生や友達だけでなく、家族にも言えるかい」と聞くと、「またもや「言ってる」と返ってきました。けれど、「みんなちゃんと言ってるんだね」と私が締めくくろうとした時、目の前の子から「あんたはどなんや」と言われたのです。私は「もちろん」と言いかけて言葉に詰まりました。思い返せども、父や母に面と向かって「ごめんない」を言った記憶がなかったのです。畜生道を教えるようにした上に、私自身が畜生道を歩んでいたのだと気づかされました。「教化者意識を最も問

われるのが児童教化である」という言葉を教えてくれたのは先輩ですが、その通りだと教えてくれたのは小さな人でありました。

教化者意識は意識したからといって消せるものではありませんし、何もしてないのに問うものでもありません。また、単純に教化者意識があるからいけないということではなく、むしろ動いた人にしか出てこないものです。大切なのは自分では気づけなくとも、他者をもつて知らしめられるということです。厳しいけれども、この関わりこそが児童教化の「いのち」であると思います。

児童教化の実

大谷派児童教化連盟の規約に「児童教化の実を挙げることを目的とする」とあります。当連盟の目的であるにもかかわらず、実に難解な表現です。数年前、規約改正の折に文言を変えてはどうかという意見もありました。当時の執行部でも随分と座談をしました。その時「こんな風に話し合うように、わざわざ難解な表現を残したんじゃないか」という一人の言葉に、妙に納得した記憶があります。けれど、「児童教化の実とは何か」という問いはずっと残りま

総合相談室

ご利用になる皆様の個人情報に最大限の注意を払い運営しておりますので、安心してお気軽にご相談ください。
なお、宗務所に面談にお越しになる際は事前にご予約をお願いします。

● 組織部(教務) 総合相談室 TEL: 075-371-9184 ● 結婚に関する問い合わせは vivaha@higashihonganj.or.jp

結婚相手求む

● 寺院に迎えたい (家族構成)

神奈川県	男性	44歳	両親
富山県	男性	44歳	
岐阜県	男性	40歳	両親・妹弟
岐阜県	男性	49歳	
岐阜県	男性	54歳	母・弟
岐阜県	男性	39歳	
愛知県	男性	55歳	
愛知県	男性	41歳	
愛知県	男性	49歳	
愛知県	男性	46歳	
愛知県	男性	39歳	
三重県	男性	45歳	両親
三重県	男性	53歳	両親
大阪府	男性	38歳	両親
大阪府	男性	43歳	

北海道	女性	37歳	
山形県	女性	34歳	両親
新潟県	女性	38歳	
富山県	女性	50歳	
石川県	女性	35歳	
福井県	女性	39歳	両親
岐阜県	女性	41歳	両親
愛知県	女性	30歳	
滋賀県	女性	28歳	母・妹
大阪府	女性	38歳	両親
大阪府	女性	39歳	

● 寺院に入りたい

東京都	男性	50歳
-----	----	-----

入寺希望

秋田県	男性	58歳	有教師・東北教区希望
東京都	男性	56歳	有教師
東京都	男性	42歳	有教師
東京都在住	男性	43歳	有教師
東京都在住	男性	50歳	有教師・東京教区希望
埼玉県	男性	47歳	有教師
新潟県	男性	45歳	有教師・新潟県希望
石川県	男性	67歳	有教師・富山、能登、金沢教区希望
岐阜県	男性	75歳	有教師・岐阜県希望
愛知県	男性	70歳	有教師・愛知県、岐阜県、三重県希望
京都府在住	男性	53歳	有教師
大阪府	男性	67歳	有教師・大阪府、奈良県希望
大阪府在住	男性	53歳	有教師・大阪教区希望
鹿児島県	男性	46歳	有教師

法務員・寺務員求む

北海道/山形県/東京都/埼玉県/埼玉県 證大寺/神奈川県/新潟県/新潟市 真宗寺/新潟市 超願寺/岐阜県/愛知県/大阪府/長崎県 法務員募集 詳細は面談で

後継者求む

北海道	有教師	50歳まで
北海道	有教師	25歳まで
北海道	有教師	要運転免許・40代まで
北海道	有教師	性別・単身・家族連れ不問・69歳まで
秋田県	有教師	性別・単身・家族連れ不問・50代くらいまで
山形県	有教師	性別・単身・家族連れ不問・50代くらいまで
宮城県	有教師	単身・家族連れ不問
長野県	有教師	50代まで
長野県	有教師	
新潟県	有教師	
新潟県	有教師	家族連れ・40代まで
新潟県	有教師	65歳くらいまで・要運転免許
東京都	有教師	50代まで・要運転免許
富山県	有教師	家族連れ・50代くらいまで
富山県	有教師	家族連れ・40代くらいまで
富山県	有教師	70歳くらいまで・要運転免許
石川県	有教師	40代くらいまで
石川県	要運転免許 性別・単身・家族連れ不問・50代くらいまで	
石川県	有教師	家族連れ・40代まで
石川県	有教師	家族連れ・50代まで
石川県	有教師	家族連れ
福井県	有教師	家族連れ・60代くらいまで
岐阜県	有教師	20~40代まで
岐阜県	有教師	家族連れ・50代まで
愛知県	有教師	家族連れ・40代くらいまで・要運転免許
愛知県	有教師	家族連れ
愛知県	有教師	家族連れ
愛知県	有教師	30代くらい
愛知県	有教師	家族連れ・40代くらいまで
愛知県	有教師	45歳まで
三重県	有教師	男性・40代まで
三重県	有教師	
滋賀県	有教師	
滋賀県	有教師	
滋賀県	有教師	50代くらいまで
滋賀県	有教師	家族連れ
滋賀県	有教師	
滋賀県	有教師	家族連れ
滋賀県	有教師	家族連れ・40代まで
滋賀県	有教師	要運転免許・65歳まで
福岡県	有教師	家族連れ
福岡県	有教師	家族連れ・60代くらいまで
長崎県	有教師	家族連れ
鹿児島県	有教師	独身・30代まで
鹿児島県	有教師	

法務員・手伝い希望

長野県	男性	有教師
三重県	男性	有教師 愛知県希望
滋賀県	男性	有教師 滋賀県・京都市希望
福岡県	男性	



↑「後継者相談」入寺希望について、宗派公式ウェブサイトでも情報登録並びに情報提供に関するお申し込みを受けています。



本堂で時間を過ごす子どもたち

八月、砺波市五郎丸にある浄蓮寺では、子どもたちの元気な正信偈のお勤めの声が本堂いっぱいに響き渡っていた。
この日参加したのは三十四名。夏休みの間、毎日お寺で過ごす子どもたちだ。
浄蓮寺のすぐそばには小学校があり、近年は新しい住宅も増えている。学校の隣には放課後児童クラブがあるが、さまざまな事情で

ここに集う子どもたちは、みんな本堂に「かたい」「かたい」とは、富山の言葉で「おりこうさん」という意味だ。住職の宏昭さんや久美子さんの話をよく聞き、正信偈を一生懸命に書く。
「あいつをする」「人のいやがることはいない」「使ってもいい場所」「お片付け」——どれも小学校一年生にもわかるシンプルな約束ばかり。そしてもう一つ、「どの子もその家庭の宝物である」。その思いを何より大切にしている。
この二つの「約束」があるからこそ、三十名を超える子どもたちも安心して過ごせるのだという。

今日も浄蓮寺の本堂には、子どもたちの笑顔と笑い声がふれている。お寺が地域のあったかな居場所となり、次の世代をやさしく包み込んでいる。
(富山教区通信員・山田晋太郎)

夏の本堂に響く子どもたちの声
——笑顔あふれる浄蓮寺子ども会——

230

浄蓮寺

富山県砺波市五郎丸四八一番地
(富山教区第二組)
住職 天野 宏昭



「正信偈」のお勤め

利用できない家庭もある。そんな中で、両親の帰りを一人待って、鍵つゝたちを中心に、浄蓮寺では子どもたちを受け入れている。参加するのは門徒の子どもに限らず、地域の多くの家庭にも広がっている。
この活動の始まりは、およそ二十年前にさかのぼる。前住職のお連れ合いがご病気となり、その看護のために坊守の久美子さんは小学校教員を退職された。当時この地域には放課後児童クラブがまだなく、久美子さんは看護のかたわら主任児童委員として、その立ち上げにも力を尽くしたという。



本堂に貼られた「やくそく」

懸命にお勤めする。そのあとは宿題をし、おやつを食べ、そして思いきり遊ぶ。真夏の炎天下でも元気いっぱい笑顔が絶えない。そんな子どもたちを温かく見守るのは、住職ご夫妻のやさしい人柄と、長年の教員生活で培われた経験と心構えだ。本堂の壁

真宗大谷派教師資格取得コース 2026年4月開設

大谷大学では2026年4月より、2年間で真宗大谷派教師資格を取得するための「真宗大谷派教師資格取得コース」をスタートします。真宗学科・仏教学科で開講されている科目をベースに、コース独自の「教師演習」などの科目を履修していきます。

< 真宗大谷派教師資格取得コースの特徴 >

- ①2年間で真宗大谷派教師資格が取得できる
- ②仏教・真宗の基礎を学ぶ
- ③大学院での専門的な研究につなげる
- ④大学の学習環境を利用できる

◆ コース履修生の概要

「コース履修生」とは、所定のテーマについて体系的に学修することを目的とし、指定された科目、単位及び期間で履修する者をいいます。「真宗大谷派教師資格取得コース」は、真宗大谷派教師の補任を受けようとする方に対し、教師資格取得の道を開くことを目的として、本学科目等履修生制度の中に開設するものです。

履修期間：2年 履修単位：72単位 履修料：2年間 1,080,000円

※選考料等出願に係る費用、一泊研修・修練実加金が別途必要となります。

◆ 出願・手続きについて

出願期間ならびに手続き期間は2026年3月下旬を予定しています。詳細は2026年1月以降、大学HPにて公開予定です。

出願資格：

- ・真宗大谷派僧侶もしくは得度見込みの者
- ・4年制大学・短期大学等を卒業、もしくは卒業見込みの者
- (4年制大学の第2学年を修了した者で在学中の出願も可)

※詳細は大学HPをご確認ください。

コースの詳細や

お問い合わせはこちらから

※詳細内容は変更となる可能性があります。

大谷大学HP



真宗大谷派教師
資格取得コース

お問い合わせ



仏教教育センター

2026年度 大谷大学入学試験**一般入試 [第1期]**

[大学入学共通テスト利用入試]

12月17日(水) 出願開始!

【一般入試 [第1期] のポイント】

- ・優秀な成績で合格した方を対象として入試特別奨学金を給付します
- ・1回の受験で学部を問わず2学科(教育学部は各コースを学科とみなす)まで併願できます
- ・複数日程受験の場合、各教科それぞれの最高点の合計点で判定します(ハイスコア方式)
- ・京都(本学)試験場以外に全国8都市に学外試験場を設置します

出 願 期 間	[第1期]
	12月17日(水)~1月16日(金)
	[大学入学共通テスト利用入試]
	12月17日(水)~1月21日(水)
試 験 日	2月4日(水)、5日(木)、6日(金)
	※[大学入学共通テスト利用入試]は、本学での個別学力試験は課しません
合 格 発 表 日	2月14日(土)

入学試験の
詳細や資料請求は
こちらから



〒603-8143 京都市北区小山上総町 入学センター

TEL:075-411-8114 FAX: 075-411-8160

E-MAIL:nyushi-c@sec.otani.ac.jp



大学HPはこちらからご覧になれます ▶



書いて学ぶ **親鸞のことば**

歎異抄

鶴見 晃 著

「歎異抄」「師訓篇」から要となる言葉を、ペンや鉛筆でなぞりながら学べ、お一人でも、お寺の集いの場でも活用いただけるテキスト。平易な現代語訳、仏教語の注、読み解きのためのコラム付き。



B5判 / 56頁 定価：660円(税込)

当派の寺院・教会からのご注文は2割引となります。



〒600-8506 京都市下京区烏丸通七条上る
TEL:075-371-9189 FAX:075-371-9211

詳しい書籍情報・試し読みは

東本願寺出版 **検索**

愛知県 長泉寺様
本堂屋根改修工事(チタンカナメ段付本瓦葺き)

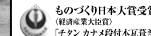
想いを匠技でかたちにする

カナメの社寺建築

株式会社 カナメ

社寺新築・改修工事
チタン屋根 / 地震台風対策
太陽光発電など

本 社
栃木県宇都宮市平出工業団地38-52
TEL.028-663-6300
名古屋支店
TEL.0586-71-2882
岡山支店
TEL.086-245-2541



最新刊

曇鸞の浄土仏教思想論
武田龍精著 定価2,600円(税込)

曇鸞浄土仏教が大乗仏教思想に与えた影響と思想的意義を考察する。主たる内容として、浄土論と往生論註との間の関係／救済論成立の根拠／底流にある他力の哲学／曇鸞・道綽・善導における仏身論の比較思想論／など。

『俱舍論』とその諸註釈における三世実有論批判の研究―仏教の時間論―
那須円照著 定価1,210円(税込)

アビダルマ仏教の最盛期の学説綱要書である世親著『俱舍論』と、そのインドの諸註釈書の中の、『随眠品』における説一切有部の三世実有論を紹介し、それに対する経量部の立場からの批判について論じた箇所を解説・和訳する。

**鏡如上人(大谷光瑞)及び
籌子裏方年譜**
赤松徹眞編 定価1,540円(税込)

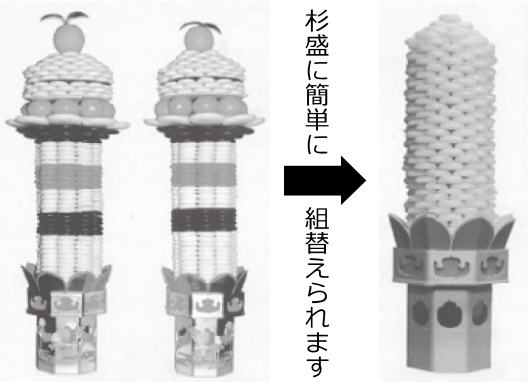
本年譜は、本願寺教団の管長・宗主として多角的な視野と構想により教団を統率・運営し、内閣顧問などにも就任した鏡如上人(大谷光瑞)と、総裁として各地の仏教婦人会の結成や活動に尽力した籌子裏方の事績を編纂したもの。

東西本願寺120のちがい
鎌田宗雲著 定価3,300円(税込)

主に前半は、東西本願寺の組織・寺紋・莊嚴・勤式・作法など一〇項目のちがいを紹介する。後半は、歴史的な視点も踏まえて東西本願寺のちがいに着目し、主にお東騒動に関して時系列で振り返りながら解説する。

永田文昌堂 〒600-8342 京都市下京区花屋町通西洞院西入 TEL 075-371-6651 FAX 075-351-9031

新案 須弥盛 (オリジナル商品)



新案須弥盛の特徴

「新案須弥盛」は、お華束を須弥型や杉盛に盛るための仏具です。「新案須弥盛」は芯棒を中心に食品サンプルと同じ素材で出来た餅板を重ねて出来ていますので、間にお餅を挟んだりしても違和感がありません。どこの部分までを仏具として使用されても、そのすべての使い方に対処出来るように設計されております。

「新案 須弥盛」の詳細は「京仏具犬塚ホームページ」でどうぞ



御読みの京佛具を真心こめてつくる店

京佛具 犬塚

☎ 060-8150 京都市下京区東洞院通上珠数屋町角

☎ 075-351-6553 FAX 075-341-0414

御連絡はフリーダイヤル ☎ 0120-20-6553 でどうぞ



同朋大学
DOHO UNIV.

～共なるいのちを生きる～

2026年度 入学者選抜試験日程

<文学部・社会福祉学部>

選抜試験	出願期間	試験日	合格発表
一般選抜 1期(A方式)	1月5日(月)～ 1月21日(水) [消印有効] (窓口受付:1月22日(木) 10:00～16:00)	1月31日(土)	2月5日(木)
一般選抜 1期(B方式)		2月1日(日)	
総合型選抜 (自己推薦) 2期			
総合型選抜 (個別課題取組型) 4期	エントリー:12月8日(月)～ 12月19日(金) [消印有効] (窓口受付:12月22日(月) 10:00～16:00) 課題・出願: 1月5日(月)～1月21日(水) [消印有効] (窓口受付:1月22日(木) 10:00～16:00)	2月1日(日)	
大学入学共通テスト利用選抜 (前期)	1月14日(水)～2月2日(月) [消印有効] (窓口受付:2月3日(火) 10:00～16:00)	(大学入学共通 テストの点数 のみで判定)	2月13日(金)

※上記以外の試験制度もあります。詳しくは同朋大学Webサイトをご覧ください。

同朋大学 仏教文化研究所 後期史料展示

近代宗教史の中の如来教 名古屋の「世に知られぬ一種独特」の宗教

会 期: 2025年11月26日(水)～12月13日(土)

開室時間: 平日のみ 9:30～17:00 ※特別開室 12月13日(土) 11:00～16:00

会 場: Doプラザ閣蔵 1階 ギャラリーDo (同朋学園名古屋キャンパス)

★12月13日(土)はオープンキャンパス開催。詳しくは大学WEBでご確認ください。




「お経様」(如来教教祖の説教録:親鸞、報恩講が話題となる場面) 姫様御像(姫姓如来喜之肖像)

おそらく最初の如来教展示

如来教は、元武家奉公人喜之のもと、1802年の名古屋城下で開かれた。
この「世に知られぬ」如来教の史料に刻まれた名古屋の人々の信仰と宗教の近代経緯を読み解いていく――

同朋大学

E-MAIL: nyushi@doho.ac.jp FAX: 052-411-4124

〒453-8540 名古屋市中村区稲葉地町 7-1 WEB: https://www.doho.ac.jp/

■文学部
仏教学科 / 人文学科

■社会福祉学部
社会福祉学科
心理学専攻 / 社会福祉専攻 / 子ども学専攻

■大学院
人間学研究科 仏教人間学専攻
仏教文化分野 / 人間福祉分野 / 臨床心理分野

■別科
仏教専修

地区	組	団体名	引率者名	人数	期間
北海道	第5	帰敬式奉仕団	浅野世央	19	10/18
東北	第19	西念寺奉仕団	鈴木湧生	16	10/18
山形	第8	推進員後期教育奉仕団	大谷至学	19	10/18
東京	東京第4	願正寺奉仕団	竹川英紀	15	10/13
東京	茨城第2	阿彌陀寺奉仕団	大山信敬	8	10/26
新潟	第10	第10期真宗講座奉仕団	多田 馨	10	10/11
新潟	高田第12	同朋の会推進講座後期教育	堀井光英	10	10/26
新潟	第4	門徒会奉仕団	深澤賢慈	17	10/28
新潟	第4	ボーイスカウト愛知連盟	武野祐丸	9	10/19
新潟	第4	推進員養成講座後期教育	小笠原史哉	10	10/2
新潟	第21	推進員養成講座後期教育	小島大真	10	10/23
新潟	第22	真宗同朋の会推進講座後期教育	中野晃人	30	10/2
京都	近江第2	空・念	園 大寛	8	10/12
京都	長浜第20	女性会本願寺奉仕団	山田孝夫	10	10/11
京都	長浜第21	門徒会奉仕団	藤中博行	13	10/5
京都	長浜第24	門徒会推進員協議会奉仕団	藤江孝昭	17	10/12
京都	出雲	同朋の会推進講座後期教育	原田祐介	10	10/23
大阪	第22	西行寺門徒奉仕団	松山大介	10	10/12
九州	三潁	妙行寺門徒奉仕団	田中雅俊	18	10/11
九州	奥豊後	東本願寺体験奉仕団	多田英俊	10	10/29
九州	奥豊後	東本願寺体験奉仕団	西田和正	5	10/30
九州	奥豊後	東本願寺体験奉仕団	白井静子	5	10/6
九州	奥豊後	東本願寺体験奉仕団	白井静子	5	10/6

計23団体
428名

▼真宗本願奉仕(25・10月)▲

真宗本願奉仕・縁・諸研修報告

〔研修部〕

研修・会議名	担当部	人数	期間
名古屋大谷高等学校本校本山研修①	教育部	172	10/15
名古屋大谷高等学校本校本山研修②	教育部	155	10/16
名古屋大谷高等学校本校本山研修③	教育部	158	10/17
名古屋大谷高等学校本校本山研修④	教育部	87	10/21
小松大谷高等学校本校本山研修⑤	教育部	103	10/22
小松大谷高等学校本校本山研修⑥	教育部	110	10/23
稚内大谷高等学校本校本山研修⑦	教育部	49	10/28
住職研修	教育部	50	10/28

計8団体
884名

▼諸研修(25・10月)▲

計4期間
4団体
33名

▼縁(25・10月)▲

様々なリスクから皆様をお守りするために！

真宗大谷派 団体医療・がん補償制度

真宗大谷派 寺院・教会施設賠償責任保険

保険期間 2026年1月1日(午後4時)～2027年1月1日(午後4時)までの1年間

募集締切日 ● 2026年1月1日から責任開始の場合 …… **2025年12月5日(金)**
● 中途加入の場合 …… **毎月月末**
申込月の翌々月1日が保険責任開始となります。中途加入は2026年7月末日まで受付しております。

◆補償の内容等、詳細につきましては教務所より送付されるパンフレットをご参照ください。また、お申し込みの希望やお問い合わせがございましたら、パンフレット記載の各教区担当の募集代理店までお問い合わせください。

引受保険会社 **東京海上日動火災保険株式会社** (事務とりまとめ担当課) 京都本部京都開発課
〒600-8570 京都市下京区四条通富小路角 TEL:075-241-1156

宗祖の著作を とおしてあらためて 学ぶ機縁に

宗祖親鸞聖人著作集 三

聖教編纂室(編)／東本願寺出版(発行)

宗祖親鸞聖人が撰述された和讃をはじめとした聖教(『浄土和讃』『高僧和讃』『正像末和讃』『正信念仏偈』『皇太子聖徳奉讃』『大日本国粟散王聖徳太子奉讃』)の本文及び左訓の翻刻を収載しています。『真宗聖典 第二版』と照応しながら、原典に立ち返った学びを進めるための開法テキストです。

A5判・箱入り 460頁 定価：4,950円(税込)

東本願寺出版
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る
TEL.075-371-9189 FAX.075-371-9211

詳しい書籍情報・
試し読みは

東本願寺出版

検索

当派の寺院・教会からの
ご注文は2割引となります。

解放運動推進本部

〒600-8164 京都府京都市下京区鬻訪町通六条下る上柳町199番地 真宗教化センター しんらん交流館
TEL.075-371-9247 FAX.075-371-6171

2025年度 人権週間ギャラリー展 御同朋からの問いかけ

2023年、学習冊子『是旃陀羅問題について』が発刊され、解放運動推進本部では、同冊子において明らかにされた課題の説明と、各教区における具体的な展開を要請してきました。

また、この2年間ににおいては、学習テキスト『御同朋を生きる』の発刊や、部落解放同盟広島県連合会との組織的対話を行ってきたこと、さらには広島部落解放研究所による『「御同朋を生きる」の問題点と疑問』の発刊など、「是旃陀羅」問題をめぐる取り組みに広がりが見られるようになってきております。

そこで今年度のギャラリー展においては、テキストの内容および2年間の取り組みによって整理された課題をふまえ、従来のパネルを再構成した展示を行います。これにより、学習テキストの理解をより深めやすくし、広く共有して議論を進めるための手がかりとするものであります。

お近くにお越しの際は、ぜひお気軽にお立ち寄りください。

展示期間 2025年12月4日(木)～12月24日(水)

観覧時間 9時～16時

会場 真宗本廟参拝接待所ギャラリー1階

- 内容
1. 「旃陀羅」差別と仏教
 2. 教団の歴史的罪責
 3. 御同朋御同行への裏切り
 4. 『観経』序分をどのように読むのか

【お問い合わせ】解放運動推進本部 TEL:075-371-9247



人権週間ギャラリー展ポスター

企画調整局 寺院活性化支援室

〒600-8164 京都府京都市下京区鬻訪町通六条下る上柳町199番地 真宗教化センター しんらん交流館
TEL.075-371-9208 FAX.075-371-6171

2025年度「元気なお寺づくりオンラインセミナー」参加者募集

「新たな取り組みを自分たちで考えることができるようになりたい方」

「ご門徒と共に、お寺の将来について考える機会がほしい方」

昨年度に引き続き、全国の寺院を対象に「元気なお寺づくりオンラインセミナー」を開催します！
本セミナーを通じて、参加者がそれぞれの寺院の強みや独自性と向き合い、「自坊ならば何ができるのか？」を検討し、中・長期的な活動計画書を作成します。新たな一歩を踏み出しましょう。

1 日程	日程	内容
第1回	2026年1月20日(火)	お寺を取り巻く環境の変化を見てみよう
第2回	2026年2月4日(水)	お寺の強みを見出し、お寺の使命を考えよう
第3回	2026年3月10日(火)	お寺の将来像を描こう
第4回	2026年4月6日(月)	伝わる企画を立案し、計画を具体化しよう
第5回	2026年5月22日(金)	「寺業計画書®」発表

※いずれの回も開催時間は15時～18時となります。
ただし、進行により若干終了時間が変動する場合があります。

- 2 開催形式 オンライン (Zoom)
- 3 対象 真宗大谷派の寺院で寺族と門徒のペア、または寺族の個人参加
- 4 参加費 無料
- 5 申込方法 右記ホームページ (浄土真宗ドットインフォ寺院活性化支援室) 内の申込フォームより受け付けます。
- 6 申込期限 2026年1月9日(金) まで



お申し込みはこちら

【2024年度受講者の声】

他者と語り合う中で、「自分がお寺をどうしていきたいのか？」心の奥底に抱えていた思い、胸の内にある本音に気づくことができた。

発表する中で、自分の「寺業計画書®」だけにとどまらず、導かれながら学びを深めていくことの大切さを感じた。

「やること」を積み重ねるのではなく、「使命」を軸に据えて整理し、実行に落とし込むことの大切さに直面した。



お問い合わせ：真宗教化センター寺院活性化支援室 (寺院運営活性化支援担当)
TEL:075-371-9208 mail:kyokacenter_shienshitsu@higashihonganji.or.jp

教 育 部

〒600-8505 京都府京都市下京区烏丸通七条上る常葉町754番地
TEL.075-371-9193 FAX.075-371-9223

2026年「教師資格取得準備学習会」募集要項

教師試験検定を受験し、真宗大谷派教師資格の取得を志している方のために、東本願寺「真宗会館」を会場として「教師資格取得準備学習会」を開催しています。

本年は、これまでに教師試験検定に向けての学びを進めてこられた方を対象として、「教師資格取得準備学習会」の受講者を下記のとおり募集いたします。

なお、本学習会は東本願寺出版発行のテキスト(『浄土の真宗』、『改訂 大乘の仏道』、『改訂 教団のあゆみ』、『真宗の儀式』、『真宗大谷派宗憲・宗教法人法』)をすでに学習していることを前提として講義を行います。

- 1 受講資格 教師資格を有しない18歳以上の真宗大谷派僧侶
 - 2 定 員 20名(先着順)
※申込が12名に満たない場合、開講しません。
※開講しない場合、申込された方に対して12月下旬までにご連絡いたします。また、受講願・研修冥加金については所轄教務所を経てお返しします。
 - 3 開設期間 2026年2月4日(水)～2月24日(火) ※土曜日・日曜日は休講とします(祝日は開講)。
 - 4 会 場 東本願寺「真宗会館」〒177-0032 東京都練馬区谷原1-3-7
 - 5 講義科目及び講師
真 宗 学 本明 義樹 氏(大谷大学准教授)
仏 教 学 松下 俊英 氏(教学研究所研究員)
教 化 小林 尚樹 氏(東京教区光明寺住職)
声 明 作 法 友松 雅英 氏(准堂衆)
法 規 菴原 宏行 氏(東京宗務出張所次長)
特別講義1 海 法龍 氏(東京教区長願寺住職)
特別講義2 中山 量純 氏(解放運動推進本部本部委員)
 - 6 開 講 時 間 8時50分～18時30分(講義8時間、昼食休憩1時間)※講義中は適宜休憩をとります
 - 7 研修冥加金 150,000円(申込書類提出時に教務所で納入のこと)
 - 8 宿泊・食事 ①宿泊は各自で手配してください(東本願寺「真宗会館」での宿泊はできません)。
②日程中の昼食(弁当)は当方で手配します(不要な場合キャンセル可能)。
※食事代は開講式当日、受付にて一括納入ください(1,000円/1食)。
 - 9 申 込 方 法 所定の「教師資格取得準備学習会受講願」に写真1枚(上半身脱帽・4cm×3cm)を貼付のこと。
※研修冥加金を添えて所轄の教務所に提出してください。
 - 10 申 込 締 切 2025年12月18日(木) 教務所必着
※締切日前であっても定員になり次第募集を締め切りますので、受講願提出にあたって教育部まで電話にて受講申込状況を必ずご確認ください。
※受講願及び研修冥加金は一切返却しません(開講しない場合を除く)。
 - 11 そ の 他 受講者には、1月中旬頃に発送する「受講許可通知」にて詳細をお知らせします。
- 【お問い合わせ】教育部 TEL:075-371-9193
- 宗派公式ウェブサイトにて、日程表・受講願がダウンロードできます⇒



教 育 部

〒600-8505 京都府京都市下京区烏丸通七条上る常葉町754番地
TEL.075-371-9193 FAX.075-371-9223

学階請求論文提出要項

- 1 提出期間 2026年2月2日(月)～27日(金) 各日9時～17時受付(時間厳守) ※土・日・祝を除く
 - 2 提出方法 ①持参の場合 事前に教育部まで提出日時をご連絡のうえ、請求者本人が下記5の提出書類、**下記7の冥加金を併せて持参し**提出してください。
②郵送の場合 提出期間内必着にて、下記5の提出書類のみを書留郵便にて送付ください。**下記7の冥加金は書類確認を経て受理が決定した後、振込にて納金となります(教育部から振込先口座をご案内)**。※体裁の不備により不受理の場合は料金着払いにて書類一式を返送します。
 - 3 提出先 真宗大谷派宗務所 教育部(〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る常葉町754番地)
 - 4 提出資格 ①**学階請求論文** 真宗大谷派教師であって大学卒業と同等以上の学力を有する者、又は進業を許可された者
②**擬講請求論文** 学階授与から2年以上を経た者
③**嗣講請求論文** 擬講である者
※真宗学又は仏教学に関する刊行著述のある者は、論文による請求に準じて、当該刊行著述による嗣講請求ができます。ただし、別途、提出にかかる要件がありますので、予め時間に余裕をもって教育部にご相談ください。
 - 5 提出書類 ①学階銓衡願 1通(2020年度より様式変更。教育部までご請求、もしくは下記URLよりダウンロードください)
②履歴書 1通(2020年度より様式変更。教育部までご請求、もしくは下記URLよりダウンロードください)
③最終学歴卒業証明書(学階請求論文提出者のみ)
④提出論文 4部(下記6「体裁」に記載の要件を整えること)
※学階請求論文提出者は、口述試問時に持参するものとして、さらに1部論文の控えをご用意ください。
 - 6 体 裁 (体裁が整っていない場合は不受理となるので厳守のこと)
(1)字 数 (出典や注は字数に含めない)
①学階請求論文 20,000字以上50,000字以内
②擬講請求論文 50,000字以上100,000字以内とし、副論文の添付を妨げない。
③嗣講請求論文 字数は無制限とし、副論文の添付を妨げない。
(2)用 紙 「真宗大谷派論文用紙」を使用、もしくは同様の体裁で作成のこと。詳細は教育部までお問い合わせ、もしくは下記URLよりダウンロードが可能です。印刷してご使用ください。
・真宗大谷派論文用紙(縦書) A4・40×20行・12ポイント・上部余白(出典等記入欄)
・真宗大谷派論文用紙(横書) A4・40×20行・12ポイント・下部余白(出典等記入欄)
・手書き用原稿用紙(縦書のみ) A4・20×10行・上部余白(出典等記入欄)
(3)表記・製本・引用等について
①製本 片面印字とし、表紙をつけて和綴じ又は洋綴じで製本する(縦書論文は縦書表紙で右綴じ、横書論文は横書表紙で左綴じ)。表紙の様式は下記 URL から見本を参照、もしくは教育部までお問い合わせください。
②表記・引用・注釈等について
・目次を必ず付すこと。 ・句読点などの禁則処理を行う。
・引用文献は凡例と共に必ず明記する。
・引用は鍵括弧(英文やサンスクリットのローマ字表記などはクォーテーションマーク)で括る、または行を改め、2字下げで記す(この際、前後に空白行を設けない)。その他の引用表記を用いる場合は凡例に示すこと。
・聖教の出典は『真宗聖教全書』、『定本親鸞聖人全集』、宗派発行の『顕浄土真実教行証文類(翻刻篇)』、『宗祖親鸞聖人著作集』を基本とする。
・漢文の經典及び聖典は漢文のまま引用し、返り点などがある場合は省略せずに記入する。
・出典は原則、当該箇所の上余白(縦書きの場合は上部、横書きの場合は下部)に記す。ただし、余白に収まらない場合は巻末もしくは章末にまとめて表記も可とする。
・注釈は、当該箇所の上余白に脚注として記す、または後注として巻末もしくは章末にまとめて記す。
・論文用紙下部(手書き用紙の場合は左部記入欄)に頁番号を記入する。
 - 7 学事冥加金 ①学階 50,000円 ②擬講 70,000円 ③嗣講 100,000円
納入された冥加金は銓衡結果にかかわらず返金いたしません。
 - 8 口述試問 学階請求論文提出者には口述試問を行います(口述試問の日は論文提出後あらためて通知)。
 - 9 銓衡結果の通知 学階銓衡会の審査を経て、2026年7月以降に書面をもって通知します。
 - 10 そ の 他 学階を授与された方は3年以内に真宗大谷派教学大会にて研究発表をお願いします。
- 【お問い合わせ】教育部 TEL:075-371-9193

学階銓衡願・履歴書・論文用紙は、こちらよりダウンロードいただけます⇒
<https://www.higashihonganji.or.jp/news/notice/0006373/>

教 育 部

〒600-8505 京都府京都市下京区烏丸通七条上る常葉町754番地
TEL.075-371-9193 FAX.075-371-9223

2026年 春期教師試験検定要項

- 1 期 間 2026年3月7日(土)から8日(日)まで
- 2 会 場 真宗本廟（東本願寺） 宗務所等
- 3 科 目 真宗学・仏教学・教化・声明作法・法規
- 4 日程（予定） 7日(土) 9:00～12:20 声明作法〔筆記及び実技〕
13:40～14:30 法 規〔筆記〕
14:50～15:40 仏 教 学〔筆記〕
16:00～18:00 教 化〔面接〕
※小論文（事前提出レポート）あり
8日(日) 9:00～9:50 真 宗 学〔筆記〕
14:00～15:30 教師試験検定受験者講習（受講必須）
16:00頃 合格発表
16:20頃 合格証・科目合格証明書交付
合格者は引き続き「教師修練説明会」
- ※教師試験検定受験者講習は受験者全員受講のこと。受講しない場合、試験の合格は認めない。
※詳細は、受験票交付時（2026年1月中旬頃送付予定）に併せて通知する。
- 5 受 験 資 格 真宗大谷派僧侶で満18歳以上の者
- 6 試 験 形 態 〔真宗学・仏教学・法規〕
筆記試験により行う。
〔声明作法〕
筆記試験及び実技試験とし、実技試験は声明作法〔浄土三部経（抄）・正信
偈草四句目下・念仏和讃三淘・御文（五帖目）〕並びに装束作法の習得状況
を確認する。なお、筆記・実技それぞれにおいて所定の点数を満たさなけれ
ば合格とはならないので留意のこと。
〔教 化〕
事前に課す小論文（レポート）及び試験当日の面接により行う。
- 7 受験時の服装 間衣、輪袈裟、小念珠
※洋服の上に間衣の着用は可。ただし、教師資格取得を目指す者として品位
のある服装（襟付きシャツ等）での受験を心がけるようにして、Tシャツ・
ジーパン・作業衣等の軽装・作業着は不可。
〔声明作法 実技試験受験時の装束〕
法陂法衣条例施行条規に定める服装構成のうち、第五種及び第八種。
第五種：直綴、五条袈裟、中啓、半装束念珠
第八種：間衣、輪袈裟、小念珠
內衣は白服とし、襦袢、下着はU首またはV首シャツ（いずれも白色に限
る）、ズボン下またはすそよけ、白帯（マジック帶不可）、腰紐、白足袋（小
鉤のあるものに限る）
※第五種、第八種ともに試験で依用するので両方持参のこと。
※試験当日、係員の指示に従い同朋会館の改着室にて装束に着替えること。

8 受験時の持ち物

受験票・筆記用具
「真宗学」受験者は『真宗聖典 第二版』（試験への持ち込みを必須とする）
「声明作法」受験者は以下の経本・声明集
・『浄土三部経（抄）』（法藏館）※昭和法要式の使用は認めない
・『真宗大谷派声明集』（東本願寺出版）もしくは『大谷声明集（上）』（縮刷版
可）（法藏館）
・『真宗大谷派 御文拝読稽古本』（東本願寺出版）もしくは『大正新刻 御文』
（法藏館）もしくは『昭和新刻 御文（ひらかな版）』（法藏館）
※貸し出しなどの対応は一切しないので必ず持参のこと。
※前回（2025年夏期検定）以降、持ち物が一部変更（『真宗聖典 第二版』『浄
土三部経（抄）』（法藏館））されているので注意のこと。

9 小 論 文

「教化」受験者は小論文（事前レポート）を郵送により提出してください。レ
ポートの「課題」、「字数指定」、「提出締切日（2月上旬予定）」、その他詳細は
受験票交付時（1月中旬頃送付予定）に、所定のレポート用紙を添えて通知い
たします。

10 出願受付期間

2025年12月11日(木)から12月18日(木)まで ※所轄の教務所へ提出のこと。

11 受験票の交付

受験願書を教育部で受理した後、受験票を交付（願書に記載の住所へ郵送）し
ます。

12 検 定 異 加 金

100,000円（出願書類とともに納入のこと）
※科目別受験の場合は、1科目につき20,000円
※検定異加金の改定により、今回から上記の金額となります。

13 出 願 書 類

所定の「教師試験検定願書」及び「履歴書」
写真2枚（3ヵ月以内に撮影したもので、上半身脱帽・4cm×3cm）
※内写真1枚は、願書に貼付のこと。
※「教師試験検定科目合格証明書」を有する者は、願書の受験科目記入欄に
証明書の発行年月を記入のこと。なお、証明書の添付は不要。
【証明書は3ヵ年有効（発行日が2023年8月以降のもの）】
※願書及び検定異加金は一切返却しません。

※免除科目の申請について

- ①教師条例施行条規第9条第1項第1号に該当する者は、真宗学もしくは仏教学の2科目について
免除科目申請を行うことができます。所轄教務所への願書提出前に、予め教育部に連絡の上、「卒
業証明書」及び「成績証明書」を教育部宛に送付してください。なお、教育部にて受理審査後、
免除科目を通知しますので、所轄教務所にて通知文を添え手続きしてください。
- ②他派の教師であって本派に転属した者は、別手続きとなりますので、予め教育部まで連絡をくだ
さい。免除科目を確認するとともに、教育部の指示に従って出願していただくことになります。

【お問い合わせ】 教育部 TEL:075-371-9193

宗派公式ウェブサイトにて、教師試験検定に向けて学びを進められる方への参考書や
学習のポイントなどをご紹介しています。



研 修 部

〒600-8308 京都府京都市下京区七条通新町東入ル新シ町121番地
研修道場 TEL.075-371-9271 FAX.075-371-9201

2025年度下半期 教師修練【前期】実施要項

- 【目 的】 教師修練は、教師の初補を受けるにあたり、仏祖崇敬の念をもって、教法を聞思し、儀式執行の行儀を習得して、宗門荷負の責務を自覚せしめることを目的とする。
- 【期 間】 2026年3月23日(月)～3月29日(日)【定員10名】
書類提出締切：2026年2月16日(月)
※2026年3月検定合格者については、合格発表当日の説明会にてご案内します。
※必ず書類提出前に受講希望者本人が研修道場までご連絡ください。定員になり次第、締め切ります。
※受講希望の連絡は、2025年11月4日(火) 午前9時から受け付けます(電話受付は16時30分まで)。
- 【場 所】 真宗本廟 研修道場〔京都市下京区烏丸通七条上る 真宗本廟(東本願寺)内〕
- 【資 格】 真宗大谷派僧侶で、教師試験検定合格者および無試験検定有資格者
- 【提出書類】 ①教師修練願書 ②履歴書 ③受講者事前資料【前期】④身元(身分)証明書
※①～③は、所属教区の教務所から取り寄せてください。
※④は「成年被後見人または被保佐人の通知を受けていない。破産宣告または破産手続き開始の通知を受けていない」という証明です。住民票や戸籍抄本ではありません。各自の本籍地の役所で、3ヵ月以内に取得したものを提出してください。
※教師試験検定合格者は、①～③のほか「教師試験検定合格証(コピー)」が必要で。
※無試験検定有資格者は、①～③のほか「大谷派教師課程単位取得証明書および卒業証明書」が必要です(単位を取得した学校・学院にて発行)。
- 【レポ ー ト】 『仏の名のもとに』、『部落問題学習資料集』所収の、①「宣言」(12頁)、②「決議」(13頁)、③「部落内の門徒衆へ!」(17頁～18頁)、④「西光万吉の初期思想」(21頁～23頁)、⑤「大谷派における差別事件をめぐる」(53頁～56頁)、⑥「米田富の怒り」(76頁)を読んで、「部落差別問題について思うこと」を書いたレポート(500字以上1,000字以内)を書類とともに提出のこと
- 【書類提出締切】 所属教区の教務所に上記締切日の16時までに提出のこと
- 【修 練 受 付】 研修道場隣接の和敬堂にて、修練初日の午前8時～8時30分(時間厳守。遅刻者は受け付けません)
- 【冥 加 金】 75,000円(修練初日の受付時に納入)
- 【修 練 内 容】 講義(全文筆記を原則とします)・学習・攻究・座談・声明作法・清掃奉仕等
- 【そ の 他】 「服装・携行品」「教師修練にあたっての注意事項」については宗派ウェブサイト内の「教師修練 実施要項」の【その他】(青字表記)から必ずご確認ください。
「教師修練 実施要項」はこちらから→
- ※コードが読み取れない方は各教務所までお問い合わせください。
- 【お問い合わせ】 研修道場(Tel: 075-371-9271)または各教務所



2025年度下半期 教師修練【後期】(教師補任)実施要項

- 【目 的】 教師修練は、教師の初補を受けるにあたり、仏祖崇敬の念をもって、教法を聞思し、儀式執行の行儀を習得して、宗門荷負の責務を自覚せしめることを目的とする。
- 【期 間】 A 2026年1月24日(土)～1月30日(金)【定員15名】
書類提出締切：2025年12月17日(水)
B 2026年2月14日(土)～2月20日(金)【定員10名】
書類提出締切：2026年1月9日(金)
C 2026年3月3日(火)～3月9日(月)【定員5名】
書類提出締切：2026年1月27日(火)
※必ず書類提出前に受講希望者本人が研修道場までご連絡ください。定員になり次第、締め切ります。
※受講希望の連絡は、2025年11月4日(火) 午前9時から受け付けます(電話受付は16時30分まで)。
- 【場 所】 真宗本廟 研修道場〔京都市下京区烏丸通七条上る 真宗本廟(東本願寺)内〕
- 【資 格】 教師試験検定合格者および無試験検定有資格者で、前期修練修了後3ヵ月以上を経て、且つ3年以内の者
- 【提出書類】 ①教師修練願書 ②教師補任願書 ③履歴書 ④受講者事前資料【後期】⑤身元(身分)証明書
※①～④は、所属教区の教務所から取り寄せてください。
※⑤は「成年被後見人または被保佐人の通知を受けていない。破産宣告または破産手続き開始の通知を受けていない」という証明です。住民票や戸籍抄本ではありません。各自の本籍地の役所で、3ヵ月以内に取得したものを提出してください。
※無試験検定有資格者は、①～⑤のほか「大谷派教師課程単位取得証明書および卒業証明書」が必要です(単位を取得した学校・学院で発行)。
- 【レポ ー ト】 『信の回復』、『靖国問題学習資料集』所収の、①「はじめに」(5頁～8頁)、②「資料3」靖国神社法案(18頁)、③「資料7」母一人子一人の愛児を御国に捧げた譽れの母の感涙座談会(23頁)、④「『戦争』を荷負った教団」(35頁～37頁)、⑤「資料11」非戦と追悼—私たちはどこに立つのか(60頁～68頁)を読んで、「靖国問題を学ぶにあたって、書籍『信の回復』のタイトルがなぜ『信の回復』なのか、について思うこと」を書いたレポート(500字以上1,000字以内)を書類とともに提出のこと
- 【書類提出締切】 所属教区の教務所に上記締切日の16時までに提出のこと
- 【修 練 受 付】 研修道場隣接の和敬堂にて、修練初日の午前8時～8時30分(時間厳守。遅刻者は受け付けません)
- 【冥 加 金】 75,000円[研修冥加金]・70,000円[補任冥加金](すべて修練初日の受付時に納入)
- 【修 練 内 容】 講義(全文筆記を原則とします)・学習・攻究・座談・声明作法・清掃奉仕等
- 【そ の 他】 「服装・携行品」「教師修練にあたっての注意事項」については宗派ウェブサイト内の「教師修練 実施要項」の【その他】(青字表記)から必ずご確認ください。
「教師修練 実施要項」はこちらから→
- ※コードが読み取れない方は各教務所までお問い合わせください。
- 【お問い合わせ】 研修道場(Tel: 075-371-9271)または各教務所



本廟部 式務所

〒600-8505 京都府京都市下京区烏丸通七条上る常葉町754番地
TEL.075-371-9188 FAX.075-371-9205

2025年度 登高座作法講習会開催要項

登高座作法講習会は、経導師及び式導師として必要な読法や作法について習得することを目的として開催します。

- 1 期 間 2026年1月13日(火)から16日(金)まで
2 会 場 本廟部式務所2階 北大広間
3 日 程 13日 9時30分 受付
10時～17時 開会・読法講習
14日・15日 10時～17時 作法講習
16日 10時～12時 作法講習・伝授考査
13時～17時 考査・閉会
- 4 受講資格 報恩講式(私記)及び嘆徳文拝読許可済み(自坊に限る)である大谷派教師
5 募集人数 15名
6 申込締切 2025年12月19日(金) 本廟部式務所必着 ※定員になり次第、締切といたします。
7 申込方法 所定の「登高座作法講習会受講願書」(教務所に有)に必要な事項を記入し、教務所へご提出ください。
本廟部式務所にて受付後、受講証を送付します。受講願書は宗派ウェブサイトより印刷も可能です。
50,000円(当日、受付にてお納めください)
8 研修費加金 10,000円(考査合格後にお納めください)
9 願事礼金
10 持ち物 袈附、五条袈裟、差貫(※作法上、差袴はご遠慮ください)、本装束念珠、中啓、間衣、輪袈裟、小念珠、白服、『登高座作法稽古本』(東本願寺出版)、「式嘆徳文」、印鑑、筆記用具、スリッパ、その他必要なもの
11 その他 (1) 考査に合格した場合、申請により「登高座作法」が許可となり、所属する寺院(本山、別院を除く)以外においても作法を行うことができます。
(2) 宿泊場所は各自で手配願います。
(3) 自家用車の駐車はできません。公共交通機関のご利用をお願いいたします。

2025年度 御伝鈔作法講習会開催要項

御伝鈔作法講習会は、御伝鈔拝読に必要な読法や作法について習得することを目的として開催します。

- 1 期 間 2026年2月4日(水)から6日(金)まで
2 会 場 本廟部式務所1階 大広間
3 日 程 4日 9時30分 受付
10時～17時 開会・講習
5日 10時～17時 講習
6日 10時～17時 講習及び考査・閉会
- 4 受講資格 御伝鈔拝読許可済み(自坊に限る)である大谷派教師
5 募集人数 10名
6 申込締切 2026年1月9日(金) 本廟部式務所必着 ※定員になり次第、締切といたします。
7 申込方法 所定の「御伝鈔作法講習会受講願書」(教務所に有)に必要な事項を記入し、教務所へご提出ください。
本廟部式務所にて受付後、受講証を送付します。受講願書は宗派ウェブサイトより印刷も可能です。
40,000円(当日、受付にてお納めください)
8 研修費加金 10,000円(考査合格後にお納めください)
9 願事礼金
10 持ち物 袈附、五条袈裟、差貫、半装束念珠、中啓、間衣、輪袈裟、小念珠、白服、『真宗大谷派 御伝鈔拝読稽古本』(東本願寺出版)、印鑑、筆記用具、スリッパ、その他必要なもの
11 その他 (1) 考査に合格した場合、申請により「御伝鈔作法」が許可となり、所属する寺院以外においても作法を行うことができます。
(2) 申込者が4名に満たない場合は開催しない可能性があります。開催の有無については、追って当部からご連絡いたします。
(3) 宿泊場所は各自で手配願います。
(4) 自家用車の駐車はできません。公共交通機関のご利用をお願いいたします。

【お問い合わせ】 本廟部式務所 TEL：075-371-9188(平日9時～17時)／FAX：075-371-9205

本廟部 式務所

〒600-8505 京都府京都市下京区烏丸通七条上る常葉町754番地
TEL.075-371-9188 FAX.075-371-9205

2025年度 一般声明講習会「儀式・声明の心得」開催要項

一般声明講習会は、普通寺院・教会における基礎的な儀式・声明作法の習得を目的に開催します。

本年は基本的な声明作法に加え、「葬儀式」をテーマに講習会を開催いたします。

- 1 期 間 2026年1月7日(水)から1月9日(金)まで
2 会 場 本廟部式務所1階大広間
3 日 程

1日目		2日目		3日目	
9:30	受付	9:00	講 習	9:00	講 習
10:30	開会式				
11:10	講 習				
12:00	昼休み	11:50	昼休み	11:50	昼休み
13:00	講 習	13:00	講 習	13:00	講 習
				13:50	閉会式
16:50	終了	16:50	終了	閉会式終了後	清 掃

- 4 内 容 (1) 基 礎 編 正信偈草四句目下、念讃海三、同朋奉讃、日常の莊嚴とお給仕等
(2) テーマ編 「報恩講」 正信偈真四句目下、念讃海五、報恩講御陀、報恩講和讃・文類偈草四句目下・報恩讃御文・御俗姓御文、莊嚴・法要構成・内陣心得

- 5 受講資格 有僧籍者
6 募集人数 60名
7 申込締切 2025年12月19日(金) 本廟部式務所必着 ※定員になり次第、締切といたします。
8 申込方法 所定の「一般声明講習会申込書」(教務所に有)に必要な事項を記入し、教務所へご提出ください。本廟部式務所にて受付後、受講証を送付します。なお、申込書は宗派ウェブサイトより印刷も可能です。
9 研修費加金 15,000円(当日、受付にてお納めください)
10 持ち物 『真宗大谷派声明集』『真宗の儀式』(東本願寺出版)、『報恩講勤行集』(法藏館) 服装(間衣、輪袈裟、小念珠)、筆記用具、スリッパ、その他必要なもの
11 その他 (1) 宿泊場所は各自で手配願います。
(2) 自家用車の駐車はできません。公共交通機関のご利用をお願いいたします。

【お問い合わせ】 本廟部式務所 TEL：075-371-9188(平日9時～17時)
FAX：075-371-9205

真宗本廟奉仕のご案内

「同朋会館」は、全国から集う方々が寝食を共にし、親鸞聖人の教えを聞き、真宗門徒の生活を習う聞法の道場です。ご門徒・お友達を誘って、真宗本廟奉仕にご参加ください。

お申し込みは上山希望日の40日前までに行ってください。

テーマのある奉仕団のお申し込みはこちら…



テーマのある真宗本廟奉仕のご案内

◆真宗本廟おみがき奉仕団 申込締切：2026年1月22日(木)

【2泊】3月2日(月)～3月4日(水)／【1泊】3月2日(月)～3月3日(火)

春の法要を迎えるにあたって、真宗本廟内の仏具のおみがきを両堂の縁で行います。

◆真宗本廟春の法要奉仕団 申込締切：2026年2月21日(土)

【2泊】4月1日(水)～4月3日(金)／【1泊】4月1日(水)～4月2日(木)

宗祖親鸞聖人の御誕生を縁とした親鸞聖人御誕生会（音楽法要）や全戦没者追弔法会等の「春の法要参拝」を中心とした奉仕団です。

【参加費】〈2泊3日〉18,000円、米2kg（1升4合）または米代1,300円

〈1泊2日〉13,000円、米1.2kg（8合）または米代800円

※上記は大人（15歳以上）の場合です。

●真宗本廟奉仕施設の利用について…



●「縁」一納骨・帰敬式同朋会館宿泊プラン…
納骨・帰敬式でのご参拝の際、同朋会館にご宿泊いただけます。



【研修部（同朋会館） TEL：075-371-9185】

現在受付中の募集・開催要項等

詳細は本誌もしくは宗派公式ウェブサイトをご覧ください。

◆第14回世界同朋大会のご案内（本誌10月号39頁）

申込期間：2025年9月1日(月)～2026年3月31日(火)

組織部（国際室）【TEL：075-371-9187／E-mail：kokusai@higashihonganji.or.jp】



月刊 どうぼう

同朋

まずは、お寺で1冊ご購入ください！

◇ご門徒へのプレゼント、法要・行事の記念品としてもご利用ください。

仏教がみちびく、あらたな人生

「同朋」は生活の視点から、
浄土真宗に親しむための月刊誌です



12月号特集 異なりを生きあう翻訳

〈インタビュー〉

“他者”の言葉を生きる翻訳の営み／鴻巣友季子（翻訳家、文芸評論家）

〈寄稿〉

翻訳—関係するための新しい言葉を探して／榎本 空（文筆家、翻訳家）

生きあうトランス文学／佐々木楓（トランス・フィア文学研究）

知と魂の冒険——『源氏物語 A・ウェイリー版』を翻訳して／森山 恵（詩人、翻訳家）

異なるもの同士が接触して新しい文化が生まれる／原 正人（フランス語翻訳家）

ここではない世界の楽しみ／宇野和美（スペイン語翻訳家）

マッチングアプリで港区に住む美人で裕福な女社長に出遭ったら

ロマンス詐欺だった件について／李 夢峰（作家、日中翻訳家）

ストロを「経」と訳したそのときに／船山 徹（京都大学人文科学研究所教授）

巻頭インタビュー 古澤裕介（俳優）

魅力ある連載をご紹介します



小説家
名倉 幹



哲学者
谷川嘉浩



大谷大学名誉教授
ロバート F. ローズ



小説家
岩川ありさ

小説「一切の幸せ」

お問い合わせ

◆FAX・電話・ハガキ・メール、またはオンラインショップでお申し込みいただけます。

◆代金は、『同朋』と共に送付いたします振込用紙にて、お支払いください。

〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る

東本願寺出版「同朋」係

TEL：075-371-9189 FAX：075-371-9211

メール：books@higashihonganji.or.jp

息できる風景

対話 生きづらいこの世界でも

日々平熱のソウル

ペコロスのほどけてしゃがんで

マンガ家
森泉岳士

ジャーナリスト
竹田ダニエル

ミュージシャン
中田 亮

マンガ家
岡野雄一

●毎月1日発行

●A4判 フルカラー60頁

●購読料 年間 4,400円（税込・送料込）

1冊 440円（税込・送料別）

2025年7月号から価格改定

大谷祖廟（親鸞聖人御廟所）のご案内

大谷祖廟は親鸞聖人の御廟所であり、聖人をはじめ、本願寺の歴代、全国各地の寺院・ご門徒の方々のご遺骨が納められています。

開門：5時 閉門：17時

納骨・永代経・読経受付時間 8時45分～11時30分／12時45分～15時30分

※11時30分～12時45分までは受付を休止しています。

永代経法要 毎日14時30分～15時 定例法話 毎月13日・28日（8/13、9/28、11/28、12/28は休止）
永代経法要後

のう こつ えい たい きょう
納骨・永代経



※外装を除く、高さ15cm・直径9cm（3寸壺以下）を超える容器であり、1種から4種で納骨のお申込みをされる場合は、納骨体数毎に志納額に20,000円を加算してご志納いただきます。

※改葬（墓じまい等）の場合は容器の大小問わず、志納額に20,000円を加算してご志納いただきます。

※納骨された遺骨はお返しすることができません。

種別	志納額	読経	お取り扱い
別座1等	1,000,000円以上	別座読経	納骨当日、抹茶接待 毎月の命日・春秋彼岸会・盂蘭盆会に永代読経 祥月命日・春秋彼岸会に30年間案内状送付
別座2等	500,000円以上		納骨当日、抹茶接待 毎月の命日・春秋彼岸会に永代読経 祥月命日・春秋彼岸会に20年間案内状送付
別座3等	300,000円以上		納骨当日、抹茶接待 毎月の命日・春秋彼岸会に永代読経 祥月命日・春秋彼岸会に10年間案内状送付
別座4等	150,000円以上		毎月の命日に永代読経 祥月命日に10年間案内状送付

種別	志納額	志納額 【容器大／改葬】	読経	お取り扱い
1種	100,000円以上	120,000円以上	一座読経	毎月の命日に永代読経。祥月命日に10年間案内状送付
2種	70,000円以上	90,000円以上		祥月命日と彼岸会（春または秋）に永代読経
3種	40,000円以上	60,000円以上		彼岸会（春または秋）に永代読経
4種	20,000円以上	40,000円以上		永代経のお取り扱いはございません

かいそうのうこつ し 改葬納骨志

「墓じまい」等に伴って、改葬されたご遺骨を受付する際に、「法名」・「俗名」・「命日」等の情報が必要で不明の場合、改葬納骨志20万円以上のご志納により受付させていただきます。

詳細内容を確認させていただくため、改葬納骨志を希望される場合は、事前に大谷祖廟事務所までお問い合わせください。

ど きょう
読経

（お経のみのお扱いです）



種別	志納額	場所	読経の扱い
賀慶殿別座読経	70,000円以上	賀慶殿	別座読経
茶所別座読経	50,000円以上	茶所仏間	別座読経
本堂読経	7,000円以上	本堂	一座読経
茶所読経	5,000円以上	茶所仏間	一座読経
御廟読経	5,000円以上	御廟	一座読経
総経	1,000円以上	御廟	夕刻に総じて読経

●団体参拝について…



●仏前結婚式について……



●施設利用について…



【大谷祖廟事務所 〒605-0071 京都市東山区円山町477
TEL：075-561-0777 FAX：075-533-0780】



真宗教化センター しんらん交流館のご案内

教化情報の発信・交流の拠点として、人と人をつなぐ地域に開かれた行事を開催しています。

東本願寺日曜講演 9時30分～11時

12月7日 大谷大学文学部専任講師 松金直美氏「錦絵に描かれた東本願寺北海道開拓」

12月14日 大谷大学教授 藤枝 真氏「『いのちの贈り物』言説を再考する—移植医療の宗教学—」

12月21日 教学研究所所員 名和達宣氏「僧伽の理想—安田理深師の僧伽論を通して—」

※12月28日は休会

◆月刊法話『ともしび』（日曜講演の法話を収録）

2025年12月号「真宗における「聖教」—聞思の書を紐解く—」本明義樹氏（大谷大学准教授）

1部130円（本体119円＋税10％・送料別）

お申し込みは東本願寺出版（TEL：075-371-9189）まで



しんらん交流館定例法話 お勤め14時～、法話14時30分～15時30分（毎月12日・27日は10時～）

※毎週火曜日・12月20日・12月26日～1月10日休会。その他都合により休会する場合があります。

12月の日程はこちら…



電話相談「東本願寺 いのちとこころの相談室」 毎週木曜日13時～17時

皆さまのお悩み・ご相談をお聞きます。 TEL：075-371-9280

東本願寺文庫・絵本コーナー 9時～16時30分 ※絵本コーナーの閲覧は17時まで

書籍・絵本の閲覧、貸し出しを行っています。

浄土真宗ドットインフォ（しんらん交流館ホームページ）のご案内

お寺のサポート情報・浄土真宗の教えにふれる情報を配信しています。



【真宗教化センター しんらん交流館 【開館時間／9時～17時 休館日／毎週火曜日】
〒600-8164 京都市下京区諏訪町通六条下る上柳町199番地
TEL：075-371-9208 メール：shinrankoryukan@higashihonganji.or.jp】

真宗本廟 参拝接待所のご案内

真宗本廟収骨・読経・帰敬式・お斎・団体参拝の受付を行っています。【開所時間／9時～16時】
【真宗本廟開門・閉門時間／3月～10月：5時50分～17時30分、11月～2月：6時20分～16時30分】

各種お申し込み受付時間・お取り扱いの予定は本誌68頁～69頁



真宗本廟収骨



法義相続・本廟護持を願いとする相続講金を12万円以上お納めいただきますと、その御扱いとして、御影堂の宗祖親鸞聖人御真影のもとに、ご遺骨をお収めさせていただきます。

- 事前の手続き**
- ①相続講金をお手次ぎ(所属)の寺院・教会をとおしてお納めいただき、所定の手続きの上、「真宗本廟収骨證」の発行を受けてください。参拝接待所では、「収骨證」発行の手続きをしております。必ず事前手続きを行ってください。
 - ②「収骨證」発行の際に配布される参拝案内冊子『参拝される皆さまへ』(真宗本廟収骨・読経取り扱い表付)を参照の上、参拝される3週間前までに宗派公式ウェブサイトから届出いただくか、事前届出ハガキに参拝予定日・参拝人数等をご記入いただき、参拝接待所までご送付ください。
- ※「収骨證」1枚につき、1体のお収めとなります。
- 当日の受付**
- ①ご遺骨に「収骨證」を添えて、受付時間内に参拝接待所にて手続きください。
 - ②ご遺骨は参拝接待所にて7cm角の桐箱にお移し替えいたします。お収めしたご遺骨はお返しできません。また桐箱の容量を超えるご遺骨はお返しすることになります。

《お斎付真宗本廟収骨について》
※相続講金を1体につき30万円以上お納めいただきますと、規定人数分(3名)のお斎の接待があります(要事前申込)。
詳細は教務所または参拝接待所までお問い合わせください。

本山読経



本山永代経 御影堂にて永代経の御紐解(初めての読経)を行い、『法名記』に登載します。以後、春・秋彼岸会中にお勤めする「永代経総経」にご案内いたします。

御影堂読経 御影堂にて一座読経いたします。受付時に法名紙をお渡しし、代表者に法名を清書いただきます。法名紙は読経の際(焼香時)に広蓋に納めていただきます。

仏間読経 参拝接待所仏間に一座読経いたします。参拝接待所受付に当日お申込みください。

※都合により読経場所を変更する場合があります。

種別	読経志	読経扱	お斎接待
本山永代経	別座特等	1,000,000円以上	完全別座
	別座一等	500,000円以上	別座
	別座二等	300,000円以上	別座
	別座三等	200,000円以上	別座
	四等	100,000円以上	一般
	五等	50,000円以上	一般
御影堂読経	30,000円以上	一般	なし
仏間読経	10,000円以上	随時	なし

《本山永代経・御影堂読経の事前の手続き》

- ①読経志をお手次(所属)の寺院・教会をとおしてお納めいただき、所定の手続きの上、「永代経御紐解證」・「御影堂読経参詣證」の発行を受けてください。
 - ②「永代経御紐解證」・「御影堂読経参詣證」発行の際に配布される参拝案内冊子『参拝される皆さまへ』(真宗本廟収骨・読経取り扱い表付)を参照の上、参拝される3週間前までに宗派公式ホームページから届出いただくか、事前届出ハガキに参拝予定日・参拝人数等をご記入いただき、参拝接待所までご送付ください。
- ※本山永代経四等、本山永代経五等、御影堂読経は当日申込できます。

《本山永代経・御影堂読経の当日の受付》

- 「永代経御紐解證」または「御影堂読経参詣證」を必ず持参の上、受付時間内に参拝接待所にて手続きください。
- 《完全別座読経について》 読経志100万円以上お納めいただきますと、親族のみでの別座にて読経の上、希望数のお斎の接待があります(要事前申込)。
- 《別座読経について》 読経志を20万円以上お納めいただきますと、別座(同日に他に別座の申込がある場合はご一緒の案内)にて読経の上、上記のとおりお斎の接待があります(要事前申込)。
- ※完全別座、別座の受付は10時までとなります。当日は10時までに受付をお済ませください。

帰敬式



帰敬式は、仏・法・僧の三宝に帰依し、仏弟子となる大切な儀式です。
真宗本廟では、基本的に毎日、午前と午後には執行しています。

当日の受付 参拝接待所にて9時から受付をいたします。
お礼金 お一人10,000円(20歳以下5,000円)

- お斎について……………
精進料理のお膳を書院でお召し上がりいただけます。
- 真宗本廟団体参拝について……………
諸殿拝観や清掃奉仕等を通して、真宗の教えにふれていただくことを願っています。



晨朝法話・真宗本廟法話

晨朝【阿弥陀堂及び御影堂】毎日7時～ 晨朝法話【御影堂】毎日7時30分頃～
真宗本廟法話【視聴覚ホール・御影堂・参拝接待所仏間】
通常：10時10分～／13時10分～ 連夜日(12日・27日)：13時10分～
御命日(28日)：9時30分～ 法要・法話のご案内…

参拝接待所ギャラリー 9時～16時 入場無料

「人権週間ギャラリー展」12月4日(木)～12月24日(水) 「親鸞聖人のご生涯」(常設展)

渉成園(枳殻邸)

開園時間 〈3月～10月〉9時～17時(受付は16時30分まで)
〈11月～2月〉9時～16時(受付は15時30分まで)

庭園維持寄付金 一人700円以上(高校生・中学生300円以上、小学生以下無料)

【本廟部・参拝接待所 TEL：075-371-9210】



渉成園

2026年1月

真宗本廟―収骨・読経・帰敬式―受付時間表

※帰敬式について、住職選定法名での受式をご希望の場合は、受式の1ヵ月前までに参拝接待所までお申し込みください。

受付	収骨・読経		帰敬式		法話		備 考
	午前	午後	午前	午後	10:10	13:10	
日 曜	10:10まで	13:10まで	10:10まで	13:10まで			
1 木	【年始】 収骨・読経・帰敬式のお取扱いはありません (仏間読経のみお取扱いがあります)。 ご遺骨を持参された場合、参拝接待所にて お預かりし、11日にお取めいたします。				×	×	修正会（～7日）
2 金					×	×	
3 土					×	×	如信上人御祥月命日連夜
4 日					×	×	
5 月					×	×	
6 火					×	×	
7 水					×	×	
8 木					×	×	
9 金					×	×	
10 土					×	×	
11 日	●	●	●	●	●	●	
12 月	×	● (14:10)	×	● (14:10)	×	●	午前御莊嚴 先門首御命日連夜
13 火	●	●	●	●	●	●	
14 水	●	●	●	×	●	●	嚴如上人御祥月命日連夜兼 歌徳院殿御命日連夜
15 木	×	×	×	×	×	●	午前御莊嚴
16 金	●	●	●	●	●	●	
17 土	●	●	●	●	●	●	
18 日	●	●	●	×	●	●	覺如上人御祥月命日連夜
19 月	●	●	●	●	●	●	
20 火	●	●	●	●	●	●	
21 水	●	●	●	●	●	●	
22 木	●	●	●	●	●	●	
23 金	●	●	●	●	●	●	
24 土	×	×	×	×	×	●	午前御莊嚴 蓮如上人御命日連夜 法然上人御祥月命日連夜
25 日	×	×	×	×	×	×	法然上人御祥月命日中 御莊嚴払い
26 月	●	●	●	●	●	●	
27 火	×	● (14:10)	×	● (14:10)	×	●	午前御莊嚴 宗祖聖人御命日連夜
28 水	●	×	●	×	9:30	×	宗祖聖人御命日日中
29 木	●	●	●	●	●	●	
30 金	●	●	●	●	●	●	
31 土	●	●	●	●	●	●	

2026年2月

真宗本廟―収骨・読経・帰敬式―受付時間表

×―お取扱いなし ●―お取扱いあり ※受付は9:00より開始、()―受付締切変更時間

受付	収骨・読経		帰敬式		法話		備 考
	午前	午後	午前	午後	10:10	13:10	
日 曜	10:10まで	13:10まで	10:10まで	13:10まで			
1 日	●	●	●	×	●	●	實如上人御祥月命日連夜
2 月	●	●	●	●	●	●	
3 火	●	●	●	●	●	●	
4 水	●	●	●	●	●	●	
5 木	×	×	×	×	×	●	彰如上人御祥月命日連夜
6 金	●	●	●	●	●	●	
7 土	●	●	●	×	●	●	現如上人御祥月命日連夜
8 日	●	●	●	●	●	●	
9 月	●	●	●	●	●	●	
10 火	●	●	●	●	●	●	
11 水	●	●	●	●	●	●	
12 木	×	● (14:10)	×	● (14:10)	×	●	午前御莊嚴 先門首御命日連夜
13 金	●	●	●	●	●	●	
14 土	●	●	●	×	●	●	歌徳院殿御命日連夜
15 日	●	●	●	●	●	●	
16 月	●	●	●	●	●	●	
17 火	●	●	●	●	●	●	
18 水	●	●	●	●	●	●	
19 木	●	●	●	●	●	●	
20 金	●	●	●	●	●	●	
21 土	×	×	×	×	×	●	午前御莊嚴 乘如上人御祥月命日連夜 聖徳太子御祥月命日連夜
22 日	×	×	×	×	×	×	聖徳太子御祥月命日日中 御莊嚴払い
23 月	●	●	●	●	●	●	
24 火	●	● (14:10)	×	● (14:10)	●	●	善如上人御祥月命日連夜(引上)兼 蓮如上人御命日連夜
25 水	●	●	●	●	●	●	
26 木	●	●	●	●	●	●	
27 金	×	● (14:10)	×	● (14:10)	×	●	午前御莊嚴 宗祖聖人御命日連夜
28 土	●	×	●	×	9:30	×	宗祖聖人御命日日中 住職任命式

真 宗 2025 年 (第1450～第1455号)

[illegible]

	(第五四四号)
五月号	
樹心佛地「曼陀式実踐運動」二十年	3、2
岩田の働き	1
2025年度・真宗本廟「春の法要」開始と土人三十三回忌法要 石川一雄さんとのご逝去にともなう「猿山事件」に関する 宗務審議長コメントを発表	
宗務審議会・真宗本廟を中心としたタロコカデザインに 関する委員会 答申御覧	
「京の冬の旅」で宮御殿・板下亭を特別公開 重要文化財「内寺建物」初の一般公開	
東日本大震災「物忘れ」の初の一報	
儀式指導研究所からのお知らせ 漢字谷津派「儀式研究」発刊の願いと訂正、追記箇所について	
六次産業化推進プロジェクトのご案内	
お知らせ	
東本願寺版定期刊行物及び商品配送料の価格改定について	14
宗務所から「教区から	15
真宗本廟奉仕「緑・諸師修報告」「山上報告」 (広報)月刊「同朋」誌新編集版が「私」として意味のある哲学」 しんらん文庫館ホームページ（浄土宗ウェブサイト）のご案内	21
真宗教育センターしんらん交際館のご案内 (公団運営)東本願寺日曜堂講演しんらん交誼会定期活話	23
各蓮友連歌	24
教師だより⑤	26
ハンセン病はましまつ	30
青少年センターニュース	32
幼児教化のページ②	38
児童教化のページ③	39
今月の寺町 高山別院開道寺 おまつりレール？思いをつづる。	41
案内・要項	44
総合相談室	46
真宗本廟奉仕施設への施設利用について	48
真宗本廟奉仕のご案内	49
2025年度上野支店活動計画書(前期・後期)(教輔担当・実施要項)	51
2025年度上野支部活動計画書(前期・後期)(教輔担当・実施要項)	52
第31回「真宗大会派遣者大会」開催について	53
2025年下期試験受験決定通知	54
若者教化立ち上げ促進プロジェクト募集要項	56
2025年度真宗本廟朝子も奉仕団開催要項	57
真宗本廟団体参拝待合のご案内	59
真宗本廟「参拝待ち場」のご案内	60
真宗本廟「檀越舎」本山境内「地域交流部」法話・参拝接待待合チャラリ！ 御座候(檀越舎)伊藤純和様のご講話	62
真宗本廟取組「読経・婚式の受付時間表」	64
大谷祖嗣(親皇聖人御廟所)のご案内	66
大谷祖嗣の施設利用について	67
公示・告示・任免等	

六月号 (第一四五五号)		樹心淨地「本南護持」と「新たなご縁づくり」
2	3	因指定重要文化財「手水屋形の修理工事完了式」を執行
4	5	第1回「聖教報社委員会」を開催
6	7	喜代子校・被爆婦人委員会「二世」開校
8	9	四国教区「宗祖親王・御誕生八百年・立正安国六百五十年感謝要覧」献納
10	11	〔災害救済本部より〕
12	13	2025年度3月発足のミランマー地蔵堂に係る宗派対応について
14	15	お知らせ
16	17	「坂本 教信信」カラリ影印編輯本「予約受付開始
18	19	東本願寺版「定期刊行物」及び「細支送料」の価格改定について
20	21	宗務所から「教区」から
22	23	真宗本願奉仕「緑」諸報修報告「上山」報告
24	25	「真宗」の「同朋」「月分」「持束」「生き抜くための手芸」について
26	27	〔公開講演会「真宗と山」〕「山と交わる真宗の文化」報告(他)
28	29	「各種連載」
30	31	教団だより27
32	33	ハンセン病はいま
34	35	青少年幼年センターニュース
36	37	幼児教育のベリジ
38	39	児童教育のベリジ
40	41	今年のお寺21(九州地区光寺等)「教区」音楽会「ける」報載要項の教へ
42	43	告知
44	45	【案内】要項
46	47	総合相談室
48	49	真宗本願奉仕施設の施設利用について
50	51	2025年度「真宗本願寺」の奉仕団開催要項
52	53	2025年度上・中期教師修「前期」「後期」教師研修「実施要項
54	55	第34回同朋ジュニア大会開催要項
56	57	2025年度夏期試験試験決定要項
58	59	施設法要について
60	61	浄土宗流布「ムベシ」(浄土真宗「ツイン」フォ)のご案内
62	63	真宗本願団体参加の「ご案内」
64	65	真宗本願「参拝接待」の「ご案内」
66	67	〔真宗本願寺「本山」の「施設」の「案内」〕「法話」参拝報告所「ケリ」
68	69	真宗本願「寺」の「施設」の「案内」
70	71	大々相廟(親皇)「御誕生」の「ご案内」
72	73	大々相廟の施設利用について
74	75	【公示】「告示」・「任免書」

目 次

[illegible]

樹心佛地「同期刊談」	3	2
「第73回参議会」	4	1
「是則附録」問題について	5	1
「真宗本大御」おぼれ	6	1
「真宗本大御」儀式軌範	7	1
「能登復興支援法案」能登節々のタペ「助真公開」	8	1
「宗教法人法第2条」勿忘の節2025	9	1
「事務所から」教区から	10	1
「真宗本廟奉仕」緑・諸師修報集「『上山報告』	11	1
「真宗教化センター」しゅうらん交遊館のご案内	12	1
「公開講座」2025年「真宗本廟」の交遊館	13	1
春の法要「春の法要」	14	1
春の法要出仕要項	15	1
春の法要「春の法要」	16	1
「2024年度決算報告」	17	1
「2023年度決算報告」	18	1
「現代の聖典」『修正について』	19	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	20	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	21	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	22	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	23	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	24	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	25	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	26	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	27	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	28	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	29	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	30	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	31	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	32	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	33	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	34	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	35	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	36	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	37	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	38	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	39	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	40	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	41	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	42	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	43	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	44	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	45	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	46	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	47	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	48	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	49	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	50	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	51	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	52	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	53	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	54	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	55	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	56	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	57	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	58	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	59	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	60	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	61	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	62	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	63	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	64	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	65	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	66	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	67	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	68	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	69	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	70	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	71	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	72	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	73	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	74	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	75	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	76	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	77	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	78	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	79	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	80	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	81	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	82	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	83	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	84	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	85	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	86	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	87	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	88	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	89	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	90	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	91	1
「真宗本廟の祖師御覽」の「真宗本廟」	92	1

	三 月 号	(第一四五二号)
巻頭言——2005年「真宗本願」書の法要にあたって	2	
「同朋社会の顕現」 真宗総長 木越 渉	4	
別記	4	
「お釈迦さま参りしやう」 特設ページ公開	4	
〔呉布社 渡路大賞状授与法要兼義経重忠追善読書會〕 開催 お告知	4	
真宗教団連合会議サロンの形状変更及び須知細格の規定について	5	
第31回「真宗大々派教区大会」開催について	7	
2005年度「安山」開設について	9	
大正修学院の新生募集中止について	9	
東本願寺蔵・定規刊行物の印刷費と送料の価格改定について	10	
真宗本願寺から「教区」に関する報告(上) 山根 龍也	12	
真宗本願寺から「教区」に関する報告(下) 山根 龍也	19	
真宗本願寺から「教区」に関する報告(交流の場) 山根 龍也	20	
【ご案内】 2005年「真宗本願」書の法要	22	
春の法要：日程	22	
2005年「春の法要」「暮すの法要」のご案内	22	
春の法要に花まつりホスター・絵はがき頒布を開始	23	
全日本仏教会「花まつりホスター」絵はがき頒布を開始	28	
今般調査は、しない！させない！ゆるさない！	30	
各道管区	31	
北海道管区	31	
ハルビネーショナリズム	32	
幼児少年学級生（ベビーニュース）	36	
幼少教育化のベビーニュース	38	
今日のお寺(2) 「公舎」を居る教区・教区政司(2) 緑をつなぐ	44	
【ご案内】要項	44	
増設相談教室	45	
数院真宗寺院生活指導要項(金沢)	46	
数院本願寺生活指導の施設利用について	47	
真宗本願寺社の2案内(一般職、募集要項)	47	
第2回中央対中声明書公開要項	48	
第2回大同御堂後援会自主参加者募集要項	49	
第24回「女性会議」開催要項	58	
2005年度「真宗本願朝子」本社共同開催要項	60	
若者教化立上げ促進プロジェクト募集要項	61	
「らんらん運動ホーム」募集要項	62	
広報「月刊同朋」3月号「特集」陰謀論をしのごうのご案内	64	
真宗本願寺参拝接待の手案内	64	
真宗本願寺参拝手帳の2案内	65	
〔浄土信託〕「浄土信託」参拝券	66	
〔浄土信託〕「浄土信託」参拝券	66	
真宗本願寺収容所「昼経・傳教式進行時間表」(4月～5月)	70	
大谷相席(親覽型)御座敷のご案内	72	
大谷相席の施設利用について	73	
【公示】告示・任免等	73	

岡崎教区 第27組 立石寺
住 職 安 藤 祐 幸
2025・8・21寂 (73歳)

名古屋教区 第9組 徳圓寺
前住職 武 田 秀 之
2025・8・24寂 (81歳)

京都教区 長浜第16組 浄願寺
前住職 澤 面 章
2025・8・26寂 (88歳)

京都教区 山城第1組 正回寺
住 職 万 年 元 雄
2025・8・11寂 (97歳)

坊守及び前坊守

北海道教区 第12組 光明寺
前坊守 上 野 和 子
2025・5・26寂 (97歳)

北海道教区 第17組 法勝寺
前坊守 佐 藤 明 子
2025・7・25寂 (98歳)

東北教区 青森県第2組 真教寺
前坊守 栗 山 幸
2025・7・6寂 (91歳)

東北教区 盛岡組 永光寺
坊 守 小 原 リウ子
2025・8・3寂 (95歳)

新潟教区 第8組 本覺寺
前坊守 八 木 和 子
2025・7・3寂 (86歳)

富山教区 第9組 慶正寺
前坊守 渡 邊 眞 子
2025・7・28寂 (89歳)

富山教区 第10組 善教寺
前坊守 星 野 佐久子
2025・8・21寂 (94歳)

富山教区 第13組 西順寺
前坊守 名 越 光 子
2025・9・7寂 (96歳)

富山教区 第2組 萬福寺
坊 守 猪 原 真 樹
2025・7・13寂 (46歳)

能登教区 第14組 信行寺
前坊守 伊 賀 千 郁
2025・9・5寂 (95歳)

大阪教区 第20組 善長寺
住 職 秦 成 淳
2025・7・7寂 (66歳)

九州教区 福岡組 受樂寺
前住職 岩 永 證 圓
2025・9・5寂 (88歳)

九州教区 三井西組 憶想寺
前住職 林 恒 昭
2025・7・9寂 (82歳)

九州教区 長崎組 萬行寺
前住職 亀 井 廣 道
2025・8・18寂 (79歳)

福井教区 第1組 浄慶寺
前坊守 佐々木 久美子
2025・8・21寂 (87歳)

大垣教区 第15組 専明寺
前坊守 野 村 登貴子
2025・9・4寂 (83歳)

岐阜高山教区 第5組 恩立寺
前坊守 大 橋 須磨子
2025・8・21寂 (93歳)

岡崎教区 第10組 願正寺
前坊守 三 村 秀 子
2025・8・28寂 (90歳)

岡崎教区 第16組 西心寺
前坊守 近 藤 恵 子
2025・8・8寂 (79歳)

名古屋教区 第30組 法照寺
前坊守 橋 本 照 代
2025・8・14寂 (80歳)

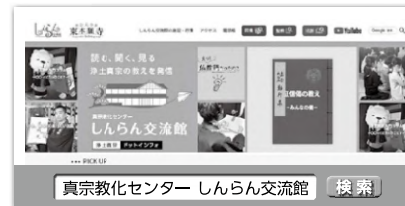
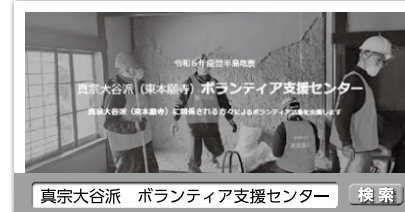
三重教区 桑名組 西恩寺
前坊守 池 田 牧
2025・8・27寂 (87歳)

山陽四国教区 第3組 稱念寺
前坊守 高 橋 和 子
2025・7・10寂 (96歳)

山陽四国教区 安芸南組 浄福寺
前坊守 安 藤 泰 子
2025・8・29寂 (92歳)

九州教区 宮崎組 徳善寺
前坊守 徳 永 田鶴子
2025・8・8寂 (100歳)

宗派関連ウェブサイト等のご案内



【SNSのご案内】

Facebook

- ・真宗大谷派 (東本願寺)
- ・しんらん交流館
- ・東本願寺 同朋会館 (真宗大谷派 研修部)
- ・真宗大谷派青少年センター ・親鸞仏教センター
- ・真宗大谷派 (東本願寺) 真宗会館
- ・真宗大谷派学校連合会



Instagram

- ・東本願寺 しんらん交流館 (shinrankoryukan_higashihonganji)
- ・東本願寺出版 (higashihonganji_bookstore)



X(Twitter)

- ・真宗大谷派 (東本願寺) (@OTANIHA_PR)
- ・真宗大谷派 災害情報 (@otaniha_saigai)
- ・東本願寺出版 (@OTANIHA_BOOKS)



宗派公式ウェブサイトで『同朋新聞』が読みいただけます。

同朋新聞

検索

教師

権大僧正
輝川敬忠
僧正
鳥宮隆法 大澤伸雄
大僧都
北風智史 澤面 章 武田秀之 岩永證圓 林 愷昭
権大僧都
伊藤智秀 泉阿弥華 青山 周 秦 成淳 膝館泰琳
僧都
武田龍一郎 高嶋寧音 酒井龍介 寺澤至恩 橋本唯誠
坪内 香 武田曉瑛 海野 聡 高松勇輝 手島英翔
藤井一範 松谷智秀 狐野唯穂 北島宗昭 西道昌秀
能邨香美 梅田真智 門石柚姫 鈴木璃音 樋口顕信
藤岡真幸 大原善真 三保谷深 楨野大心 上杉法恵
藤井飛成 荒木 直 山内 崇 橋本直樹 山田龍文
几 恵誓 中澤寿浩 藤 慈門 井石大翔 今井 優
吉田智生 杉本来義 稲垣羅漢 本谷来生 原水大空
大塚香蓮 廣瀬有慶 高橋淳真 一ノ宮恵裕 力石 光
浅野顕成 甘城智真 大内礼真
権僧都
加藤 慶
律師
藤田 蒼 玉井啓亮 藤山佳乃子 八木顕太郎
飯田唯人 蜂屋良純 真木彌南海 後藤祐護 清原麻美
古賀竜美 徳永 真 杉本勝規 原子智敬 高橋 悟
権律師
小島かおり 石田秀正 稲葉教信
法師位
金浦 乗 名川朋宏 加藤はるか 村田 実 石澤 開
中藤貴信 石田至宏 岡本一騎 細谷三千照 森口 学
大塚 正 新田和規 加藤一絵 鈴木 亮 長守 然
今井亮嘉 小長谷行真 梅溪祐誓 渡邊真英 後藤洋明
益田 尽 沙加戸敦生 山内眞也 藤本 真 村上有希
内田里和 村上亮平 市地春彦 廣瀬朋輝 吉富真生
有泉研一 大谷瑠美子 安藤祐幸 今西教映
満位
酒井悠真 金澤龍哉 藤井学恵 鈴木康裕 寺西海慧
赤城暁子 高橋由衣奈 高橋一馬 大村 大 末森逸子
波佐谷佳奈 波佐谷友幸 藤永 悟 小林 真
北島紘昭 越村貴美 澤野俊英 古卿知也 永吉 証
澤崎琢磨 金 清美 橘智慧子 杉原 響 中村 遼
中村志保 中村淳子 土岐頼慶 嶋津京花 麦田大悟
麦田達弘 佐久間希未 蓮容龍信 友松恵子
矢留不二子 横井怜於 田中泰佑 懸野賢悠 加納有香
小野川恭子 南枝 譲 藤元裕子 玉光奈津子
山科久美子 鷲野幸代 藤岡裕子 笹倉敦子 廣瀬恵美
東 恵子 丹下 理 町田規子 塩塚 成

教導発令

岩松知也 星野 暁 延岡調照 雲乗真樹
建部淳曜 井上孝昌 前田義朗 花園一実
本田彰一 本多雅人 三橋尚伸 佐々木邦之
中根信雄 酒井義一 白山勝久 百々海真
武田定光 荒川正憲 近田聖二 五島 満
松永光司 寺西 聡 伊藤大信 橋本正博
雲井一久 海 法龍 藤尾明信 杉平靖雄
藤谷真之 柴田 崇 池田向一 藤井義信
高濱浩暢 鳥毛浄生 小丸洋子 佐賀枝立
藤場芳子 大飼祐三子 荒山 淳 長 紀子
上本賀代子 南枝尚美 大山健児 三池眞弓
木ノ下秀俊

真宗会館教導に任命します
(2025年10月1日)

得度 (10月7日)

東北教区山形第3組 昌願寺 藤戸唯心
東京教区茨城2組 命照寺 松田大和
東京教区埼玉組 證大寺 井上雅城
東京教区東京5組 明稱寺 高坂実紗緒
東京教区東京5組 存明寺 酒井瑠美
岐阜高山教区第3組 正淨寺 森 初音
岐阜高山教区第3組 正淨寺 森 彩音
大阪教区第8組 受西寺 西受穂乃花
大阪教区第8組 敬覺寺 慈麻衣子
九州教区福岡組 専性寺 福芳恵子
九州教区浮羽組 光福寺 佐藤花恵

功章旌賞

特殊大功章
常本知照 森口 達 橋 有三 亀井廣道
特殊功章
鳥宮隆法 齊藤淨慧 平いづみ 金山智明 藤秀善照
藤井俊朗 吉田朋見
第一功章
高津隆苑 渡辺淨道 磯部剛史 右近祐希 北風智史
第八功章
岩倉彰里
特殊大旌賞
平 宣裕
特殊旌賞
吉田朋見 佐々木弘明
一等旌賞
高津隆苑 渡辺淨道 磯部剛史 右近祐希 北風智史
八等旌賞
永井有悟 秦 康真 渡邊秀志 長守 然 神田由香

武種 悠 武種 慧 松下彰子

所在地変更

九州教区大牟田三池組 圓通寺
福岡県大牟田市中町二丁目11番地1

懲戒

下記のとおり懲戒に処せられたから審問条例第45条
第2項により、これを揭示する。
2025年9月29日
宗務総長 木 越 渉
記
1氏 名 若松 高

2 僧給及び身分 大阪教区第15組 本泉寺 住職
3 懲 戒 譴責
4 判定確定日 2025年9月24日
以上

敬弔

ご生前のご功勞を偲び、謹んで哀悼の意を表します。
(2025年9月16日～10月15日受付まで)

住職及び前住職

北海道教区 第9組 照念寺
前住職 輝 川 敬 忠
2025・6・30寂 (81歳)
東北教区 秋田県西組 順應寺
住 職 原 子 智 敬
2025・8・7寂 (90歳)
東北教区 花巻組 安淨寺
前住職 膝 館 泰 琳
2025・7・5寂 (94歳)
東北教区 花巻組 眞行寺
住 職 今 西 教 映
2025・7・15寂 (65歳)

富山教区 第2組 善福寺
住 職 高 橋 悟
2025・8・7寂 (74歳)
富山教区 第6組 正徳寺
前住職 青 山 周
2025・8・12寂 (85歳)
大垣教区 第6組 誓教寺
住 職 稲 葉 教 信
2025・9・20寂 (79歳)
岡崎教区 第24組 大覺寺
住 職 大 澤 伸 雄
2025・8・26寂 (77歳)

寺宝 正絹金欄緞子
文化財修理修復表装

※正絹本金の場合はお見積りください

毎月全国へ出張訪問中
まずは電話、メールなどでご連絡ください。
日程相談の上参上いたします。

表具幅 83cm まで 正絹 44万円 (税込)

表具幅 70cm まで 正絹 38万円 (税込)

表具幅 70cm まで 正絹 38万円 (税込)

御 絵 伝 ・ 七 高 僧 ・ 聖 徳 太 子

杉 本 工 芸
自社工房内で一貫作業いたします

〒602-8268 京都市上京区山里町 236-1
Tel.075-417-6966
sugikake@gmail.com

そろそろ 修理

見積無料

公示・告示・任免等

公示告示

告示第11号

御正忌報恩講讃仰法要（音楽法要）を下記のとおり執行する。

2025年10月20日

宗務総長 木 越 渉
記

御正忌報恩講讃仰法要（音楽法要）

2025年11月21日 午前10時

装束 裳附 五条袈裟 差貫

以 上

任 免 辞 令

南米開教区開教使補 中村朋大
南米開教区開教使に任命します

(2025年8月1日)

守山恵庸

八尾別院会計に任命します

期限 2028年8月10日まで

(8月11日)

大鳳真証

鹿兒島別院列座に任命します

(9月1日)

赤羽別院書記 大塚光昭

赤羽別院会計の兼務を命じます

期限 2028年9月10日まで

(9月11日)

八島昭雄 柴崎 光 篠塚榮祐 藤井宣行
花園兼有 中川和子 福永莊三 山瀬一美
藤井秀昭 荷堂 岳

中央門徒戸数調査委員会委員を委嘱します

(9月13日)

常本哲生

井波別院輪番に任命します

任期 2027年9月19日まで

(9月20日)

伏見別院列座 藤本正信
願により役務を免じます

(9月30日)

山陽四国教務所主計 蓮元聖吾
名古屋教務所主計に任命します

財務部主事 史陀浩輝
京都教務所主計に任命します

名古屋教務所主計 大島朋昭
山陽四国教務所主計に任命します

京都教務所主計 矢木春香
財務部主事に任命します

東京宗務出張所書記補 四方泰之
東京宗務出張所書記に任命します

亀川由佳里 松田幸典
本願部嘱託に任命します

期限 2026年9月30日まで

壽 朋子

大谷祖廟事務所嘱託に任命します

期限 2026年9月30日まで

藤本直子
京都教務所嘱託に任命します
期限 2026年9月30日まで

大谷祖廟事務所書記 大谷 求
同 齊藤行人
財務部書記の兼務を命じます

財務部主事 矢木春香
宗会事務局主事の兼務を命じます

桑名別院列座 木造崇臣
桑名別院会計の兼務を命じます
期限 2028年9月30日まで

菊池 浩 諸岡 敏 勅使 忍 東野文恵
椋田隆知 清 史彦 吉原憲孝
財産管理審議会委員を委嘱します

菊池 浩 諸岡 敏 勅使 忍 東野文恵
椋田隆知 清 史彦 吉原憲孝
宗務所及び視聴覚ホール の管轄並びに境内設備の改修等
に関する委員会委員を委嘱します

(以上、10月1日)

出版部書記補 嶋田美羽
宗会事務局書記補の兼務を解きます

石村宗明

城端別院会計に任命します

期限 2028年10月7日まで

(以上、10月8日)

住 職 (9月28日)

北海道教区第9組 東雲寺 木村祐樹
東京教区川崎組 徳泉寺 岩 嵩 実
新潟教区第10組 願淨寺 高橋利幸
新潟教区中越12組 光徳寺 菊地彰榮
金沢教区第11組 佛頭寺 古郷知也
岐阜高山教区第3組 上徳坊 宮田正純
岡崎教区第2組 不退寺 藤井章徳
岡崎教区第31組 了見寺 大草 崇
三重教区桑名組 西光寺 荒木智哉

京都教区長浜第13組 柳岸寺
京都教区長浜第15組 真行寺
京都教区長浜第21組 樂入寺
京都教区近江第2組 傳久寺
京都教区近江第10組 圓徳寺
京都教区近江第11組 法専寺
大阪教区第3組 受念寺
九州教区大分東組 蓮乗寺

大野淳天
藤田真梨
門池香有
武村星慈
藤澤雅史
朽木一賢
岸上 仁
藤島法次

住職代務者

東北教区秋田県西組 正覺寺 平 裕
東北教区秋田県西組 西圓寺 児玉圭樹
新潟教区中越11組 願誓寺 菅原多都子
新潟教区第14組 教念寺 木村邦和
新潟教区第4組 皆順寺 日下部幸子
新潟教区第8組 等覺寺 林康一朗
富山教区第13組 輪覺寺 伊東千鳥
能登教区第4組 日宗寺 柏女有教
岡崎教区第7組 明淨寺 嶋津芳直
岡崎教区第8組 福淨寺 信川広司
岡崎教区第12組 照圓寺 藤井明敏
名古屋教区第25組 廣覺寺 服部信浩
三重教区中勢1組 淨専寺 岡本広之
三重教区南勢1組 宝泉寺 香川知剛
三重教区南勢1組 託明寺 香川知剛
京都教区長浜第15組 西福寺 別府憲雄
京都教区近江第9組 善念寺 野々目了
大阪教区第20組 善長寺 藤本裕正
山陽四国教区西讃組 淨證寺 三好一存
九州教区大牟田三池組 極妙寺 三池昌世

教会主管者代務者

北海道教区第1組 國縫教会

田中彰祐

修正会 (2026年版)

●「頭を下げざるを得ない」私への目覚め 一郷正道 (岡崎教区第34組 真勝寺前住職)

●住職になったご縁を大切に ジェシー・釋萌海 (京都教区教賢組 高雲寺住職)

◇特集 真宗本廟 (東本願寺) の鏡餅

113mm×177mm/16頁 定価: 77円(税込)

東本願寺出版 TEL.075-371-9189 FAX.075-371-9211 詳しい書籍情報・東本願寺出版 試し読みは 当派の寺院・教会からの ご注文は2割引となります。

香

創業宝永年間 各宗大本山御用達

香老舗 松榮堂

京都市中京区烏丸通二条上ル東側
〒604-0857 電話 075 (212) 5590 (代)
www.shoyeido.co.jp

東本願寺御用達

日下念珠店

〒600-8174
京都市下京区烏丸通花屋町下ル
電話 (075) 351-6325
フリ・FAX 0120-89-6255
定休日: 日曜日

御香・蠟燭

財木屋

〒602-8034 京都市上京区油小路通丸太町上ル
TEL(075) 231-1063 FAX (075) 231-1068

真宗 12月号

公示・告示・任免等 ご案内・要項

公示・告示・任免等

公示・告示	(2)
任免辞令	(2)
住職	(3)
住職代務者	(3)
教会主管者代務者	(3)
教師	(4)
教導発令	(4)
得度	(4)
功章・旌賞	(4)
所在地変更	(5)
懲戒	(5)
敬弔	(5)

ご案内・要項

宗派関連ウェブサイト等のご案内	(7)
2025年 総目次	(8)
真宗本願収骨・読経・帰敬式受付時間表(1月～2月)	(12)
真宗本願 参拝接待所のご案内	(14)
大谷祖廟(親鸞聖人御廟所)のご案内	(16)
真宗教化センターしらん交流館のご案内	(17)
真宗本願奉仕のご案内	(18)
現在受付中の募集・開催要項等	(18)
(広告) 月刊『同朋』12月号—特集「真なりを生きあう翻訳」	(19)
2025年度 登壇座作法講習会・御伝鈔作法講習会開催要項	(20)
2025年度 一般声明講習会「儀式・声明の心得」開催要項	(21)
2025年度下半期 教師修練【前期】【後期】(教師補任)実施要項	(22)
2026年 春期教師試験検定要項	(24)
2026年「教師資格取得準備学習会」募集要項	(26)
学階請求論文提出要項	(27)
2025年度人権週間ギャラリー展 御同朋からの問いかけ	(28)
2025年度「元気なお寺づくりオンラインセミナー」参加者募集	(29)
真宗本願奉仕・縁・諸研修報告【上山報告】	(30)

本誌に関してのご意見・ご要望をお寄せください。 〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る 東本願寺出版「真宗」誌係
FAX: (075) 371-9211 E-mail: shuppan@higashihonganj.or.jp

2025年(令和7年)12月1日発行 第1461号 1部定価: 275円(本体250円+税10%・送料別 毎月1日発行)

編集 東本願寺出版(真宗大谷派宗務所出版部)
発行所 真宗大谷派宗務所 代表者 木越 渉
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る 電話(075) 371-9181 振替01000-6-27404(出版部)
印刷所 (株)京富士印刷 京都市西京区大枝南福西町3-4

今月の推薦念珠



京念珠「和らぎ」象牙色(虎眼石仕立)
店頭小売価格 8,800円(税込)
主玉に触感の優しい新素材シリコン製の象牙色玉を用い、虎眼石を合わせお仕立

京飾オレンジ翡翠(京都オパール露草色)へ
店頭小売価格 8,800円(税込)
オレンジ色の翡翠に露草色の京都オパールと飾り金具を合わせ、金茶色本願寺でお仕立

※掲載商品のカラー画像はオンラインショップでご覧頂けます。

御法要の記念品は
品質・価格・残った品物の御引取を保証する
念珠の製造専門店

福永念珠舗

創業寛政九年 京都
〒600-8174 京都市下京区東本願寺前上珠数屋町角
電話(075)-351-2960 FAX(075)-351-0018





期間・数量限定

オリジナルクリアファイル プレゼントキャンペーン

期間: 11月1日(土)～1月31日(土)
「法語カレンダー 2026年版」と「今日のことは2026年版」
を同時に購入で法語カレンダーの挿絵をデザインした
オリジナルクリアファイルをプレゼント!

新刊書も発売中! 詳しくは東本願寺出版オンラインショップを
ご覧ください。

【お問い合わせ】東本願寺出版
(TEL: 075-371-9189 ※平日9時～16時)



東本願寺出版 検索



民藝の美

他力の美

若松英輔氏
推薦



民藝の美
それは他力の美
美しくしかないもの。

民藝 他力の美

太田浩史 著

柳宗悦をはじめ民藝運動に参加した様々な
人物のエピソードも交えた29のエッセイで、
民藝とゆかりの深い富山県南砺市に生まれ
育った太田浩史氏が、「他力の美」である民
藝の世界を案内する一冊。

A5変形判／オールカラー・96頁
定価: 2,200円(税込)

東本願寺出版
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る
TEL.075-371-9189 FAX.075-371-9211

詳しい書籍情報・
試し読みは

東本願寺出版 検索

当派の寺院・教会からの
ご注文は2割引となります。

安永4年(1775年)創業



京仏具

小堀



小堀京仏具工房—京都市山科区の仏壇仏具製作工房—

株式会社 小堀 <https://kobori.co.jp/>

本社ショールーム・東京店ショールーム・札幌店ショールーム フリーダイヤル:0120-27-9595(9時~17時)

どんな教えをもとに生きるのか、
それによって人生は変わる

伝道ブックス92

仏法とはどのような 教えか

伊藤 元 著



思いもよらないことが起こるこの世を受け容れ、生きる力をいかに仏法に賜るのか——。

時に厳しく、時に笑いを交えて語る著者渾心のメッセージが込められた一冊。

新書判/120頁
定価: 330円(税込)

この苦悩を解決しないなら、
仏教に意味は無いじゃないか

伝道ブックス93

仏教は内観やでえ

—真宗に導かれた我が人生—

名倉 幹 著



ごく一般的な家庭に生まれた著者が、なぜ僧侶となり、単身で海外布教を志すまでになったのか——。父との死別、そしてひとりの念仏者との出会いをきっかけに始まった仏法聴聞の日々を描く。

新書判/88頁
定価: 330円(税込)



東本願寺出版
HIGASHI-HONGANJI PUBLISHING

TEL:075-371-9189
FAX:075-371-9211

詳しい書籍情報・試し読みは

東本願寺出版

検索

当派の寺院・教会からのご注文は2割引となります。